

「第4次深谷市地域福祉計画・地域福祉活動計画」
策定のためのアンケート調査結果報告書

令和7年3月

深谷市・深谷市社会福祉協議会

目 次

I アンケート調査の概要.....	1
1 調査の目的.....	1
2 調査概要.....	1
3 報告書の見方.....	2
II 市民アンケート調査結果.....	3
1 回答者自身について.....	3
2 地域での暮らしについて.....	9
3 「地域活動・ボランティア活動」について.....	29
4 福祉の取り組みについて.....	38
5 「社会福祉協議会」及び「民生委員・児童委員」について.....	47
6 今後の方向性について.....	55
III 福祉関係団体アンケート調査.....	82
1 貴団体のことについて.....	84
2 活動を通して見える地域の状況について.....	99
3 今後の活動について.....	103

I アンケート調査の概要

1 調査の目的

本調査は、市民の皆様や福祉関係団体・施設等を対象に福祉に対する意識や地域活動への参加状況、活動状況などの実態を把握するとともに、ご意見、ご提言を広くお聞きし、計画策定の基礎資料とするため実施しました。

2 調査概要

項目	市民アンケート調査	福祉関係団体アンケート調査
調査対象者	市内在住の18歳以上の方 (無作為抽出)	市内の福祉関係団体・施設等 ①自治会支会 ②民生委員・児童委員協議会 ③保護司会 ④更生保護女性会 ⑤成年後見 ⑥ボランティア活動団体 ⑦福祉関係団体 計 68 団体
調査期間	令和7年1月10日(金)～2月3日(月)	
調査方法	郵送配布・郵送回収または WEBによる本人回答方式	郵送または直接配布・回収による 本人回答方式
配布数	2,000 件	68 件
有効回収数	953 件	42 件
有効回収率	47.7%	61.7%

3 報告書の見方

- ◇回答結果の割合（％）は、集計対象者数に対するそれぞれの回答数の割合を、小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、単数回答（複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が100.0%にならない場合があります。このことは、本報告書内の分析文、グラフ、表いずれも同様です。
- ◇複数回答（複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、それぞれの回答結果の割合の合計は100.0%を超えることがあります。
- ◇図表中において「不明・無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が困難なものです。
- ◇図表中の「n (number of cases)」は、集計対象者数を表しています。回答者を限定する条件のある設問では、集計対象も限定されるため、nの値が異なる場合があります。
- ◇本文中の設問の選択肢は簡略化している場合があります。
- ◇集計対象者数が少ない（10件未満）クロス集計については、分析文の記載を省略しています。
- ◇本文中に「前回」「前回調査」とあるものは、深谷市が平成31年に実施したアンケート調査の結果を示しています。

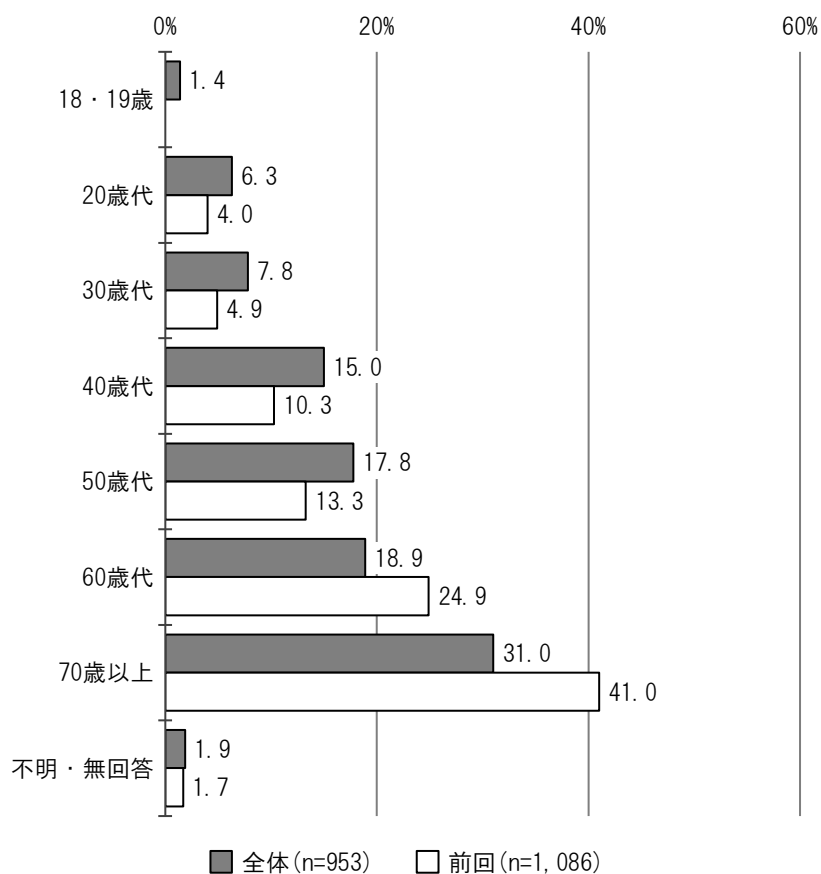
Ⅱ 市民アンケート調査結果

1 回答者自身について

問1 あなたの年代はどれですか。 (単数回答)

全体では「70歳以上」が31.0%と最も多く、次いで「60歳代」が18.9%、「50歳代」が17.8%となっています。

前回調査と比較すると、「60歳代」「70歳以上」で減少傾向がみられます。



※ 今回調査のみの選択肢：「18・19歳」

地区別にみると、すべての地区で「70歳以上」が最も多くなっています。

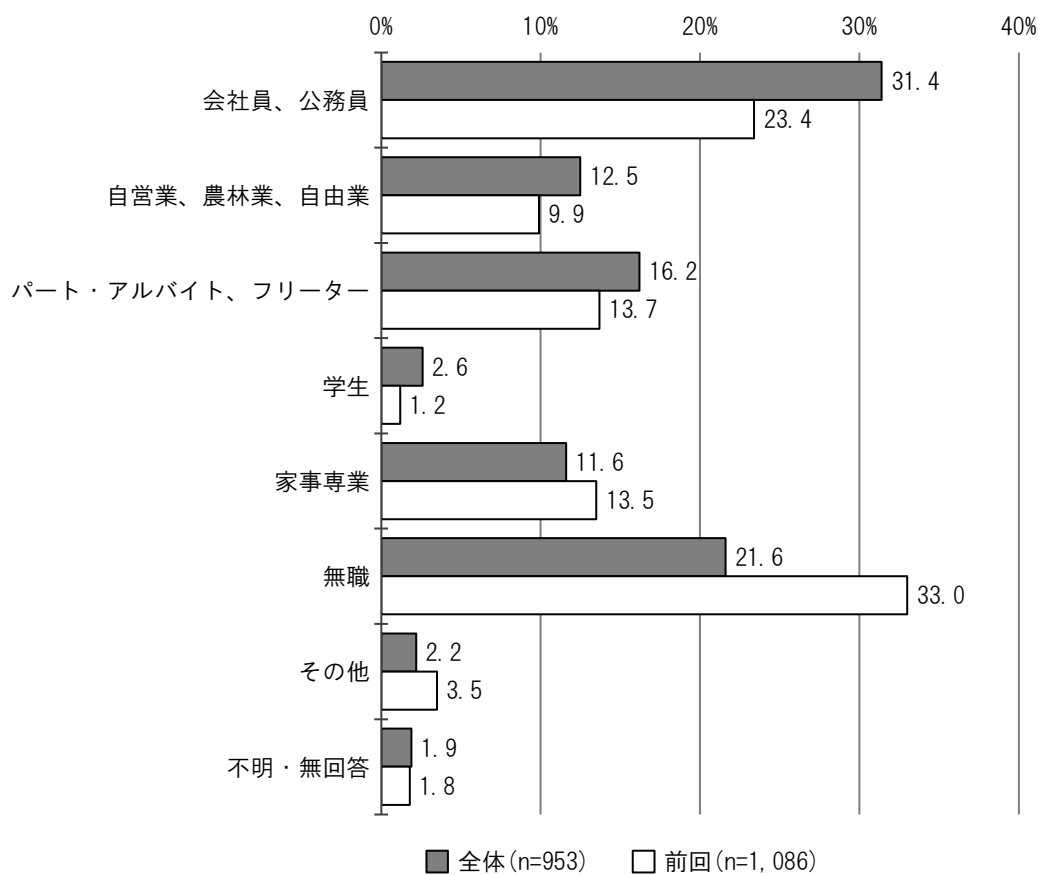
%		18・19歳	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
地区別	全体 (n=953)	1.4	6.3	7.8	15.0	17.8	18.9	31.0
	深谷地区 (n=187)	2.7	10.7	12.3	15.0	14.4	18.7	26.2
	藤沢地区 (n=69)	-	2.9	4.3	15.9	23.2	17.4	36.2
	幡羅地区 (n=59)	1.7	5.1	3.4	11.9	23.7	15.3	39.0
	明戸地区 (n=76)	-	6.6	7.9	17.1	21.1	17.1	30.3
	大寄地区 (n=82)	-	4.9	4.9	18.3	19.5	20.7	31.7
	八基地区 (n=67)	3.0	10.4	9.0	11.9	16.4	22.4	26.9
	豊里地区 (n=69)	-	4.3	7.2	13.0	15.9	21.7	37.7
	上柴地区 (n=64)	3.1	3.1	3.1	20.3	15.6	18.8	35.9
	南地区 (n=32)	3.1	-	12.5	6.3	18.8	18.8	40.6
	岡部地区 (n=80)	1.3	6.3	12.5	16.3	18.8	17.5	27.5
	川本地区 (n=75)	-	8.0	4.0	17.3	17.3	18.7	34.7
	花園地区 (n=64)	1.6	3.1	7.8	12.5	20.3	23.4	31.3
	わからない (n=9)	-	11.1	11.1	33.3	22.2	22.2	-
%		不明・無回答						
地区別	全体 (n=953)	1.9						
	深谷地区 (n=187)	-						
	藤沢地区 (n=69)	-						
	幡羅地区 (n=59)	-						
	明戸地区 (n=76)	-						
	大寄地区 (n=82)	-						
	八基地区 (n=67)	-						
	豊里地区 (n=69)	-						
	上柴地区 (n=64)	-						
	南地区 (n=32)	-						
	岡部地区 (n=80)	-						
	川本地区 (n=75)	-						
	花園地区 (n=64)	-						
	わからない (n=9)	-						

問2 あなたの主な職業は何ですか。

(単数回答)

全体では「会社員、公務員」が31.4%と最も多く、次いで「無職」が21.6%、「パート・アルバイト、フリーター」が16.2%となっています。

前回調査と比較すると、「会社員、公務員」で増加傾向がみられます。また、「無職」で減少傾向がみられます。



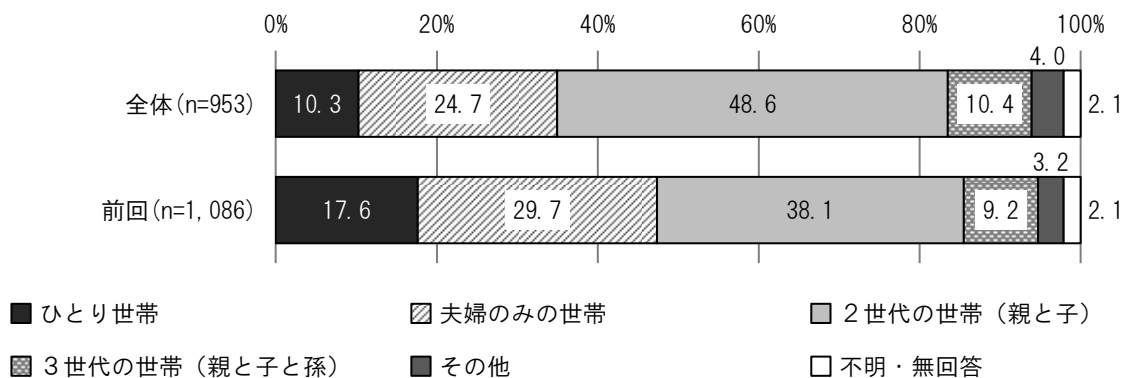
年齢別にみると、<60歳代><70歳以上>では「無職」、そのほかの年齢では「会社員、公務員」が最も多くなっています。

%		会社員、 公務員	自営業、 農林業、 自由業	パート・ アルバイト、 フリーター	学生	家事専業	無職	その他
年齢別	全体 (n=953)	31.4	12.5	16.2	2.6	11.6	21.6	2.2
	18～29歳 (n=73)	46.6	4.1	11.0	34.2	-	1.4	2.7
	30歳代 (n=74)	58.1	9.5	16.2	-	6.8	8.1	1.4
	40歳代 (n=143)	55.9	11.2	24.5	-	4.2	3.5	0.7
	50歳代 (n=170)	57.6	10.6	18.2	-	8.2	3.5	1.8
	60歳代 (n=180)	21.7	14.4	21.1	-	15.0	25.6	2.2
	70歳以上 (n=295)	1.7	16.6	10.2	-	20.0	48.1	3.4
%		不明・ 無回答						
年齢別	全体 (n=953)	1.9						
	18～29歳 (n=73)	-						
	30歳代 (n=74)	-						
	40歳代 (n=143)	-						
	50歳代 (n=170)	-						
	60歳代 (n=180)	-						
	70歳以上 (n=295)	-						

問3 あなたの家族構成はどのようになっていますか。 (単数回答)

全体では「2世代の世帯（親と子）」が48.6%と最も多く、次いで「夫婦のみの世帯」が24.7%、「3世代の世帯（親と子と孫）」が10.4%となっています。

前回調査と比較すると、「2世代の世帯（親と子）」で増加傾向がみられます。また、「ひとり世帯」「夫婦のみの世帯」で減少傾向がみられます。

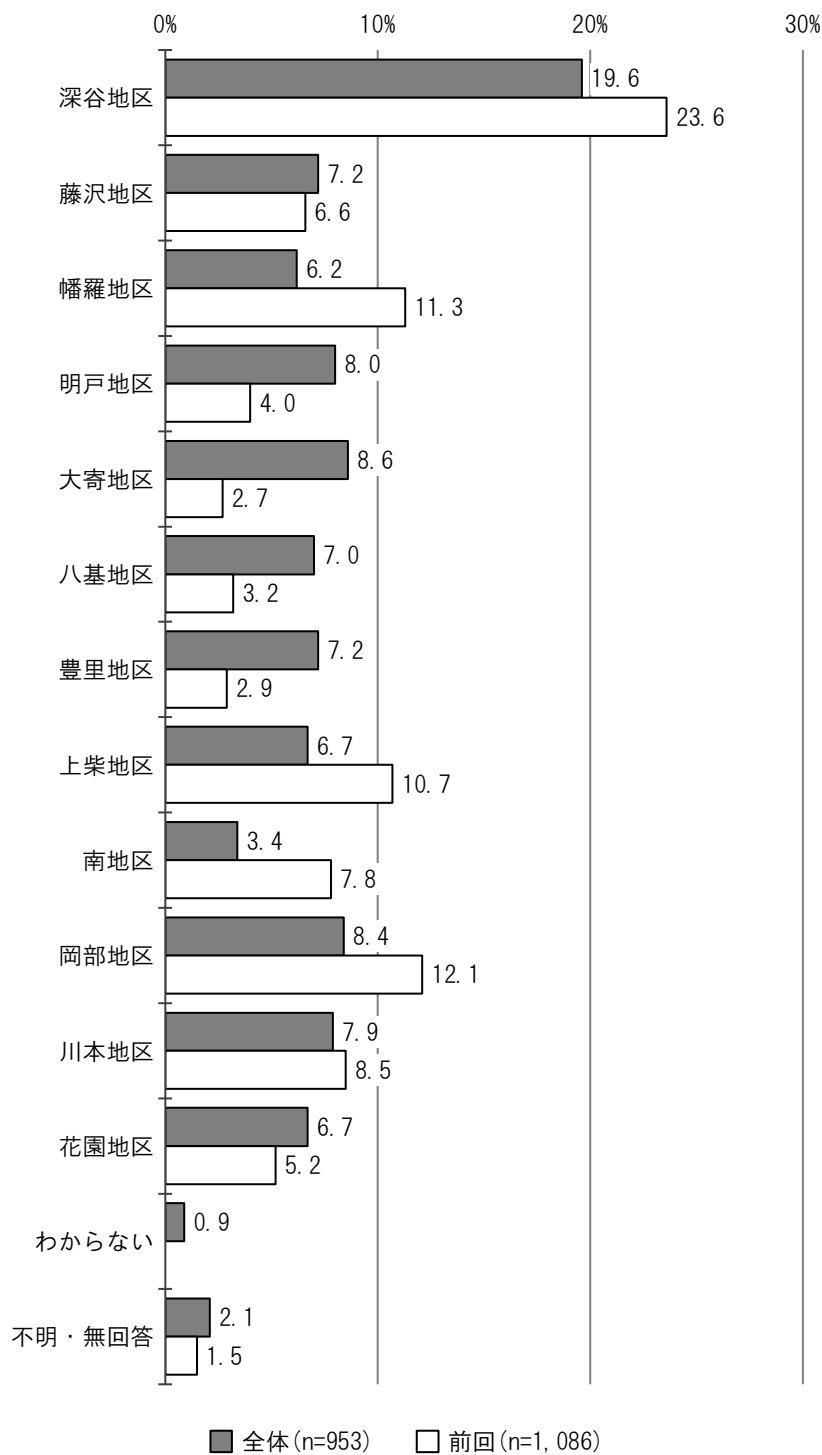


問4 あなたが住んでいる地区は次のどれですか。

(単数回答)

全体では「深谷地区」が19.6%と最も多く、次いで「大寄地区」が8.6%、「岡部地区」が8.4%となっています。

前回調査と比較すると、「大寄地区」で増加傾向がみられます。また、「幡羅地区」で減少傾向がみられます。

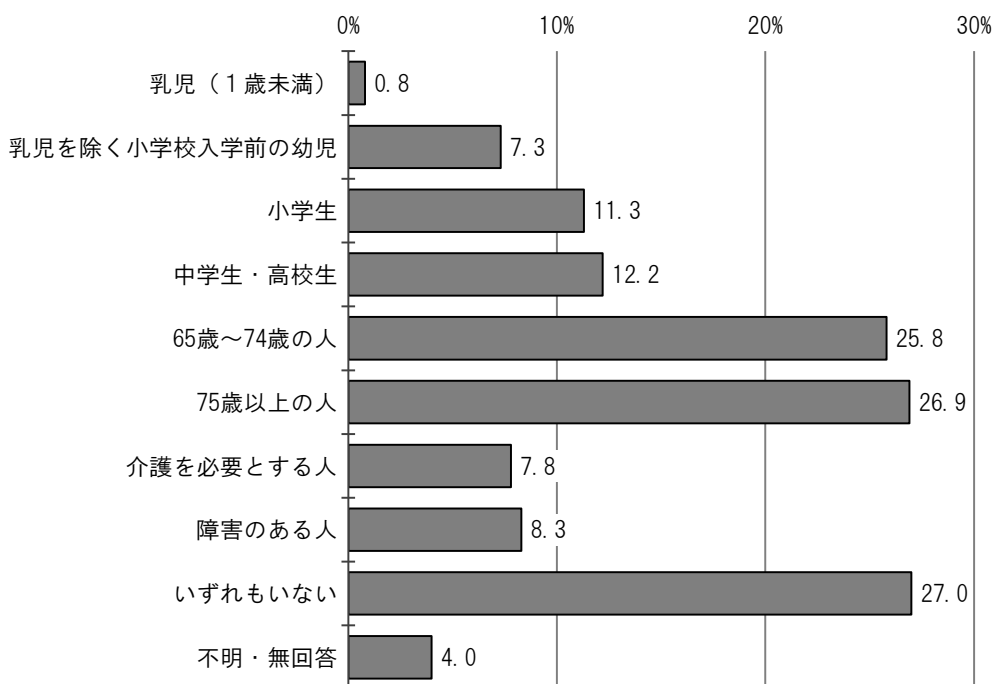


※ 今回調査のみの選択肢：「わからない」

問5 あなた自身や同居している家族の中に、次のような人はいますか。 (複数回答)

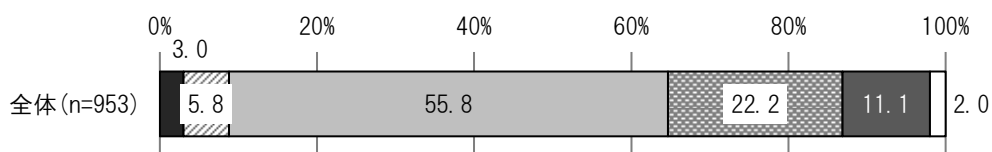
全体では「いずれもない」が27.0%と最も多く、次いで「75歳以上の人」が26.9%、「65歳～74歳の人」が25.8%となっています。

全体(n=953)



問6 あなたの経済的な暮らし向きは、いかがですか。 (単数回答)

全体では「普通」が55.8%と最も多く、次いで「やや苦しい」が22.2%、「苦しい」が11.1%となっています。



■ ゆとりがある ▨ ややゆとりがある □ 普通 ▩ やや苦しい ■ 苦しい □ 不明・無回答

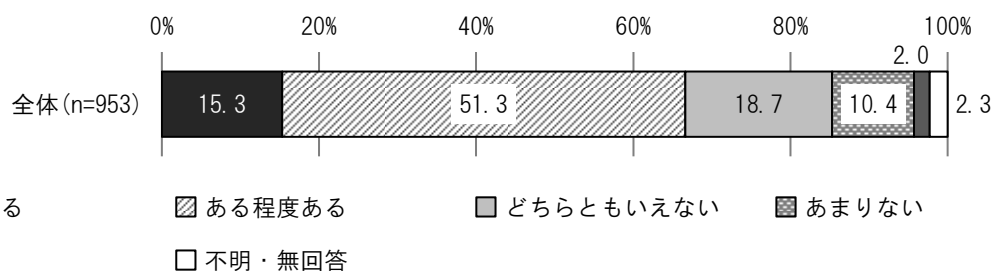
年齢別にみると、いずれも「普通」が最も多く、次いで「やや苦しい」となっています。

%		ゆとりがある	ややゆとりがある	普通	やや苦しい	苦しい	不明・無回答
年齢別	全体 (n=953)	3.0	5.8	55.8	22.2	11.1	2.0
	18～29歳 (n=73)	5.5	8.2	58.9	20.5	6.8	-
	30歳代 (n=74)	2.7	8.1	47.3	27.0	14.9	-
	40歳代 (n=143)	1.4	10.5	50.3	25.2	12.6	-
	50歳代 (n=170)	3.5	4.7	55.9	23.5	12.4	-
	60歳代 (n=180)	3.3	6.7	57.2	22.2	10.6	-
	70歳以上 (n=295)	3.1	2.7	62.4	20.7	10.8	0.3

2 地域での暮らしについて

問7 あなたは、今住んでいる地区に愛着がありますか。 (単数回答)

全体では「ある程度ある」が51.3%と最も多く、次いで「どちらともいえない」が18.7%、「大いにある」が15.3%となっています。



年齢別にみると、いずれも「大いにある」と「ある程度ある」の合計が「あまりない」と「全くない」の合計を上回っています。

%		大いにある	ある程度ある	どちらともいえない	あまりない	全くない	不明・無回答
年齢別	全体 (n=953)	15.3	51.3	18.7	10.4	2.0	2.3
	18～29歳 (n=73)	19.2	45.2	20.5	13.7	1.4	-
	30歳代 (n=74)	13.5	44.6	25.7	12.2	2.7	1.4
	40歳代 (n=143)	16.8	42.7	23.8	11.2	4.2	1.4
	50歳代 (n=170)	10.6	51.8	22.4	11.2	2.4	1.8
	60歳代 (n=180)	12.2	53.9	19.4	8.3	2.2	3.9
	70歳以上 (n=295)	16.9	57.3	12.2	10.2	0.7	2.7

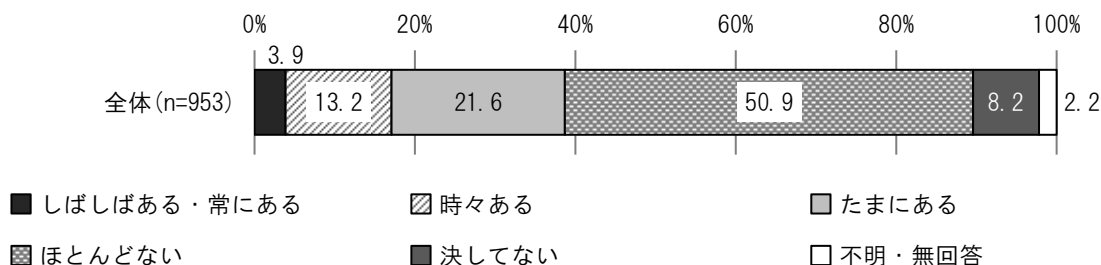
地区別にみると、いずれも「大いにある」と「ある程度ある」の合計が「あまりない」と「全くない」の合計を上回っています。

「大いにある」と「ある程度ある」の合計が<大寄地区><川本地区>で5割台、<わからない>で3割台と他に比べて低くなっています。

%		大いにある	ある程度ある	どちらとも いえない	あまりない	全くない	不明・無回答
地区別	全体(n=953)	15.3	51.3	18.7	10.4	2.0	2.3
	深谷地区(n=187)	16.6	52.4	17.6	10.2	1.6	1.6
	藤沢地区(n=69)	14.5	46.4	29.0	7.2	1.4	1.4
	幡羅地区(n=59)	18.6	54.2	15.3	8.5	1.7	1.7
	明戸地区(n=76)	9.2	51.3	22.4	11.8	2.6	2.6
	大寄地区(n=82)	11.0	46.3	23.2	13.4	2.4	3.7
	八基地区(n=67)	22.4	46.3	14.9	11.9	3.0	1.5
	豊里地区(n=69)	11.6	58.0	11.6	11.6	5.8	1.4
	上柴地区(n=64)	10.9	67.2	10.9	9.4	1.6	-
	南地区(n=32)	28.1	46.9	12.5	6.3	-	6.3
	岡部地区(n=80)	15.0	52.5	20.0	11.3	-	1.3
	川本地区(n=75)	14.7	38.7	25.3	12.0	4.0	5.3
	花園地区(n=64)	12.5	59.4	17.2	7.8	-	3.1
	わからない(n=9)	-	33.3	44.4	22.2	-	-

問8 あなたは、孤独であると感じることがありますか。(単数回答)

全体では「ほとんどない」が50.9%と最も多く、次いで「たまにある」が21.6%、「時々ある」が13.2%となっています。



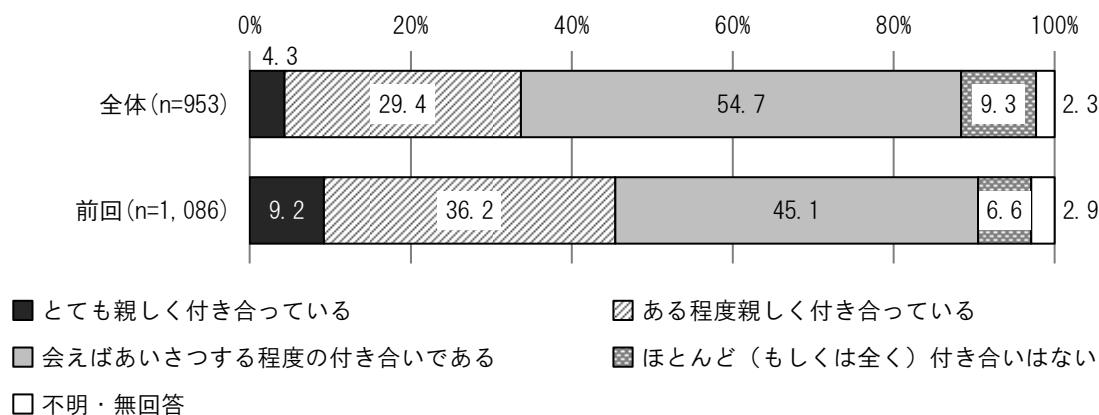
年齢別にみると、<18～29歳><40歳代><50歳代>では、「しばしばある・常にある」「時々ある」の合計が2割前後と、ほかに比べて高くなっています。

%		しばしばある・常にある	時々ある	たまにある	ほとんどない	決してない	不明・無回答
年齢別	全体(n=953)	3.9	13.2	21.6	50.9	8.2	2.2
	18～29歳(n=73)	5.5	13.7	16.4	50.7	13.7	-
	30歳代(n=74)	1.4	12.2	21.6	50.0	13.5	1.4
	40歳代(n=143)	7.0	13.3	22.4	46.2	9.8	1.4
	50歳代(n=170)	5.3	17.1	22.9	44.7	8.2	1.8
	60歳代(n=180)	3.3	10.0	22.8	50.6	9.4	3.9
	70歳以上(n=295)	2.0	13.2	21.4	56.9	4.1	2.4

問9 あなたは、ふだん地域の人と、どの程度の付き合いをされていますか。(単数回答)

全体では「会えばあいさつする程度の付き合いである」が54.7%と最も多く、次いで「ある程度親しく付き合っている」が29.4%、「ほとんど（もしくは全く）付き合いはない」が9.3%となっています。

前回調査と比較すると、「会えばあいさつする程度の付き合いである」で増加傾向がみられます。また、「ある程度親しく付き合っている」で減少傾向がみられます。



年齢別にみると、<70歳以上>では「ある程度親しく付き合っている」、そのほかの年齢では「会えばあいさつする程度の付き合いである」が最も多くなっています。

%		とても親しく付き合っている	ある程度親しく付き合っている	会えばあいさつする程度の付き合いである	ほとんど（もしくは全く）付き合いはない	不明・無回答
年齢別	全体 (n=953)	4.3	29.4	54.7	9.3	2.3
	18～29歳 (n=73)	2.7	9.6	57.5	30.1	-
	30歳代 (n=74)	2.7	10.8	66.2	17.6	2.7
	40歳代 (n=143)	0.7	23.8	60.1	14.7	0.7
	50歳代 (n=170)	2.4	20.6	67.1	8.2	1.8
	60歳代 (n=180)	3.9	27.8	58.9	5.6	3.9
	70歳以上 (n=295)	8.5	46.8	39.0	3.1	2.7

地区別にみると、<八基地区><豊里地区>では「ある程度親しく付き合っている」、そのほかの地区では「会えばあいさつする程度の付き合いである」が最も多くなっています。

%		とても親しく付き合っている	ある程度親しく付き合っている	会えばあいさつする程度の付き合いである	ほとんど（もしくは全く）付き合いはない	不明・無回答
地区別	全体 (n=953)	4.3	29.4	54.7	9.3	2.3
	深谷地区 (n=187)	3.7	23.5	56.1	15.0	1.6
	藤沢地区 (n=69)	5.8	24.6	62.3	5.8	1.4
	幡羅地区 (n=59)	-	22.0	72.9	3.4	1.7
	明戸地区 (n=76)	6.6	31.6	55.3	5.3	1.3
	大寄地区 (n=82)	7.3	34.1	50.0	6.1	2.4
	八基地区 (n=67)	11.9	41.8	37.3	9.0	-
	豊里地区 (n=69)	5.8	44.9	39.1	8.7	1.4
	上柴地区 (n=64)	-	26.6	62.5	10.9	-
	南地区 (n=32)	3.1	37.5	40.6	12.5	6.3
	岡部地区 (n=80)	1.3	22.5	63.7	10.0	2.5
	川本地区 (n=75)	4.0	22.7	56.0	10.7	6.7
	花園地区 (n=64)	3.1	34.4	50.0	7.8	4.7
	わからない (n=9)	-	-	77.8	22.2	-

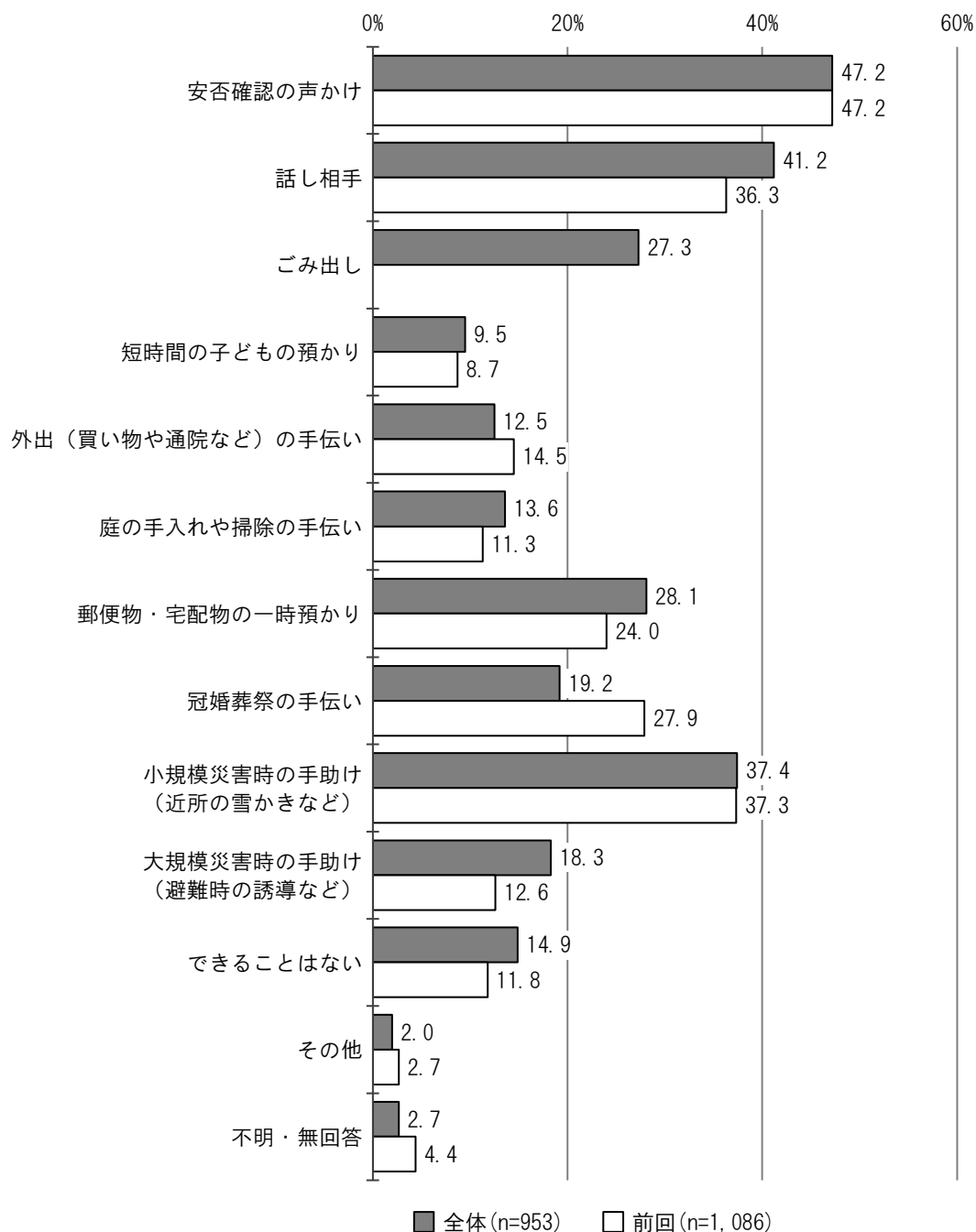
職業別にみると、<自営業、農林業、自由業>では「ある程度親しく付き合っている」、そのほかの職業では「会えばあいさつする程度の付き合いである」が最も多くなっています。

%		とても親しく付き合っている	ある程度親しく付き合っている	会えばあいさつする程度の付き合いである	ほとんど（もしくは全く）付き合いはない	不明・無回答
職業別	全体 (n=953)	4.3	29.4	54.7	9.3	2.3
	会社員、公務員 (n=299)	2.0	19.1	65.9	11.4	1.7
	自営業、農林業、自由業 (n=119)	9.2	52.9	30.3	6.7	0.8
	パート・アルバイト、フリーター (n=154)	3.2	20.8	65.6	7.8	2.6
	学生 (n=25)	4.0	16.0	48.0	32.0	-
	家事専業 (n=111)	6.3	41.4	44.1	5.4	2.7
	無職 (n=206)	4.4	31.6	50.5	9.7	3.9
	その他 (n=21)	9.5	23.8	61.9	4.8	-

問10 あなたは、地域の人から頼まれた場合、自分からしてあげられることはありますか。
 ※いつもではなく、ときどきでもしてあげられることも含む。 (複数回答)

全体では「安否確認の声かけ」が47.2%と最も多く、次いで「話し相手」が41.2%、「小規模災害時の手助け（近所の雪かきなど）」が37.4%となっています。

前回調査と比較すると、「大規模災害時の手助け（避難時の誘導など）」で増加傾向がみられます。また、「冠婚葬祭の手伝い」で減少傾向がみられます。



※ 今回調査のみの選択肢：「ごみ出し」

年齢別にみると、<18～29歳><40歳代>では「小規模災害時の手助け（近所の雪かきなど）」、<70歳以上>では「話し相手」、そのほかの年齢では「安否確認の声かけ」が最も多くなっています。

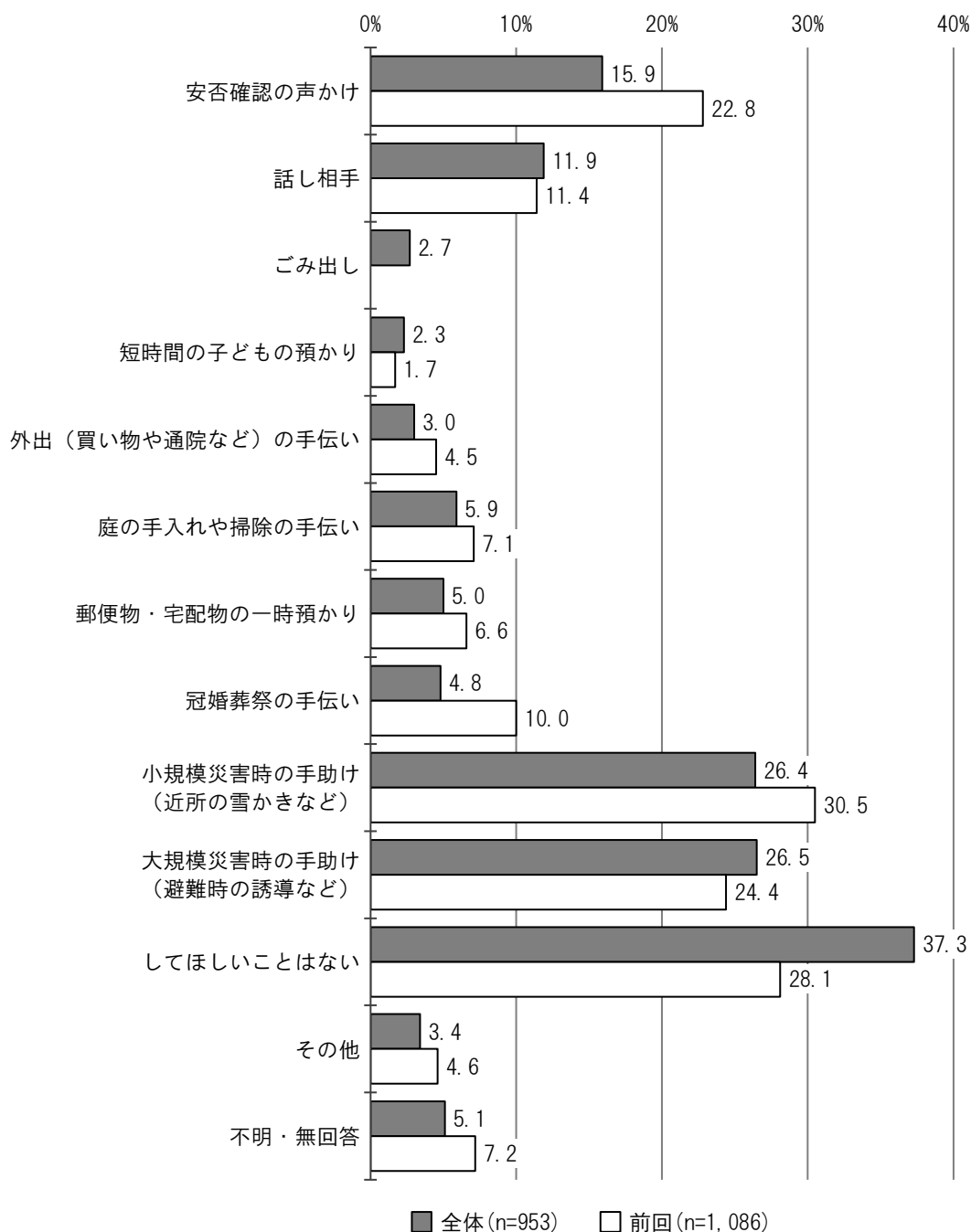
%		安否確認 の声かけ	話し相手	ごみ出し	短時間の 子どもの 預かり	外出（買 い物や通 院など） の手伝い	庭の手入 れや掃除 の手伝い	郵便物・ 宅配物の 一時預か り
年齢別	全体 (n=953)	47.2	41.2	27.3	9.5	12.5	13.6	28.1
	18～29歳 (n=73)	38.4	46.6	26.0	15.1	17.8	15.1	21.9
	30歳代 (n=74)	43.2	36.5	23.0	10.8	5.4	10.8	25.7
	40歳代 (n=143)	46.2	42.0	25.2	15.4	7.0	13.3	24.5
	50歳代 (n=170)	56.5	34.7	23.5	7.1	14.1	14.1	34.1
	60歳代 (n=180)	48.9	38.9	31.1	6.7	14.4	13.3	28.9
	70歳以上 (n=295)	43.4	46.1	29.2	7.8	12.9	13.9	27.8
%		冠婚葬祭 の手伝い	小規模災 害時の手 助け（近 所の雪か きなど）	大規模災 害時の手 助け（避 難時の誘 導など）	できるこ とはない	その他	不明・ 無回答	
年齢別	全体 (n=953)	19.2	37.4	18.3	14.9	2.0	2.7	
	18～29歳 (n=73)	6.8	50.7	21.9	19.2	-	-	
	30歳代 (n=74)	9.5	41.9	23.0	14.9	1.4	1.4	
	40歳代 (n=143)	19.6	51.0	30.8	11.2	2.8	0.7	
	50歳代 (n=170)	21.8	44.7	23.5	12.4	1.2	2.4	
	60歳代 (n=180)	22.2	39.4	14.4	13.9	1.7	4.4	
	70歳以上 (n=295)	20.7	20.3	9.2	18.6	2.7	3.7	

問 11 あなたが地域の人にしてほしいと思うことはありますか。

(複数回答)

全体では「してほしいことはない」が37.3%と最も多く、次いで「大規模災害時の手助け（避難時の誘導など）」が26.5%、「小規模災害時の手助け（近所の雪かきなど）」が26.4%となっています。

前回調査と比較すると、「してほしいことはない」で増加傾向がみられます。また、「安否確認の声かけ」「冠婚葬祭の手伝い」で減少傾向がみられます。



※ 今回調査のみの選択肢：「ごみ出し」

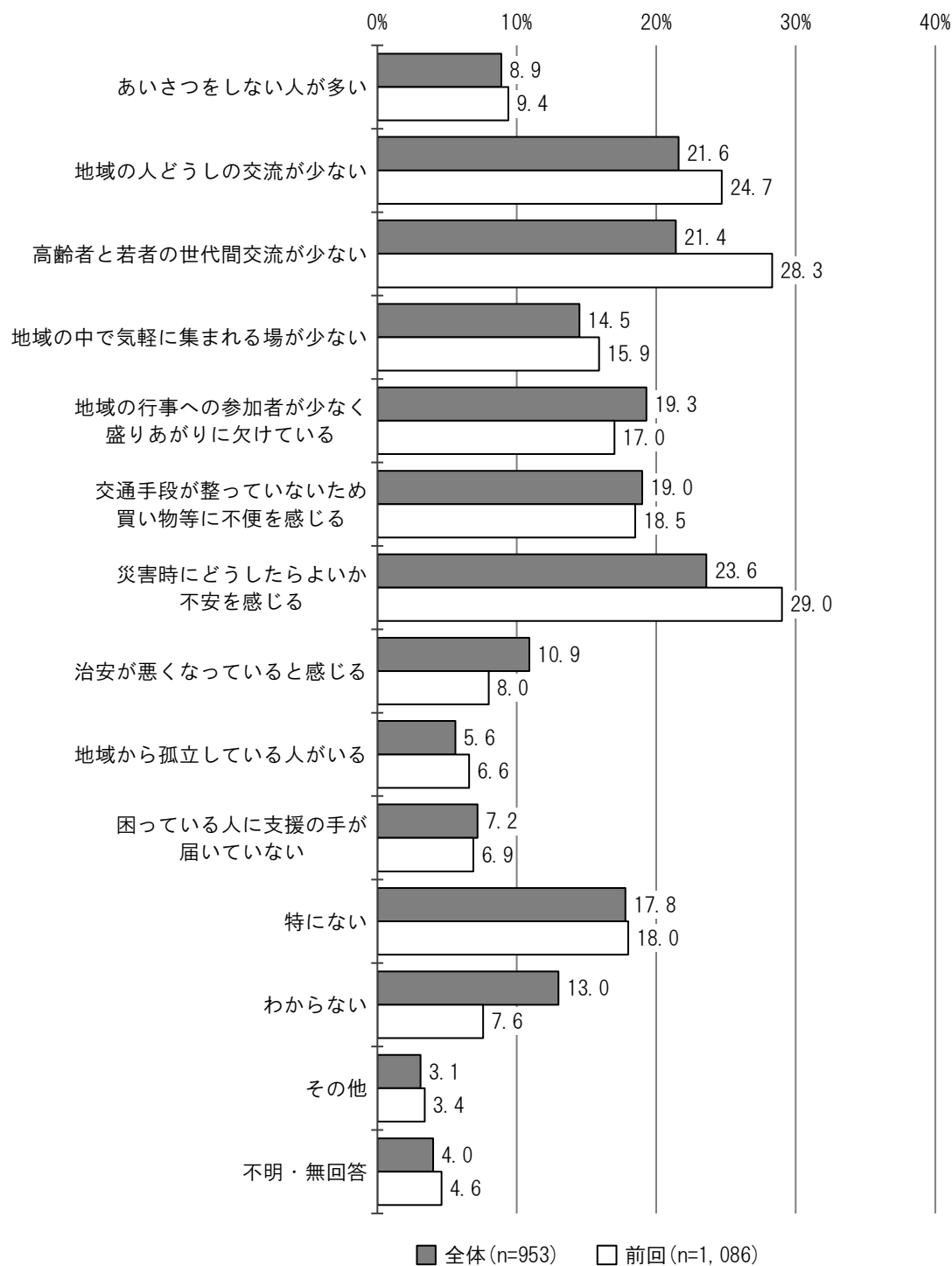
年齢別にみると、<30 歳代>では「大規模災害時の手助け（避難時の誘導など）」「してほしいことはない」、<40 歳代>では「大規模災害時の手助け（避難時の誘導など）」、そのほかの年齢では「してほしいことはない」が最も多くなっています。

%		安否確認の声かけ	話し相手	ごみ出し	短時間の子ども預かり	外出（買い物や通院など）の手伝い	庭の手入れや掃除の手伝い	郵便物・宅配物の一時預かり
年齢別	全体 (n=953)	15.9	11.9	2.7	2.3	3.0	5.9	5.0
	18～29歳 (n=73)	16.4	8.2	5.5	2.7	2.7	6.8	4.1
	30歳代 (n=74)	20.3	8.1	4.1	10.8	1.4	9.5	9.5
	40歳代 (n=143)	14.0	6.3	2.8	5.6	2.1	4.9	5.6
	50歳代 (n=170)	17.1	5.3	1.8	-	2.4	5.9	4.7
	60歳代 (n=180)	12.8	8.9	2.2	0.6	3.3	5.0	3.9
	70歳以上 (n=295)	16.6	21.0	2.0	0.7	4.4	4.7	4.4
%		冠婚葬祭の手伝い	小規模災害時の手助け（近所の雪かきなど）	大規模災害時の手助け（避難時の誘導など）	してほしいことはない	その他	不明・無回答	
年齢別	全体 (n=953)	4.8	26.4	26.5	37.3	3.4	5.1	
	18～29歳 (n=73)	1.4	35.6	35.6	53.4	-	-	
	30歳代 (n=74)	1.4	31.1	33.8	33.8	1.4	1.4	
	40歳代 (n=143)	7.7	32.2	36.4	35.7	2.8	2.8	
	50歳代 (n=170)	4.1	31.2	32.4	41.2	2.9	2.4	
	60歳代 (n=180)	3.9	25.0	21.7	41.7	3.3	5.6	
	70歳以上 (n=295)	5.8	18.6	18.0	30.5	5.4	9.8	

問12 現在、あなたの住んでいる地域の中で課題に感じることは何ですか。（複数回答）

全体では「災害時にどうしたらよいか不安を感じる」が23.6%と最も多く、次いで「地域の人どうしの交流が少ない」が21.6%、「高齢者と若者の世代間交流が少ない」が21.4%となっています。

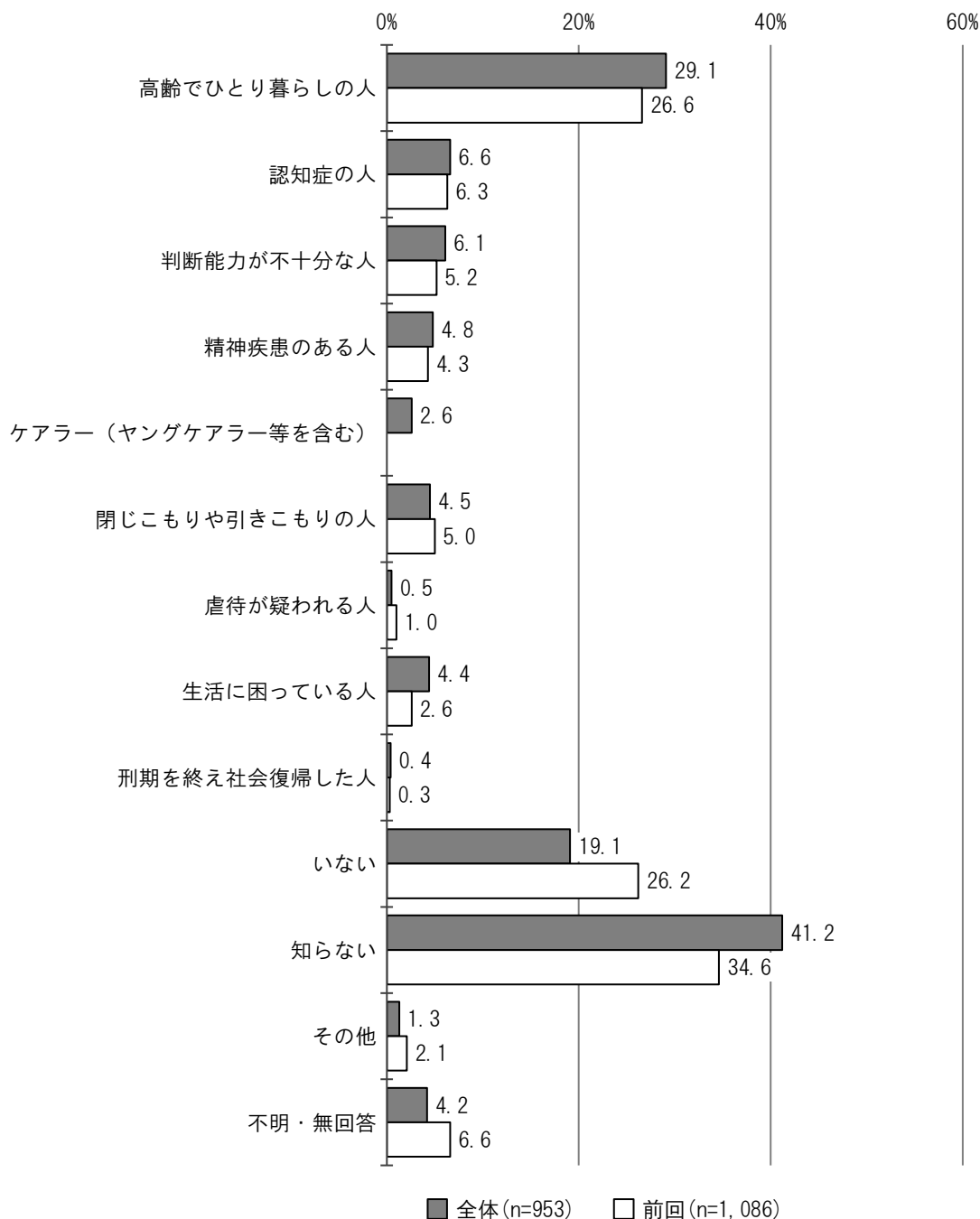
前回調査と比較すると、「わからない」で増加傾向がみられます。また、「高齢者と若者の世代間交流が少ない」「災害時にどうしたらよいか不安を感じる」で減少傾向がみられます。



問13 あなたがお住まいの地域には、次のような見守り等支援が必要な人や、気にかかる人（何らかの課題を抱えている人）がいますか。 （複数回答）

全体では「知らない」が41.2%と最も多く、次いで「高齢でひとり暮らしの人」が29.1%、「いない」が19.1%となっています。

前回調査と比較すると、「知らない」で増加傾向がみられます。また、「いない」で減少傾向がみられます。



※ 今回調査のみの選択肢：「ケアラー（ヤングケアラー等を含む）」

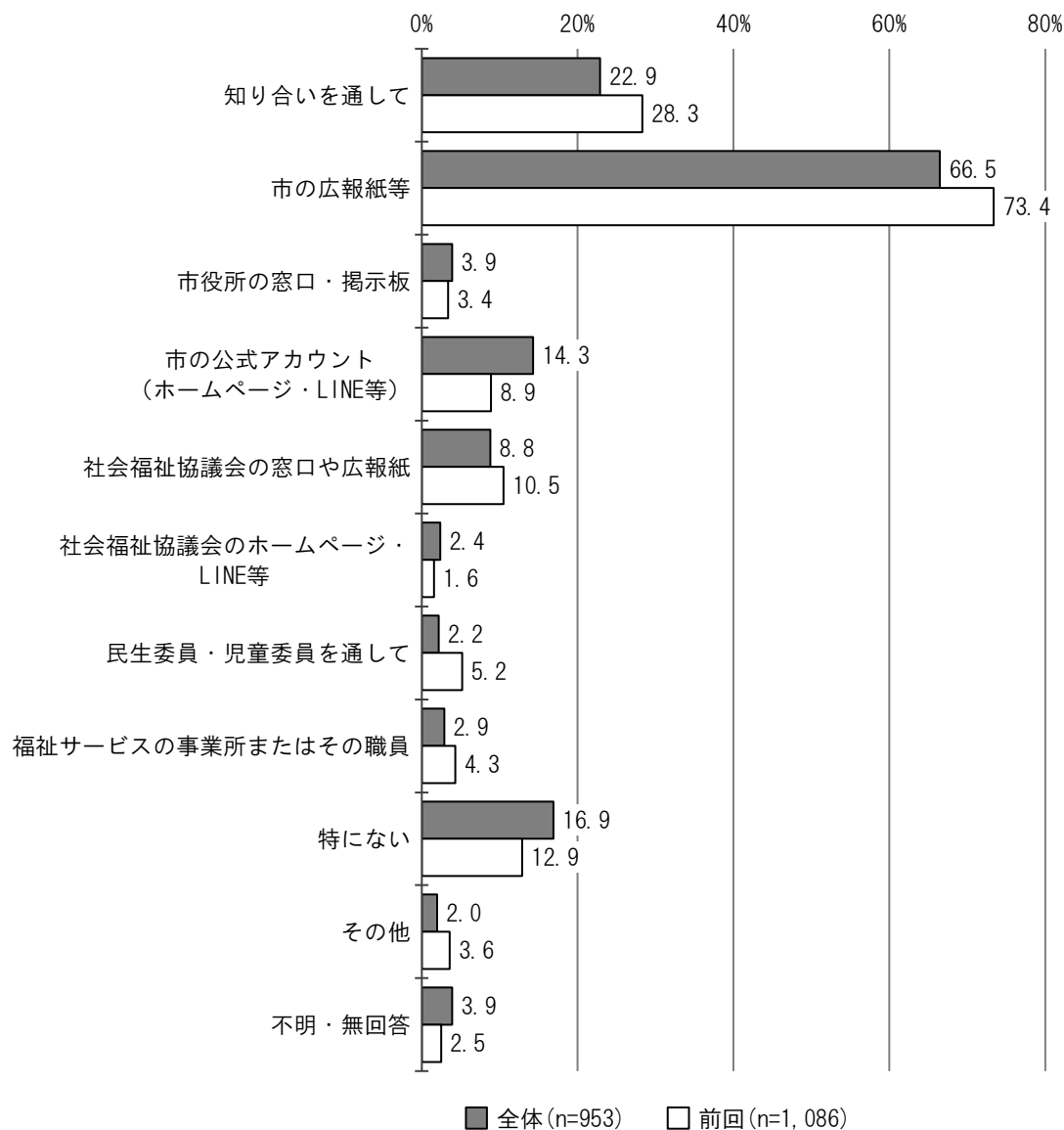
地区別にみると、<大寄地区><八基地区><豊里地区>では「高齢でひとり暮らしの人」、そのほかの地区では「知らない」が最も多くなっています。

%		高齢でひとり暮らしの人	認知症の人	判断能力が不十分な人	精神疾患のある人	ケアラー（ヤングケアラー等を含む）	閉じこもりや引きこもりの人	虐待が疑われる人
地区別	全体 (n=953)	29.1	6.6	6.1	4.8	2.6	4.5	0.5
	深谷地区 (n=187)	18.2	6.4	4.3	3.7	2.7	2.1	1.1
	藤沢地区 (n=69)	29.0	7.2	7.2	5.8	1.4	5.8	-
	幡羅地区 (n=59)	25.4	5.1	1.7	1.7	3.4	1.7	-
	明戸地区 (n=76)	27.6	5.3	5.3	7.9	3.9	2.6	-
	大寄地区 (n=82)	35.4	3.7	1.2	-	2.4	3.7	1.2
	八基地区 (n=67)	38.8	9.0	9.0	10.4	3.0	10.4	-
	豊里地区 (n=69)	42.0	7.2	5.8	4.3	1.4	10.1	-
	上柴地区 (n=64)	29.7	6.3	4.7	1.6	1.6	3.1	1.6
	南地区 (n=32)	37.5	9.4	3.1	9.4	3.1	6.3	-
	岡部地区 (n=80)	27.5	3.8	12.5	5.0	2.5	6.3	1.3
	川本地区 (n=75)	33.3	12.0	8.0	5.3	1.3	4.0	-
	花園地区 (n=64)	21.9	3.1	4.7	3.1	6.3	1.6	-
わからない (n=9)	11.1	-	-	-	-	-	-	
%		生活に困っている人	刑期を終え社会復帰した人	いない	知らない	その他	不明・無回答	
地区別	全体 (n=953)	4.4	0.4	19.1	41.2	1.3	4.2	
	深谷地区 (n=187)	5.9	0.5	22.5	46.5	1.1	5.3	
	藤沢地区 (n=69)	1.4	-	18.8	37.7	1.4	5.8	
	幡羅地区 (n=59)	-	-	20.3	47.5	1.7	6.8	
	明戸地区 (n=76)	3.9	2.6	28.9	34.2	-	1.3	
	大寄地区 (n=82)	6.1	-	25.6	32.9	-	3.7	
	八基地区 (n=67)	7.5	-	13.4	32.8	-	4.5	
	豊里地区 (n=69)	5.8	-	20.3	31.9	1.4	1.4	
	上柴地区 (n=64)	1.6	-	10.9	53.1	-	1.6	
	南地区 (n=32)	9.4	-	9.4	40.6	3.1	6.3	
	岡部地区 (n=80)	-	-	20.0	46.3	1.3	1.3	
	川本地区 (n=75)	4.0	-	10.7	37.3	4.0	6.7	
	花園地区 (n=64)	4.7	-	21.9	48.4	1.6	4.7	
わからない (n=9)	-	-	-	100.0	-	-		

問 14 あなたは地域の情報や暮らしの情報、ボランティアに関する情報を主にどのように
得ていますか。 (複数回答)

全体では「市の広報紙等」が66.5%と最も多く、次いで「知り合いを通して」が22.9%、「特
にない」が16.9%となっています。

前回調査と比較すると、「市の公式アカウント (ホームページ・LINE等)」で増加傾向がみられま
す。また、「知り合いを通して」「市の広報紙等」で減少傾向がみられます。



※ 前回調査での選択肢：「市のホームページ、Twitter、Facebook など」「社会福祉協議会のホームページ」

年齢別にみると、すべての年齢で「市の広報紙等」が最も多くなっています。

%		知り合いを通して	市の広報紙等	市役所の窓口・掲示板	市の公式アカウント（ホームページ・LINE等）	社会福祉協議会の窓口や広報紙	社会福祉協議会のホームページ・LINE等	民生委員・児童委員を通して
年齢別	全体 (n=953)	22.9	66.5	3.9	14.3	8.8	2.4	2.2
	18～29歳 (n=73)	24.7	42.5	4.1	4.1	6.8	4.1	-
	30歳代 (n=74)	12.2	55.4	4.1	17.6	5.4	4.1	1.4
	40歳代 (n=143)	18.9	63.6	2.8	23.8	6.3	2.8	2.8
	50歳代 (n=170)	15.3	72.9	1.2	22.4	6.5	2.4	0.6
	60歳代 (n=180)	22.2	71.7	5.6	13.9	10.0	1.7	2.2
	70歳以上 (n=295)	30.5	69.2	4.7	6.8	11.5	2.0	3.7
%		福祉サービスの事業所またはその職員	特にない	その他	不明・無回答			
年齢別	全体 (n=953)	2.9	16.9	2.0	3.9			
	18～29歳 (n=73)	1.4	32.9	4.1	-			
	30歳代 (n=74)	-	27.0	1.4	1.4			
	40歳代 (n=143)	1.4	19.6	2.8	2.1			
	50歳代 (n=170)	3.5	15.9	1.8	1.8			
	60歳代 (n=180)	3.9	11.1	1.7	4.4			
	70歳以上 (n=295)	3.7	14.2	1.7	7.1			

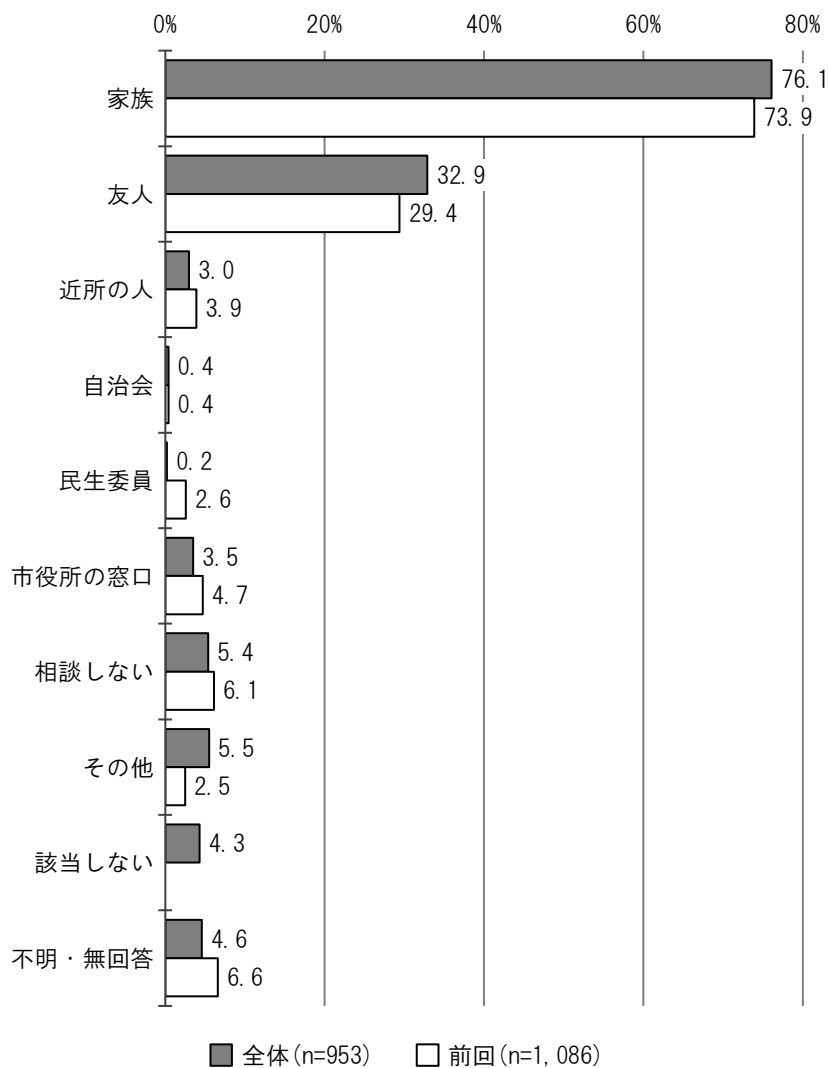
問 15 あなたは、以下の不安や悩みなどを、どなたに、もしくはどこに相談しますか。

①自分や家族の健康の悩み

(複数回答)

全体では「家族」が76.1%と最も多く、次いで「友人」が32.9%、「相談しない」が5.4%となっています。

前回調査と比較すると、大きな傾向の変化はみられません。



※ 今回調査のみの選択肢：「該当しない」

年齢別にみると、すべての年齢で「家族」が最も多くなっています。

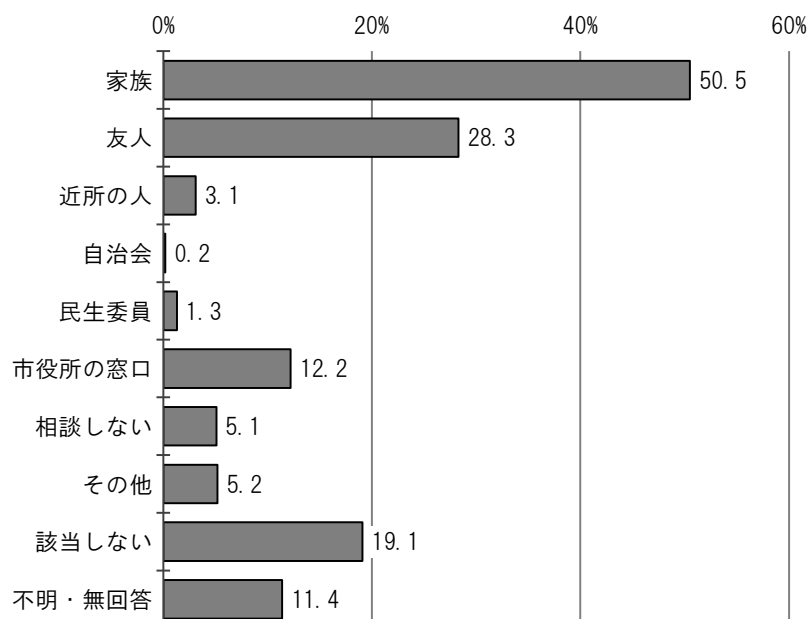
%		家族	友人	近所の人	自治会	民生委員	市役所の窓口	相談しない
年齢別	全体 (n=953)	76.1	32.9	3.0	0.4	0.2	3.5	5.4
	18～29歳 (n=73)	84.9	49.3	-	-	-	1.4	4.1
	30歳代 (n=74)	90.5	47.3	-	-	-	2.7	1.4
	40歳代 (n=143)	77.6	47.6	2.8	-	-	2.1	7.0
	50歳代 (n=170)	78.2	40.6	2.4	-	-	4.7	6.5
	60歳代 (n=180)	73.3	27.8	2.8	1.1	-	5.0	3.9
	70歳以上 (n=295)	69.5	17.6	5.1	0.7	0.7	3.1	6.4
%		その他	該当しない	不明・無回答				
年齢別	全体 (n=953)	5.5	4.3	4.6				
	18～29歳 (n=73)	4.1	2.7	-				
	30歳代 (n=74)	4.1	1.4	1.4				
	40歳代 (n=143)	8.4	2.8	2.1				
	50歳代 (n=170)	3.5	2.4	2.4				
	60歳代 (n=180)	8.3	6.1	4.4				
	70歳以上 (n=295)	4.1	6.4	9.2				

②子育てや介護の相談

(複数回答)

全体では「家族」が50.5%と最も多く、次いで「友人」が28.3%、「該当しない」が19.1%となっています。

全体 (n=953)



年齢別にみると、すべての年齢で「家族」が最も多くなっています。

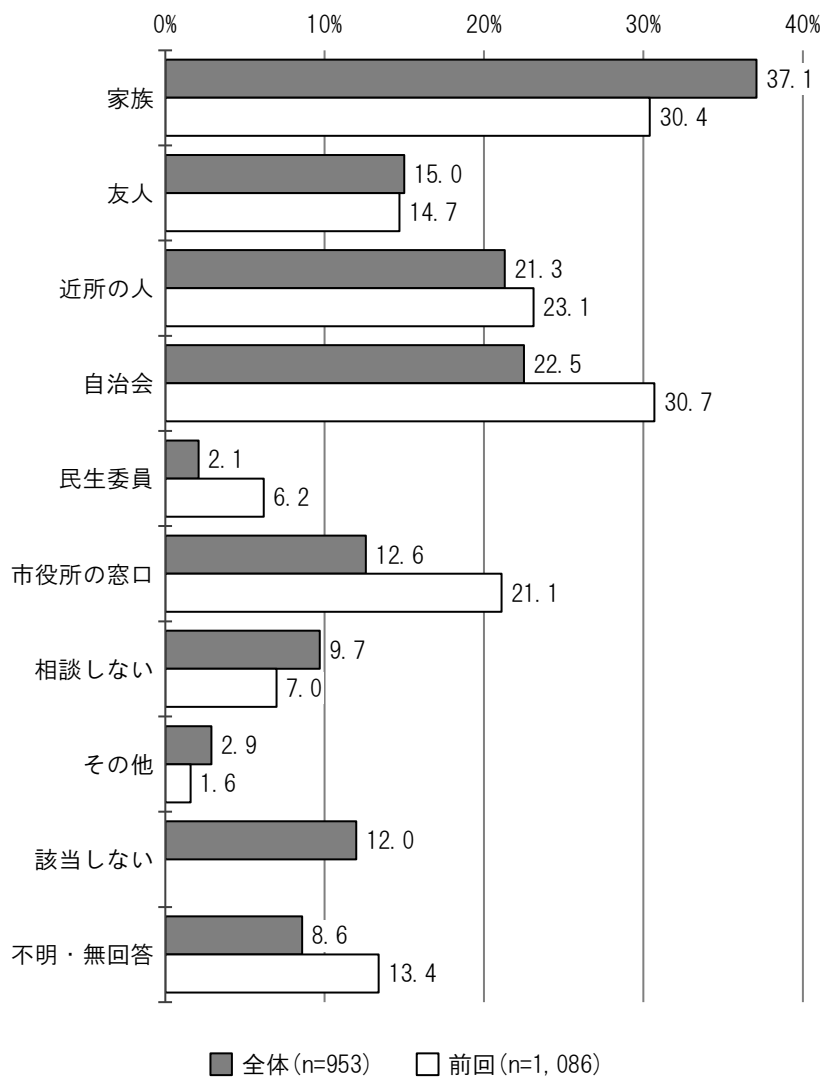
%		家族	友人	近所の人	自治会	民生委員	市役所の窓口	相談しない
年齢別	全体 (n=953)	50.5	28.3	3.1	0.2	1.3	12.2	5.1
	18～29歳 (n=73)	46.6	28.8	1.4	-	-	11.0	8.2
	30歳代 (n=74)	68.9	50.0	1.4	-	-	8.1	2.7
	40歳代 (n=143)	66.4	50.3	4.2	-	0.7	9.8	6.3
	50歳代 (n=170)	60.0	38.8	5.3	-	1.2	15.3	7.1
	60歳代 (n=180)	51.7	22.2	3.3	-	1.7	17.8	3.9
	70歳以上 (n=295)	33.2	9.8	2.0	0.7	2.0	9.5	4.4
%		その他	該当しない	不明・無回答				
年齢別	全体 (n=953)	5.2	19.1	11.4				
	18～29歳 (n=73)	1.4	41.1	-				
	30歳代 (n=74)	8.1	14.9	1.4				
	40歳代 (n=143)	10.5	8.4	2.8				
	50歳代 (n=170)	5.3	14.1	4.7				
	60歳代 (n=180)	6.1	19.4	8.3				
	70歳以上 (n=295)	2.7	22.4	26.1				

③地域の困りごとなど

(複数回答)

全体では「家族」が37.1%と最も多く、次いで「自治会」が22.5%、「近所の人」が21.3%となっています。

前回調査と比較すると、「家族」で増加傾向がみられます。また、「自治会」「市役所の窓口」で減少傾向がみられます。



※ 今回調査のみの選択肢：「該当しない」

年齢別にみると、<70歳以上>では「自治会」、そのほかの年齢では「家族」が最も多くなっています。

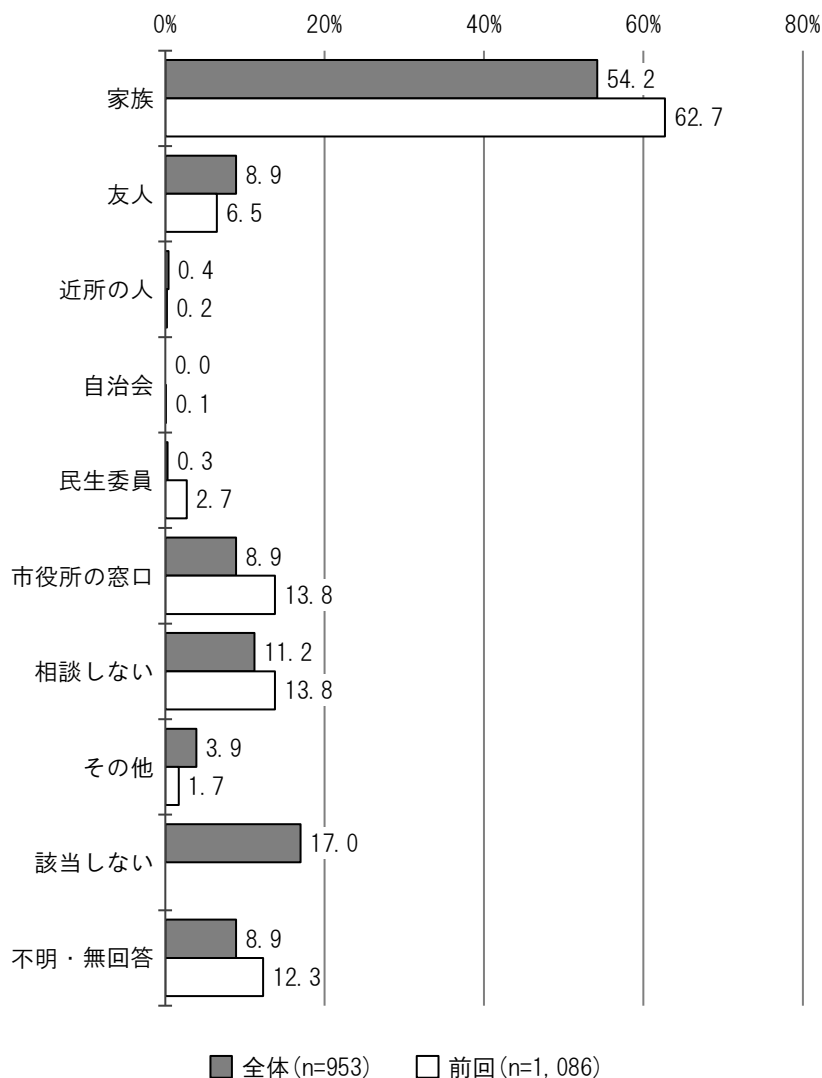
%		家族	友人	近所の人	自治会	民生委員	市役所の窓口	相談しない
年齢別	全体 (n=953)	37.1	15.0	21.3	22.5	2.1	12.6	9.7
	18～29歳 (n=73)	58.9	20.5	11.0	6.8	1.4	9.6	13.7
	30歳代 (n=74)	51.4	18.9	14.9	14.9	1.4	9.5	13.5
	40歳代 (n=143)	51.7	24.5	27.3	16.1	1.4	11.2	14.0
	50歳代 (n=170)	42.9	16.5	21.8	21.2	0.6	18.2	10.6
	60歳代 (n=180)	35.6	12.8	27.2	26.1	2.8	15.6	4.4
	70歳以上 (n=295)	18.3	8.1	18.3	29.8	3.4	9.5	8.5
%		その他	該当しない	不明・無回答				
年齢別	全体 (n=953)	2.9	12.0	8.6				
	18～29歳 (n=73)	1.4	17.8	-				
	30歳代 (n=74)	2.7	13.5	1.4				
	40歳代 (n=143)	2.1	10.5	3.5				
	50歳代 (n=170)	2.4	10.6	5.3				
	60歳代 (n=180)	8.3	13.3	6.7				
	70歳以上 (n=295)	1.0	10.8	17.6				

④生活費など経済的な問題

(複数回答)

全体では「家族」が54.2%と最も多く、次いで「該当しない」が17.0%、「相談しない」が11.2%となっています。

前回調査と比較すると、「家族」で減少傾向がみられます。



※ 今回調査のみの選択肢：「該当しない」

年齢別にみると、すべての年齢で「家族」が最も多くなっています。

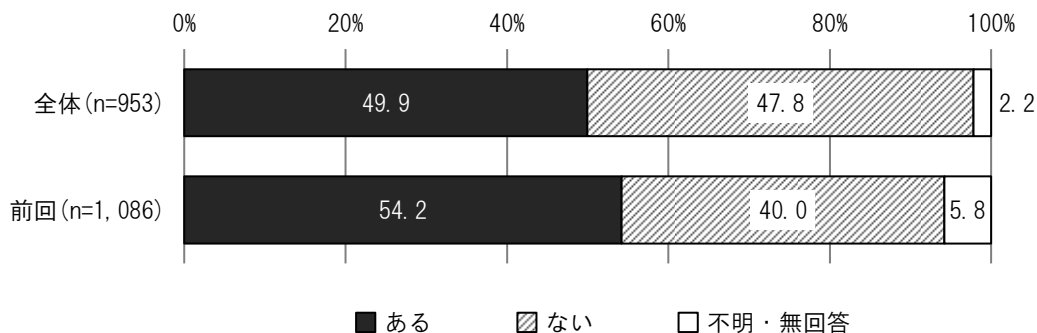
%		家族	友人	近所の人	自治会	民生委員	市役所の 窓口	相談しな い
年齢別	全体 (n=953)	54.2	8.9	0.4	-	0.3	8.9	11.2
	18～29歳 (n=73)	76.7	20.5	-	-	-	6.8	4.1
	30歳代 (n=74)	73.0	14.9	-	-	-	8.1	10.8
	40歳代 (n=143)	59.4	14.7	1.4	-	-	10.5	16.8
	50歳代 (n=170)	62.4	12.9	1.2	-	-	11.2	12.9
	60歳代 (n=180)	52.8	3.3	-	-	0.6	9.4	7.8
	70歳以上 (n=295)	37.6	2.0	-	-	0.7	7.1	11.9
%		その他	該当しな い	不明・ 無回答				
年齢別	全体 (n=953)	3.9	17.0	8.9				
	18～29歳 (n=73)	1.4	13.7	-				
	30歳代 (n=74)	2.7	8.1	1.4				
	40歳代 (n=143)	7.0	10.5	3.5				
	50歳代 (n=170)	1.8	14.1	3.5				
	60歳代 (n=180)	7.2	20.0	7.2				
	70歳以上 (n=295)	2.4	23.4	19.3				

3 「地域活動・ボランティア活動」について

問 16 あなたは、ここ5年間に地域活動（ごみゼロ運動・資源回収など）やボランティア活動（学校応援ボランティアなど）をしたことがありますか。 （単数回答）

全体では「ある」が49.9%、「ない」が47.8%となっています。

前回調査と比較すると、「ない」で増加傾向がみられます。



年齢別にみると、<60歳代><70歳以上>では「ある」、そのほかの年齢では「ない」が多くなっています。

%		ある	ない	不明・無回答
年齢別	全体 (n=953)	49.9	47.8	2.2
	18～29歳 (n=73)	24.7	75.3	-
	30歳代 (n=74)	37.8	60.8	1.4
	40歳代 (n=143)	49.7	50.3	-
	50歳代 (n=170)	45.9	53.5	0.6
	60歳代 (n=180)	53.9	44.4	1.7
	70歳以上 (n=295)	58.3	36.3	5.4

地区別にみると、<深谷地区><上柴地区><岡部地区>では「ない」、そのほかの地区では「ある」が多くなっています。

%		ある	ない	不明・ 無回答
地区別	全体 (n=953)	49.9	47.8	2.2
	深谷地区 (n=187)	28.3	69.5	2.1
	藤沢地区 (n=69)	52.2	42.0	5.8
	幡羅地区 (n=59)	54.2	40.7	5.1
	明戸地区 (n=76)	56.6	42.1	1.3
	大寄地区 (n=82)	57.3	40.2	2.4
	八基地区 (n=67)	53.7	44.8	1.5
	豊里地区 (n=69)	71.0	29.0	-
	上柴地区 (n=64)	43.8	54.7	1.6
	南地区 (n=32)	50.0	46.9	3.1
	岡部地区 (n=80)	48.8	51.2	-
	川本地区 (n=75)	56.0	41.3	2.7
	花園地区 (n=64)	67.2	31.3	1.6
	わからない (n=9)	-	100.0	-

職業別にみると、<会社員、公務員>では「ある」「ない」が同率、<自営業、農林業、自由業><家事専業><無職>では「ある」、そのほかの職業では「ない」が多くなっています。

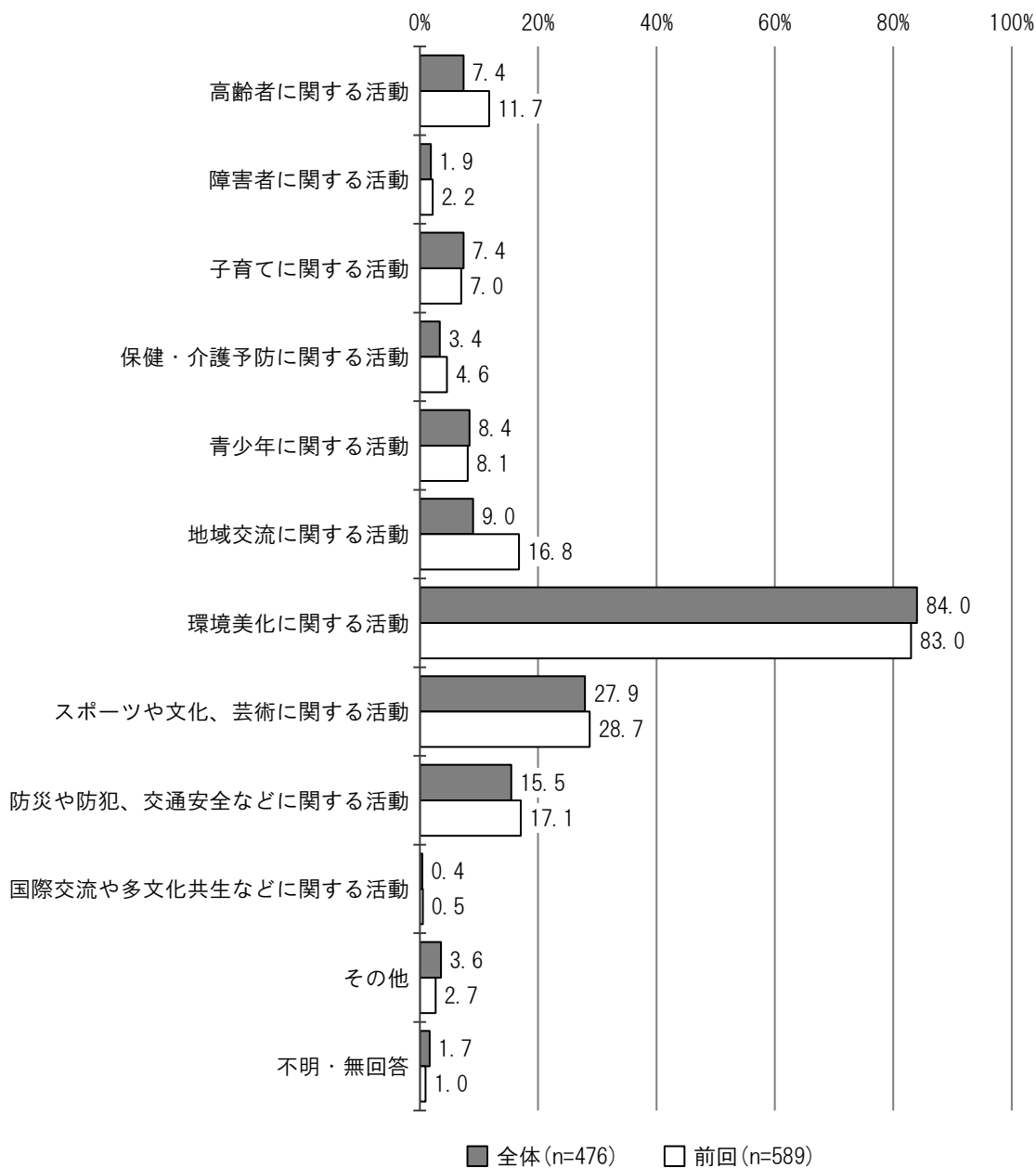
%		ある	ない	不明・ 無回答
職業別	全体 (n=953)	49.9	47.8	2.2
	会社員、公務員 (n=299)	49.8	49.8	0.3
	自営業、農林業、 自由業 (n=119)	58.0	39.5	2.5
	パート・アルバイト、 フリーター (n=154)	46.1	53.2	0.6
	学生 (n=25)	28.0	72.0	-
	家事専業 (n=111)	55.9	41.4	2.7
	無職 (n=206)	47.1	46.6	6.3
	その他 (n=21)	42.9	57.1	-

問 16 で「ある」を選択した方

問 17 主にどのような活動をされました（しています）か。 (複数回答)

全体では「環境美化に関する活動」が 84.0%と最も多く、次いで「スポーツや文化、芸術に関する活動」が 27.9%、「防災や防犯、交通安全などに関する活動」が 15.5%となっています。

前回調査と比較すると、「地域交流に関する活動」で減少傾向がみられます。



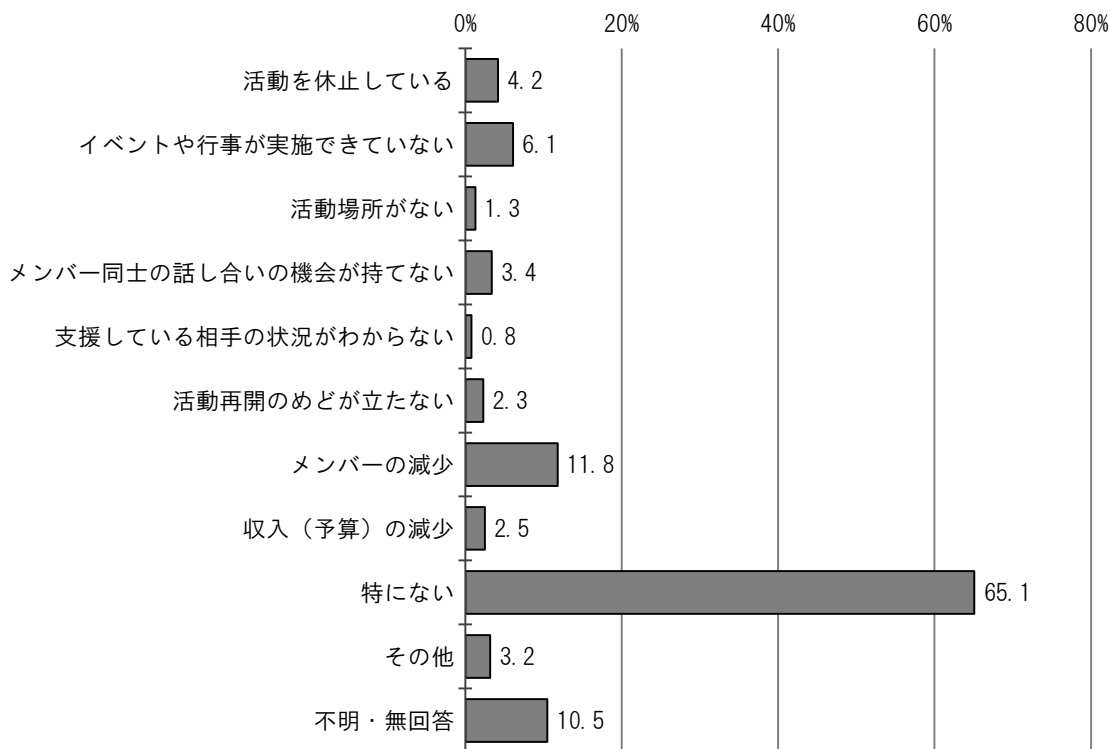
問 16 で「ある」を選択した方

問 18 活動する上で、現時点で新型コロナウイルス感染症の影響は出ていますか。

(複数回答)

全体では「特にない」が 65.1%と最も多く、次いで「メンバーの減少」が 11.8%、「イベントや行事が実施できていない」が 6.1%となっています。

全体 (n=476)

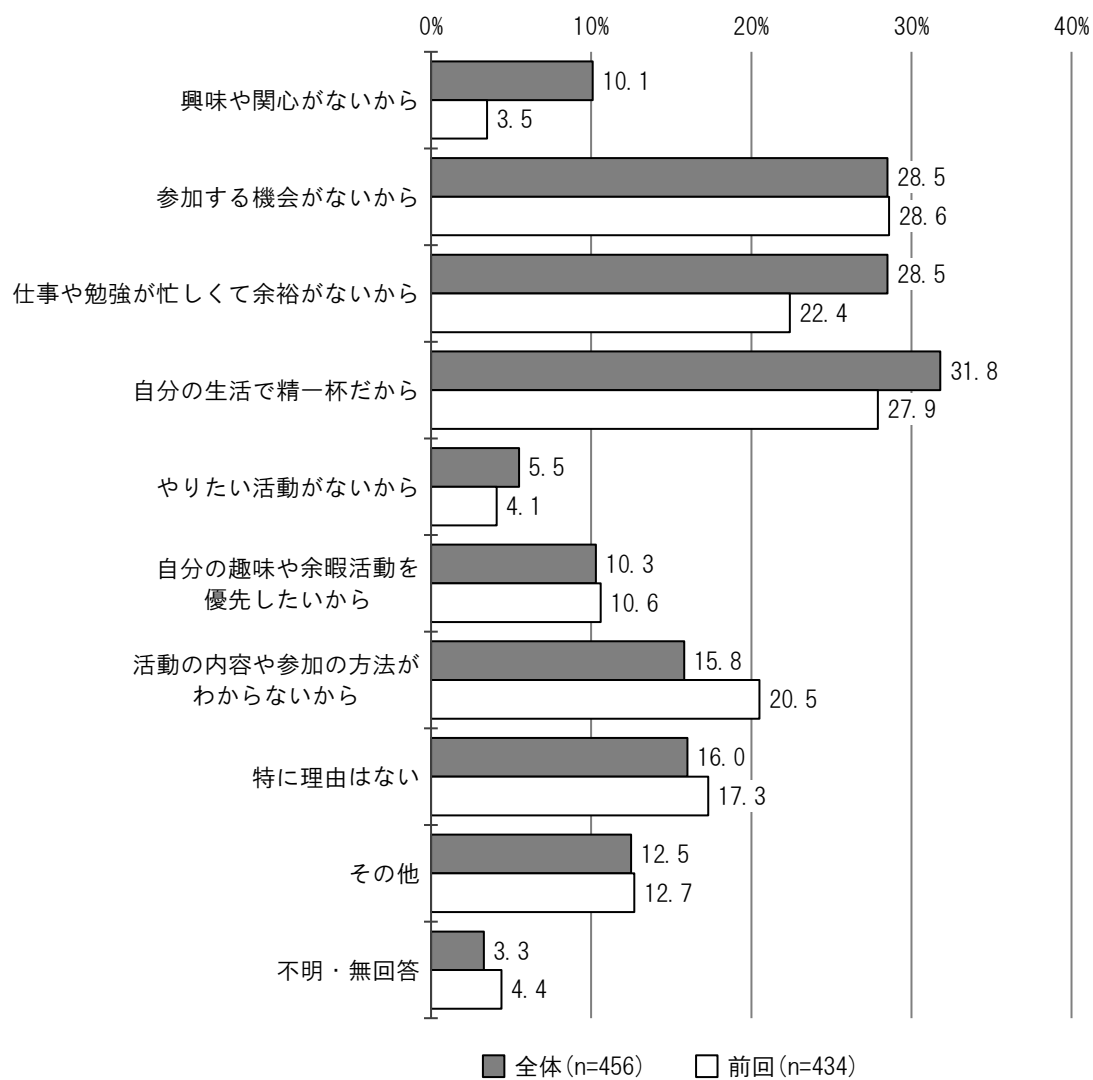


問 16 で「ない」を選択した方

問 19 あなたが地域活動やボランティア活動に参加していない（できない）理由は何ですか。（複数回答）

全体では「自分の生活で精一杯だから」が31.8%と最も多く、次いで「参加する機会がないから」「仕事や勉強が忙しくて余裕がないから」が28.5%となっています。

前回調査と比較すると、「興味や関心がないから」「仕事や勉強が忙しくて余裕がないから」で増加傾向がみられます。



年齢別にみると、<60歳代><70歳以上>では「自分の生活で精一杯だから」、そのほかの年齢では「仕事や勉強が忙しくて余裕がないから」が最も多くなっています。

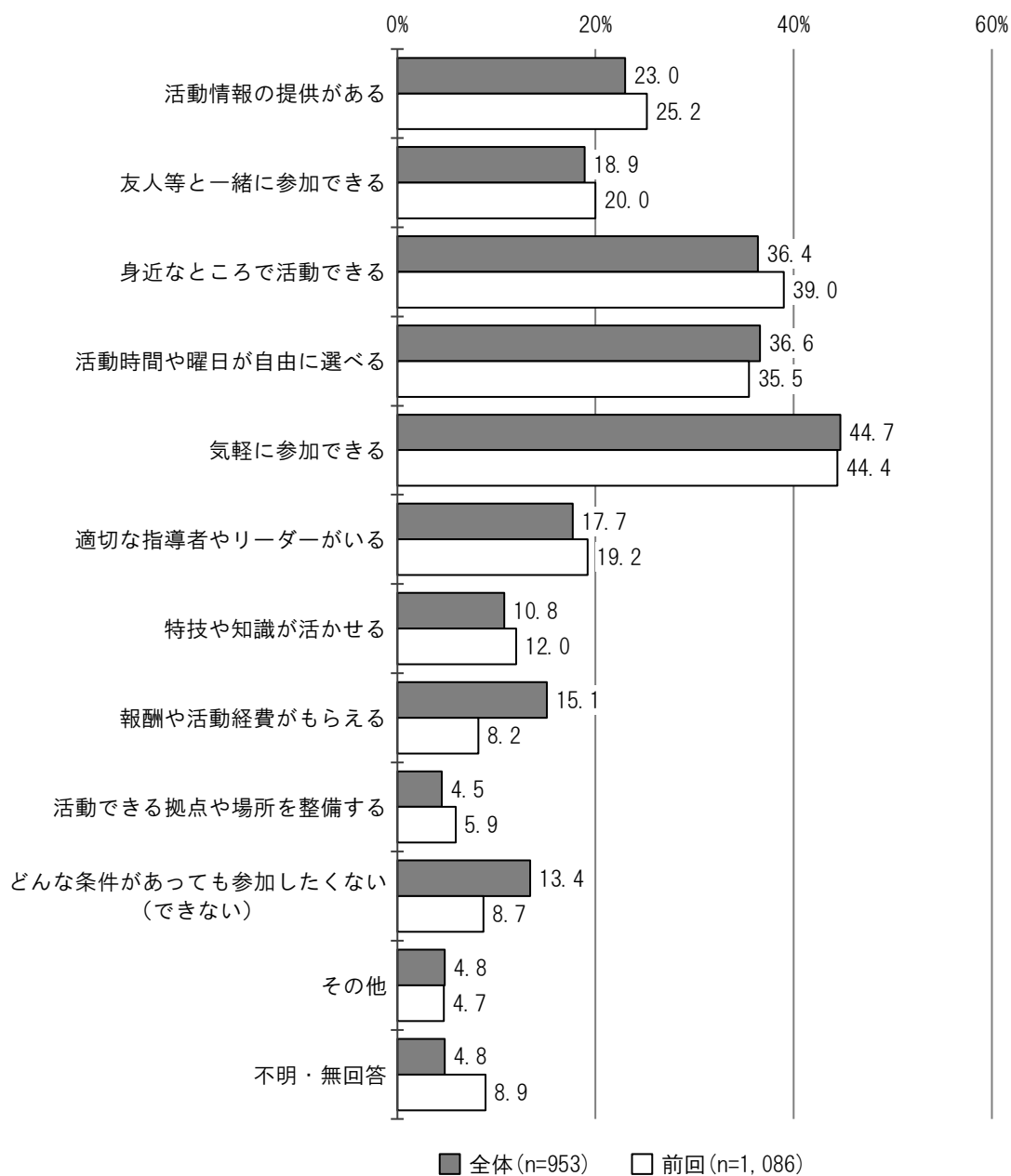
%		興味や関心がないから	参加する機会がないから	仕事や勉強が忙しくて余裕がないから	自分の生活で精一杯だから	やりたい活動がないから	自分の趣味や余暇活動を優先したいから	活動の内容や参加の方法がわからないから
年齢別	全体 (n=456)	10.1	28.5	28.5	31.8	5.5	10.3	15.8
	18～29歳 (n=55)	18.2	30.9	38.2	27.3	7.3	25.5	20.0
	30歳代 (n=45)	13.3	26.7	40.0	26.7	-	13.3	8.9
	40歳代 (n=72)	9.7	30.6	43.1	38.9	5.6	9.7	22.2
	50歳代 (n=91)	8.8	26.4	42.9	34.1	3.3	7.7	20.9
	60歳代 (n=80)	7.5	31.3	21.3	32.5	8.8	8.8	12.5
	70歳以上 (n=107)	7.5	26.2	2.8	29.9	5.6	5.6	10.3
%		特に理由はない	その他	不明・無回答				
年齢別	全体 (n=456)	16.0	12.5	3.3				
	18～29歳 (n=55)	16.4	7.3	1.8				
	30歳代 (n=45)	6.7	8.9	4.4				
	40歳代 (n=72)	5.6	6.9	1.4				
	50歳代 (n=91)	15.4	5.5	2.2				
	60歳代 (n=80)	22.5	13.8	6.3				
	70歳以上 (n=107)	22.4	25.2	3.7				

問 20 あなたは、どんな条件があれば、地域活動やボランティア活動に参加しますか。

(複数回答)

全体では「気軽に参加できる」が44.7%と最も多く、次いで「活動時間や曜日が自由に選べる」が36.6%、「身近なところで活動できる」が36.4%となっています。

前回調査と比較すると、「報酬や活動経費がもらえる」で増加傾向がみられます。



年齢別にみると、<30歳代><50歳代>では「活動時間や曜日が自由に選べる」、そのほかの年齢では「気軽に参加できる」が最も多くなっています。

%		活動情報の提供がある	友人等と一緒に参加できる	身近なところで活動できる	活動時間や曜日が自由に選べる	気軽に参加できる	適切な指導者やリーダーがいる	特技や知識が活かせる
年齢別	全体 (n=953)	23.0	18.9	36.4	36.6	44.7	17.7	10.8
	18～29歳 (n=73)	23.3	31.5	42.5	38.4	57.5	13.7	11.0
	30歳代 (n=74)	9.5	14.9	29.7	37.8	36.5	16.2	6.8
	40歳代 (n=143)	20.3	23.8	35.0	41.3	54.5	18.9	14.7
	50歳代 (n=170)	27.1	14.1	38.2	47.1	45.9	19.4	11.2
	60歳代 (n=180)	27.2	16.7	35.0	36.7	41.7	16.7	15.0
	70歳以上 (n=295)	21.7	19.0	36.6	27.8	39.7	17.6	6.8
%		報酬や活動経費がもらえる	活動できる拠点や場所を整備する	どんな条件があっても参加したくない(できない)	その他	不明・無回答		
年齢別	全体 (n=953)	15.1	4.5	13.4	4.8	4.8		
	18～29歳 (n=73)	32.9	5.5	13.7	-	-		
	30歳代 (n=74)	28.4	5.4	16.2	6.8	1.4		
	40歳代 (n=143)	28.7	4.2	7.7	2.8	1.4		
	50歳代 (n=170)	11.8	4.1	10.6	4.7	3.5		
	60歳代 (n=180)	12.8	7.8	14.4	6.1	5.0		
	70歳以上 (n=295)	4.1	2.0	16.9	6.1	9.5		

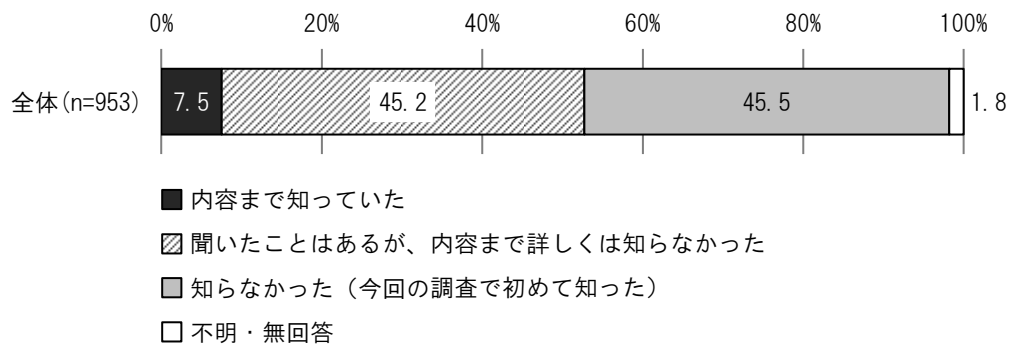
職業別にみると、<その他>では「身近なところで活動できる」「活動時間や曜日が自由に選べる」、そのほかの職業では「気軽に参加できる」が最も多くなっています。

%		活動情報の提供がある	友人等と一緒に参加できる	身近なところで活動できる	活動時間や曜日が自由に選べる	気軽に参加できる	適切な指導者やリーダーがいる	特技や知識が活かせる
職業別	全体 (n=953)	23.0	18.9	36.4	36.6	44.7	17.7	10.8
	会社員、公務員 (n=299)	22.7	18.7	33.8	42.5	48.2	19.7	12.4
	自営業、農林業、自由業 (n=119)	27.7	16.0	35.3	38.7	47.9	21.0	10.9
	パート・アルバイト、フリーター (n=154)	22.7	22.7	42.9	45.5	49.4	15.6	9.1
	学生 (n=25)	28.0	44.0	52.0	48.0	68.0	16.0	16.0
	家事専業 (n=111)	18.9	21.6	39.6	24.3	44.1	15.3	6.3
	無職 (n=206)	20.9	12.6	31.1	25.2	32.5	15.5	9.7
	その他 (n=21)	23.8	33.3	42.9	42.9	33.3	14.3	23.8
%		報酬や活動経費がもらえる	活動できる拠点や場所を整備する	どんな条件があっても参加したくない(できない)	その他	不明・無回答		
職業別	全体 (n=953)	15.1	4.5	13.4	4.8	4.8		
	会社員、公務員 (n=299)	23.1	4.3	6.4	4.7	3.0		
	自営業、農林業、自由業 (n=119)	8.4	7.6	10.9	5.9	5.0		
	パート・アルバイト、フリーター (n=154)	21.4	4.5	11.0	2.6	3.2		
	学生 (n=25)	32.0	4.0	4.0	-	-		
	家事専業 (n=111)	5.4	1.8	22.5	4.5	5.4		
	無職 (n=206)	7.3	3.4	22.8	7.8	9.2		
	その他 (n=21)	-	9.5	23.8	-	4.8		

4 福祉の取り組みについて

問 21 あなたは「地域共生社会」という言葉を知っていましたか。 (単数回答)

全体では「知らなかった（今回の調査で初めて知った）」が 45.5%と最も多く、次いで「聞いたことはあるが、内容まで詳しくは知らなかった」が 45.2%、「内容まで知っていた」が 7.5%となっています。

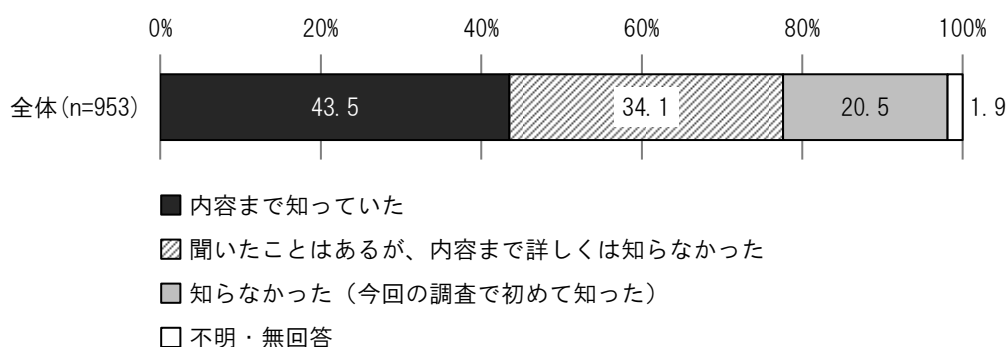


年齢別にみると、<18～29歳><30歳代><40歳代>では「知らなかった（今回の調査で初めて知った）」、<50歳代><60歳代><70歳以上>では「聞いたことはあるが、内容まで詳しくは知らなかった」が最も多くなっています。

%		内容まで知っていた	聞いたことはあるが、内容まで詳しくは知らなかった	知らなかった（今回の調査で初めて知った）	不明・無回答
年齢別	全体 (n=953)	7.5	45.2	45.5	1.8
	18～29歳 (n=73)	12.3	35.6	52.1	-
	30歳代 (n=74)	9.5	41.9	48.6	-
	40歳代 (n=143)	5.6	42.7	51.7	-
	50歳代 (n=170)	4.7	48.8	45.9	0.6
	60歳代 (n=180)	8.9	47.2	43.3	0.6
	70歳以上 (n=295)	7.8	46.1	41.0	5.1

問 22 あなたは「ケアラー（ヤングケアラー等を含む）」という言葉を知っていましたか。
 (単数回答)

全体では「内容まで知っていた」が43.5%と最も多く、次いで「聞いたことはあるが、内容まで詳しくは知らなかった」が34.1%、「知らなかった（今回の調査で初めて知った）」が20.5%となっています。



年齢別にみると、<70歳以上>では「聞いたことはあるが、内容まで詳しくは知らなかった」、そのほかの年齢では「内容まで知っていた」が最も多くなっています。

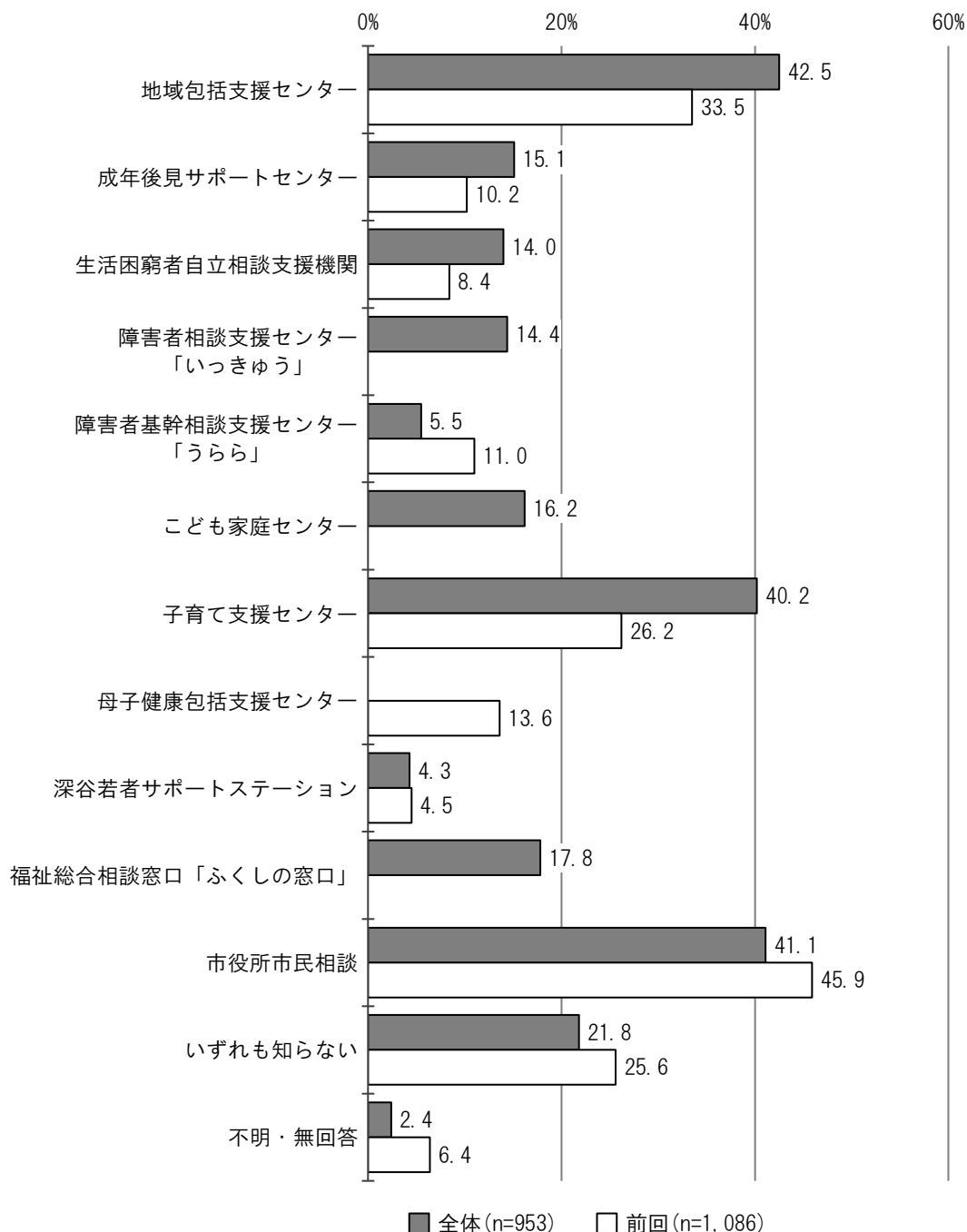
%		内容まで知っていた	聞いたことはあるが、内容まで詳しくは知らなかった	知らなかった（今回の調査で初めて知った）	不明・無回答
年齢別	全体(n=953)	43.5	34.1	20.5	1.9
	18～29歳(n=73)	52.1	34.2	13.7	-
	30歳代(n=74)	51.4	20.3	28.4	-
	40歳代(n=143)	53.8	28.7	17.5	-
	50歳代(n=170)	54.1	25.9	19.4	0.6
	60歳代(n=180)	41.1	38.9	18.9	1.1
	70歳以上(n=295)	31.2	40.3	23.4	5.1

問 23 あなたは次の相談支援窓口を知っていますか。

(複数回答)

全体では「地域包括支援センター」が42.5%と最も多く、次いで「市役所市民相談」が41.1%、「子育て支援センター」が40.2%となっています。

前回調査と比較すると、「地域包括支援センター」「生活困窮者自立相談支援機関」「子育て支援センター」で増加傾向がみられます。また、「障害者基幹相談支援センター『うらら』」で減少傾向がみられます。



※ 今回調査のみの選択肢：「障害者相談支援センター『いっきゅう』」「こども家庭センター」「福祉総合相談窓口『ふくしの窓口』」

前回調査のみの選択肢：「母子健康包括支援センター」

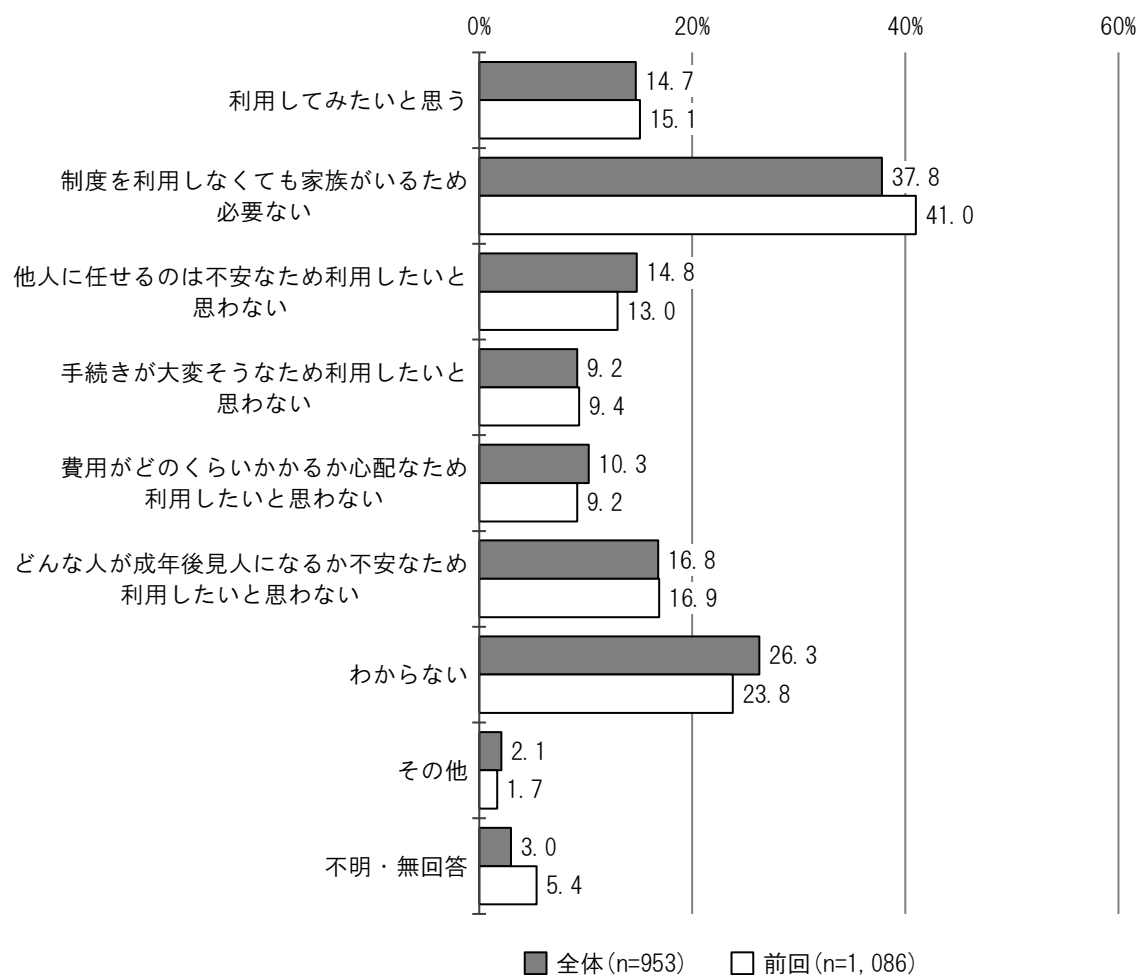
年齢別にみると、<50歳代>では「市役所市民相談」、<60歳代><70歳以上>では「地域包括支援センター」、そのほかの年齢では「子育て支援センター」が最も多くなっています。

%		地域包括支援センター	成年後見サポートセンター	生活困窮者自立支援機関	障害者相談支援センター「いきゆう」	障害者基幹相談支援センター「うらら」	こども家庭センター	子育て支援センター
年齢別	全体 (n=953)	42.5	15.1	14.0	14.4	5.5	16.2	40.2
	18～29歳 (n=73)	26.0	9.6	9.6	21.9	4.1	27.4	56.2
	30歳代 (n=74)	25.7	8.1	12.2	6.8	2.7	32.4	60.8
	40歳代 (n=143)	31.5	14.7	18.2	16.8	7.0	30.1	62.2
	50歳代 (n=170)	41.2	12.4	13.5	14.7	4.1	14.1	44.7
	60歳代 (n=180)	51.7	13.9	15.6	16.1	7.8	13.9	36.1
	70歳以上 (n=295)	51.9	20.3	13.6	12.2	5.4	5.1	20.0
%		深谷若者サポートステーション	福祉総合相談窓口「ふくしの窓口」	市役所市民相談	いずれも知らない	不明・無回答		
年齢別	全体 (n=953)	4.3	17.8	41.1	21.8	2.4		
	18～29歳 (n=73)	5.5	13.7	27.4	31.5	-		
	30歳代 (n=74)	5.4	8.1	21.6	29.7	-		
	40歳代 (n=143)	6.3	20.3	29.4	20.3	0.7		
	50歳代 (n=170)	2.9	15.3	46.5	20.6	0.6		
	60歳代 (n=180)	4.4	22.8	47.2	18.9	0.6		
	70歳以上 (n=295)	3.7	19.3	48.1	20.7	6.4		

問 24 成年後見制度についておたずねします。自分や親族が判断を十分にできなくなったとき「成年後見制度」を利用したいと思いますか。 (複数回答)

全体では「制度を利用しなくても家族がいるため必要ない」が37.8%と最も多く、次いで「わからない」が26.3%、「どんな人が成年後見人になるか不安なため利用したいと思わない」が16.8%となっています。

前回調査と比較すると、大きな傾向の変化はみられません。



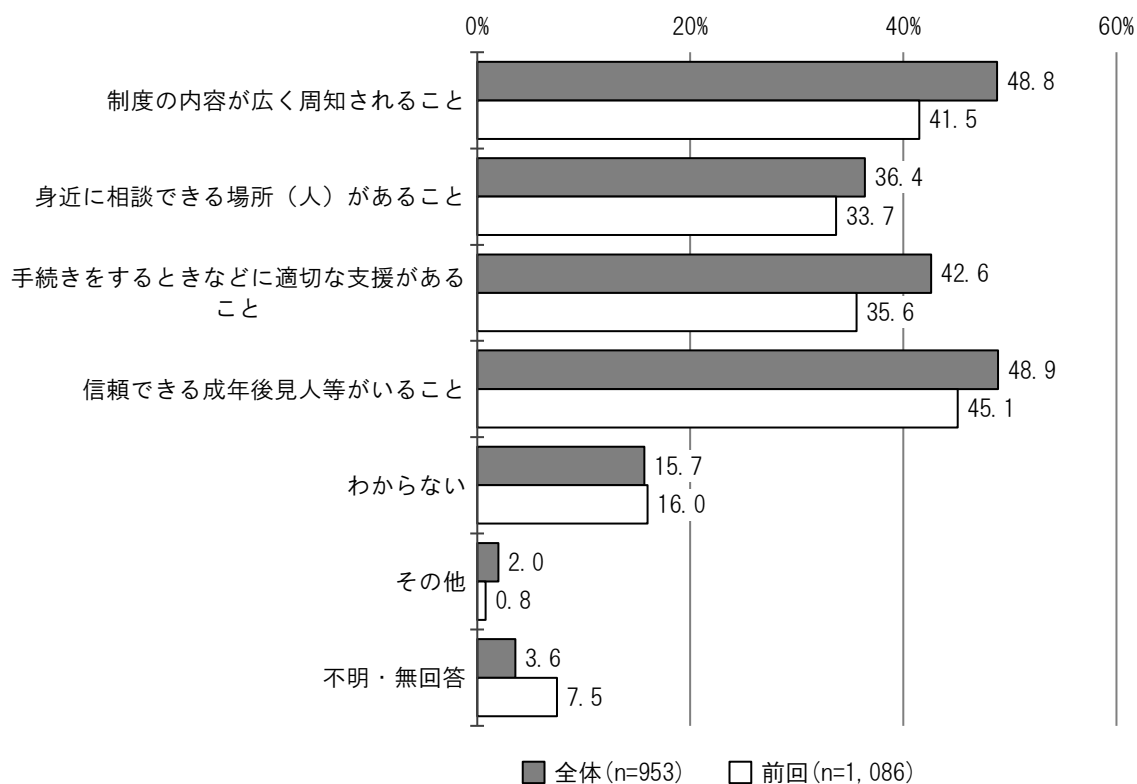
年齢別にみると、<18～29歳><30歳代><40歳代>では「わからない」、<50歳代><60歳代><70歳以上>では「制度を利用しなくても家族がいるため必要ない」が最も多くなっています。

%		利用してみたいと思う	制度を利用しなくても家族がいるため必要ない	他人に任せるのは不安なため利用したいと思わない	手続きが大変そうなので利用したいと思わない	費用がどのくらいかかるか心配なため利用したいと思わない	どんな人が成年後見人になるか不安なため利用したいと思わない	わからない
年齢別	全体 (n=953)	14.7	37.8	14.8	9.2	10.3	16.8	26.3
	18～29歳 (n=73)	20.5	19.2	9.6	11.0	12.3	9.6	43.8
	30歳代 (n=74)	17.6	25.7	14.9	8.1	18.9	12.2	29.7
	40歳代 (n=143)	21.7	21.0	15.4	11.9	14.0	18.2	32.2
	50歳代 (n=170)	20.0	28.8	13.5	9.4	12.9	20.6	27.6
	60歳代 (n=180)	11.7	46.7	15.6	8.3	8.3	17.2	27.2
	70歳以上 (n=295)	7.8	53.6	16.6	7.5	5.1	16.6	18.0
%		その他	不明・無回答					
年齢別	全体 (n=953)	2.1	3.0					
	18～29歳 (n=73)	-	-					
	30歳代 (n=74)	-	-					
	40歳代 (n=143)	2.8	-					
	50歳代 (n=170)	1.2	1.8					
	60歳代 (n=180)	3.3	2.2					
	70歳以上 (n=295)	2.7	7.1					

問 25 成年後見制度を安心して利用するために、どのようなことが必要だと思いますか。
(複数回答)

全体では「信頼できる成年後見人等がいること」が48.9%と最も多く、次いで「制度の内容が広く周知されること」が48.8%、「手続きをするときなどに適切な支援があること」が42.6%となっています。

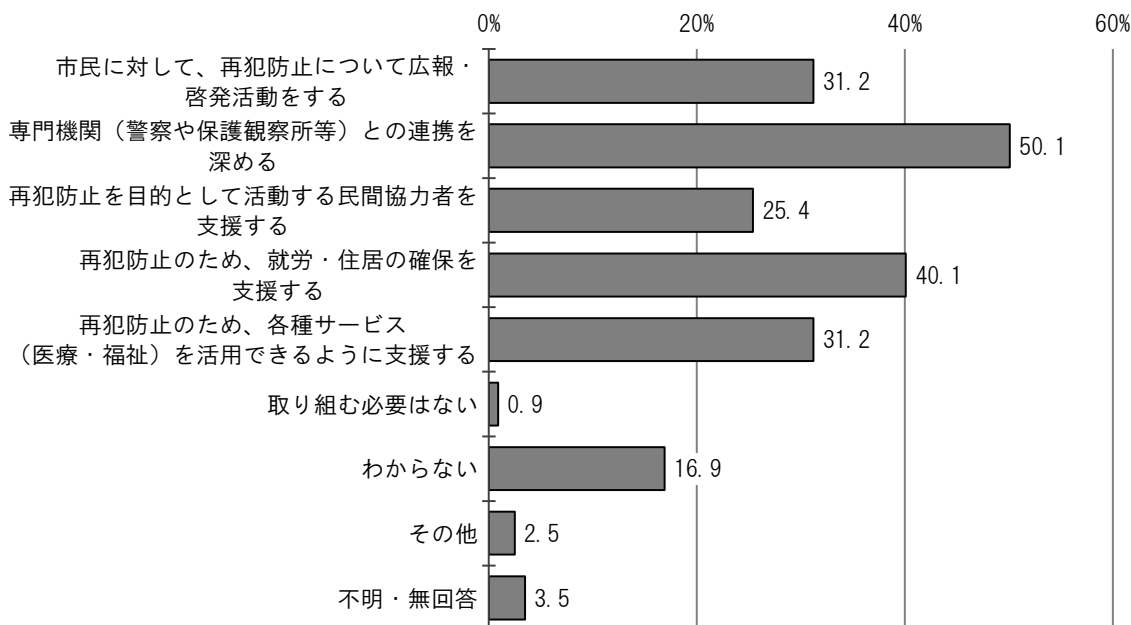
前回調査と比較すると、「制度の内容が広く周知されること」「手続きをするときなどに適切な支援があること」で増加傾向がみられます。



問 26 約 20 年の間、全国の犯罪件数は減少傾向ですが、再犯者の割合は 50%弱で推移しています。再犯の要因の一つに地域との希薄な関係が考えられます。再犯防止のために、あなたが行政に望むものはどれですか。 (複数回答)

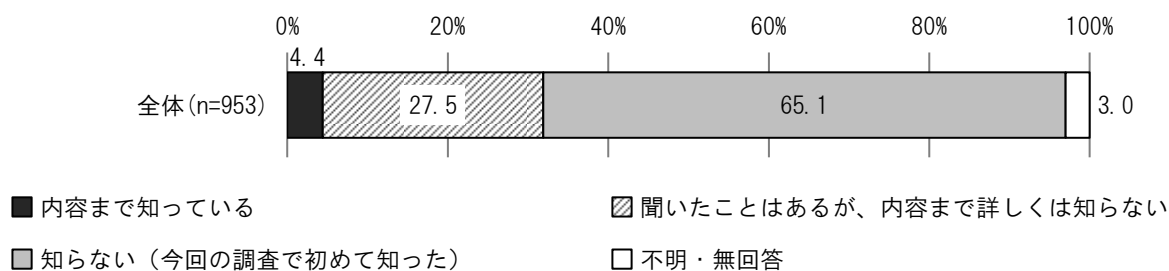
全体では「専門機関（警察や保護観察所等）との連携を深める」が 50.1%と最も多く、次いで「再犯防止のため、就労・住居の確保を支援する」が 40.1%、「市民に対して、再犯防止について広報・啓発活動をする」「再犯防止のため、各種サービス（医療・福祉）を活用できるように支援する」が 31.2%となっています。

全体 (n=953)



問 27 あなたは、「社会を明るくする運動」という言葉を知っていますか。（単数回答）

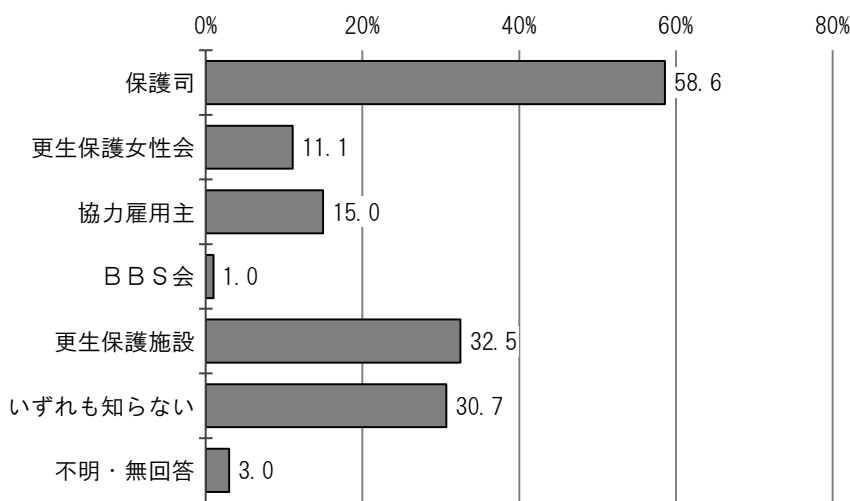
全体では「知らない（今回の調査で初めて知った）」が 65.1%と最も多く、次いで「聞いたことはあるが、内容まで詳しくは知らない」が 27.5%、「内容まで知っている」が 4.4%となっています。



問 28 あなたは、再犯防止に協力する民間協力者として、次の方や団体等を知っていますか。（複数回答）

全体では「保護司」が 58.6%と最も多く、次いで「更生保護施設」が 32.5%、「いずれも知らない」が 30.7%となっています。

全体 (n=953)

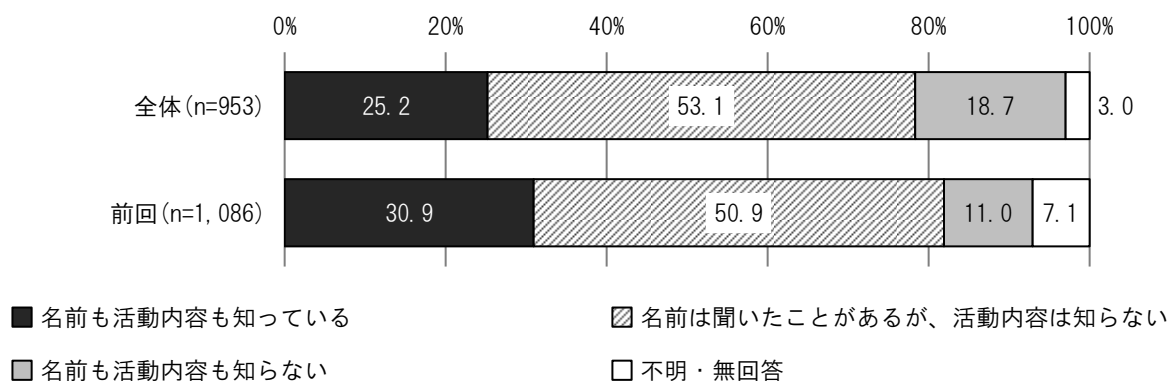


5 「社会福祉協議会」及び「民生委員・児童委員」について

問 29 あなたは、深谷市社会福祉協議会を知っていますか。 (単数回答)

全体では「名前は聞いたことがあるが、活動内容は知らない」が53.1%と最も多く、次いで「名前も活動内容も知っている」が25.2%、「名前も活動内容も知らない」が18.7%となっています。

前回調査と比較すると、「名前も活動内容も知らない」で増加傾向がみられます。また、「名前も活動内容も知っている」で減少傾向がみられます。



年齢別にみると、すべての年齢で「名前は聞いたことがあるが、活動内容は知らない」が最も多くなっています。

%		名前も活動内容も知っている	名前は聞いたことがあるが、活動内容は知らない	名前も活動内容も知らない	不明・無回答
年齢別	全体 (n=953)	25.2	53.1	18.7	3.0
	18～29歳 (n=73)	4.1	52.1	42.5	1.4
	30歳代 (n=74)	20.3	47.3	32.4	-
	40歳代 (n=143)	16.8	52.4	29.4	1.4
	50歳代 (n=170)	19.4	61.2	17.6	1.8
	60歳代 (n=180)	28.9	56.7	12.8	1.7
	70歳以上 (n=295)	37.3	48.5	8.5	5.8

地区別にみると、すべての地区で「名前は聞いたことがあるが、活動内容は知らない」が最も多くなっています。

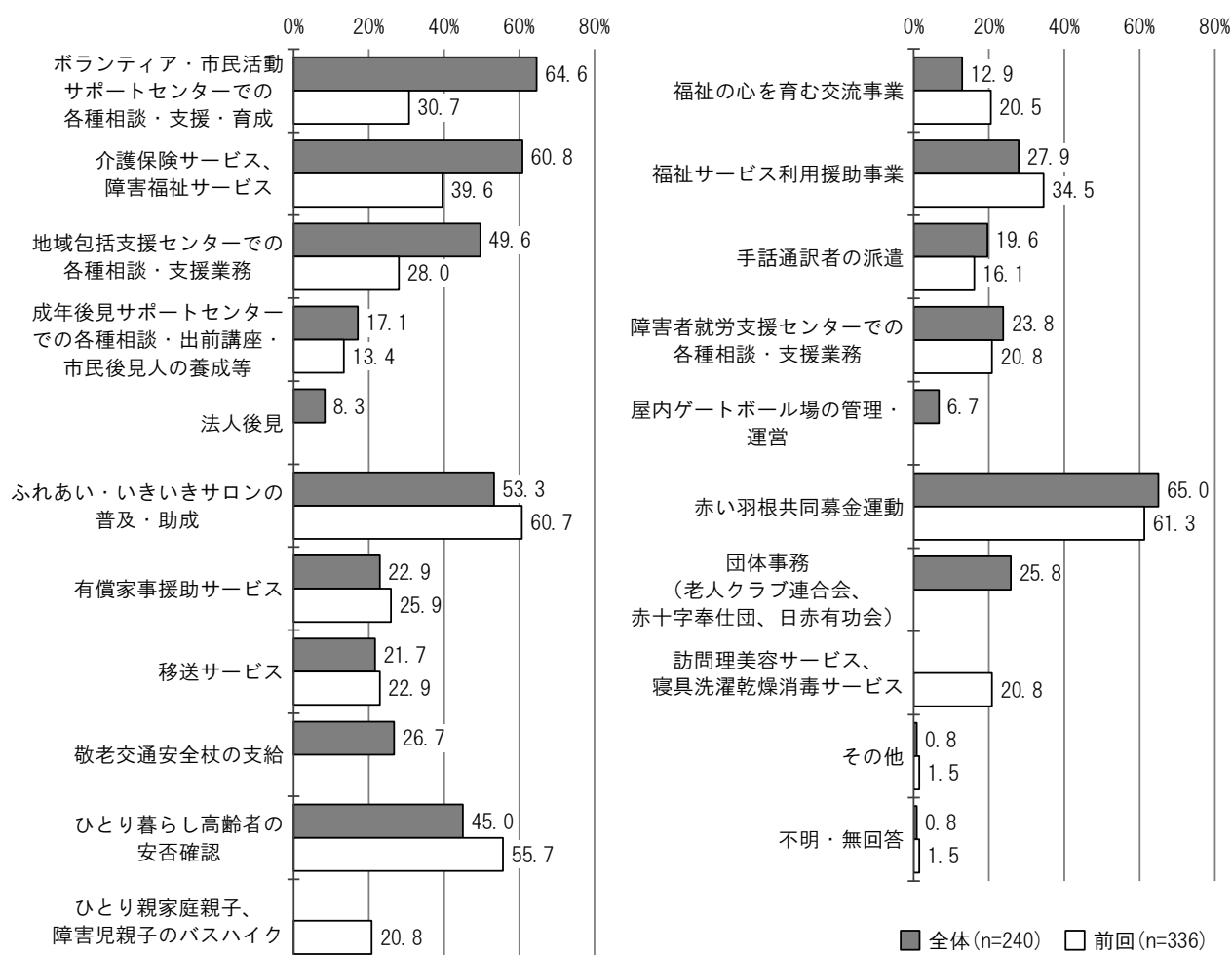
%		名前も活動内容も知っている	名前は聞いたことがあるが、活動内容は知らない	名前も活動内容も知らない	不明・無回答
地区別	全体 (n=953)	25.2	53.1	18.7	3.0
	深谷地区 (n=187)	19.3	51.3	27.3	2.1
	藤沢地区 (n=69)	24.6	58.0	14.5	2.9
	幡羅地区 (n=59)	22.0	49.2	25.4	3.4
	明戸地区 (n=76)	26.3	51.3	19.7	2.6
	大寄地区 (n=82)	26.8	50.0	18.3	4.9
	八基地区 (n=67)	34.3	52.2	13.4	-
	豊里地区 (n=69)	27.5	52.2	17.4	2.9
	上柴地区 (n=64)	32.8	42.2	23.4	1.6
	南地区 (n=32)	40.6	50.0	6.3	3.1
	岡部地区 (n=80)	17.5	67.5	12.5	2.5
	川本地区 (n=75)	22.7	57.3	14.7	5.3
	花園地区 (n=64)	31.3	56.3	10.9	1.6
	わからない (n=9)	22.2	55.6	22.2	-

問 29 で「名前も活動内容も知っている」を選択した方

問 30 あなたの知っている深谷市社会福祉協議会の活動は次のどれですか。（複数回答）

全体では「赤い羽根共同募金運動」が65.0%と最も多く、次いで「ボランティア・市民活動サポートセンターでの各種相談・支援・育成」が64.6%、「介護保険サービス、障害福祉サービス」が60.8%となっています。

前回調査と比較すると、「ボランティア・市民活動サポートセンターでの各種相談・支援・育成」「介護保険サービス、障害福祉サービス」「地域包括支援センターでの各種相談・支援業務」で増加傾向がみられます。また、「ふれあい・いきいきサロンの普及・助成」「ひとり暮らし高齢者の安否確認」「福祉の心を育む交流事業」「福祉サービス利用援助事業」で減少傾向がみられます。



※ 今回調査のみの選択肢：「法人後見」「敬老交通安全杖の支給」「屋内ゲートボール場の管理・運営」「団体事務（老人クラブ連合会、赤十字奉仕団、日赤有功会）」

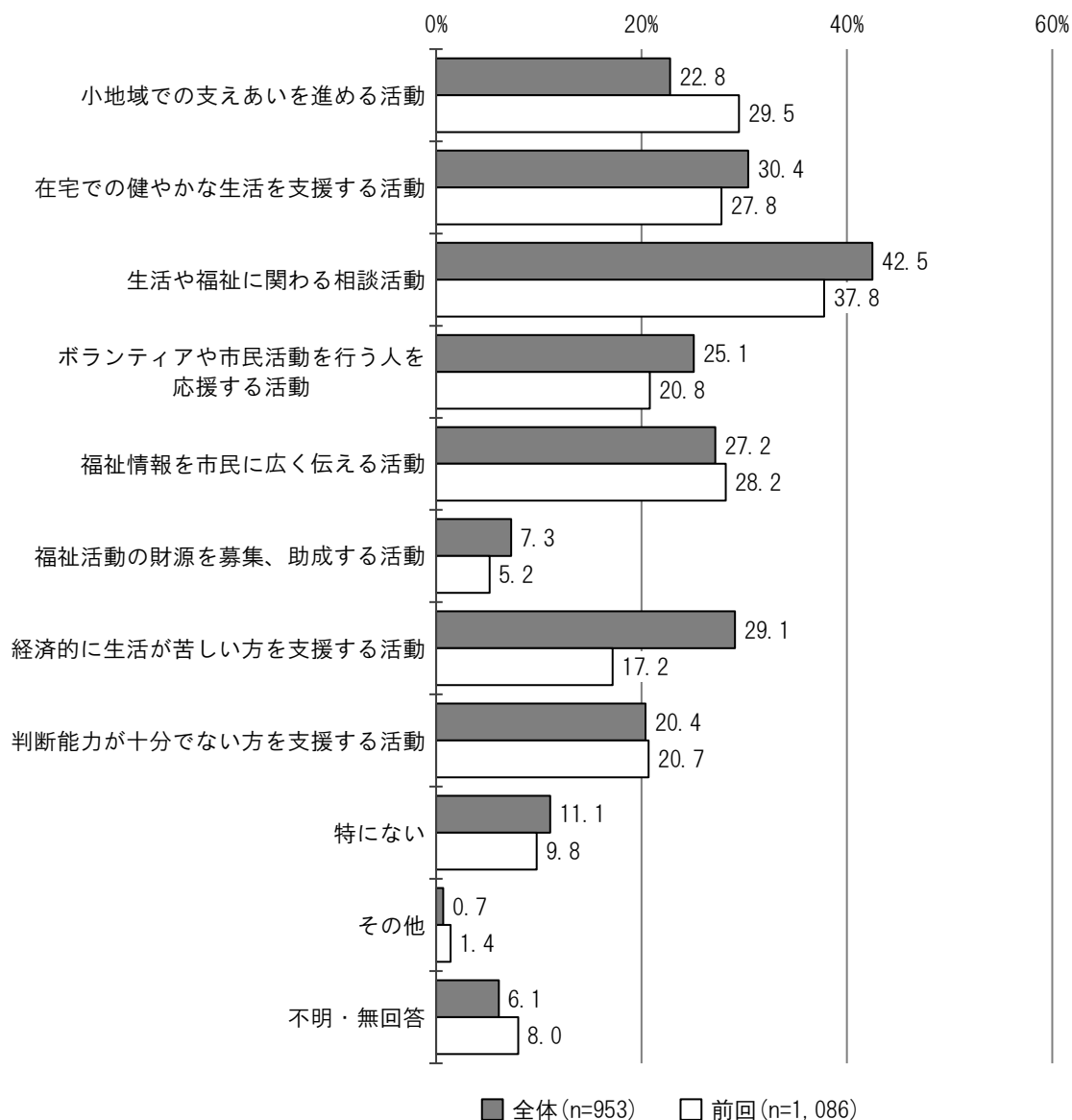
前回調査のみの選択肢：「訪問理美容サービス、寝具洗濯乾燥消毒サービス」「ひとり親家庭親子、障害児親子のバスハイク」

問 31 あなたは、深谷市社会福祉協議会に対してどのような活動を期待しますか。

(複数回答)

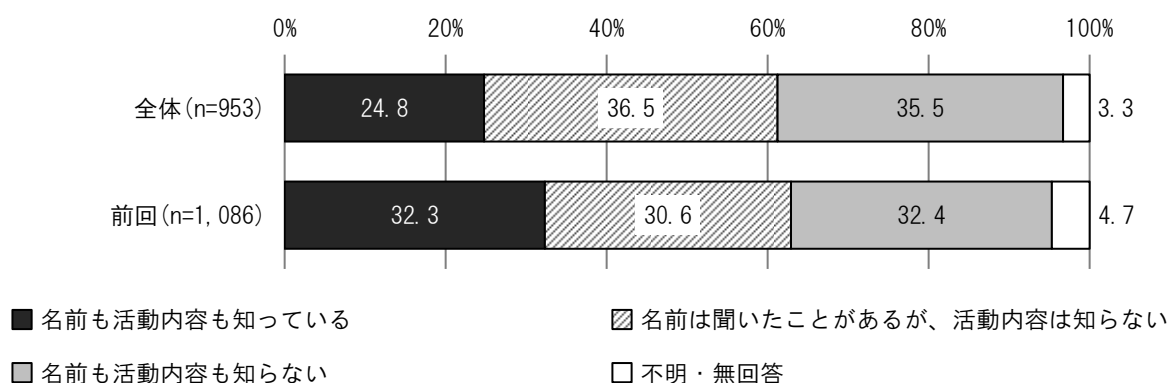
全体では「生活や福祉に関わる相談活動」が42.5%と最も多く、次いで「在宅での健やかな生活を支援する活動」が30.4%、「経済的に生活が苦しい方を支援する活動」が29.1%となっています。

前回調査と比較すると、「経済的に生活が苦しい方を支援する活動」で増加傾向がみられます。また、「小地域での支えあいを進める活動」で減少傾向がみられます。



問 32 あなたは、あなたが住んでいる地区を担当している民生委員・児童委員を知っていますか。 (単数回答)

全体では「名前は聞いたことがあるが、活動内容は知らない」が 36.5%と最も多く、次いで「名前も活動内容も知らない」が 35.5%、「名前も活動内容も知っている」が 24.8%となっています。前回調査と比較すると、「名前は聞いたことがあるが、活動内容は知らない」で増加傾向がみられます。また、「名前も活動内容も知っている」で減少傾向がみられます。



年齢別にみると、<50 歳代><60 歳代>では「名前は聞いたことがあるが、活動内容は知らない」、<70 歳以上>では「名前も活動内容も知っている」、そのほかの年齢では「名前も活動内容も知らない」が最も多くなっています。

%		名前も活動内容も知っている	名前は聞いたことがあるが、活動内容は知らない	名前も活動内容も知らない	不明・無回答
年齢別	全体 (n=953)	24.8	36.5	35.5	3.3
	18～29歳 (n=73)	5.5	26.0	67.1	1.4
	30歳代 (n=74)	10.8	28.4	60.8	-
	40歳代 (n=143)	16.1	31.5	51.7	0.7
	50歳代 (n=170)	13.5	44.7	40.0	1.8
	60歳代 (n=180)	24.4	46.1	28.3	1.1
	70歳以上 (n=295)	44.1	32.9	15.9	7.1

地区別にみると、<深谷地区><幡羅地区><上柴地区><川本地区>では「名前も活動内容も知らない」、<藤沢地区><明戸地区><岡部地区><花園地区>では「名前は聞いたことがあるが、活動内容は知らない」、<大寄地区><八基地区><豊里地区><南地区>では「名前も活動内容も知っている」が最も多くなっています。

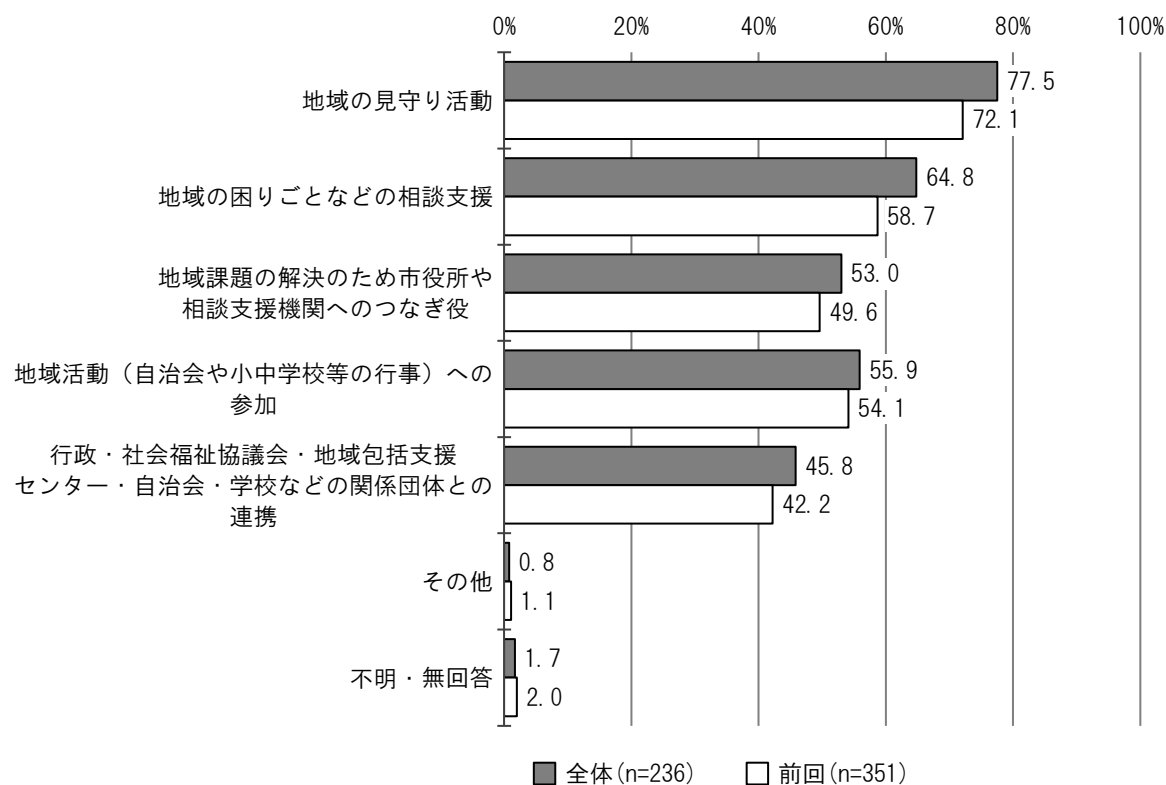
%		名前も活動内容も知っている	名前は聞いたことがあるが、活動内容は知らない	名前も活動内容も知らない	不明・無回答
地区別	全体 (n=953)	24.8	36.5	35.5	3.3
	深谷地区 (n=187)	15.0	33.7	50.8	0.5
	藤沢地区 (n=69)	27.5	42.0	27.5	2.9
	幡羅地区 (n=59)	16.9	35.6	42.4	5.1
	明戸地区 (n=76)	21.1	50.0	26.3	2.6
	大寄地区 (n=82)	34.1	32.9	28.0	4.9
	八基地区 (n=67)	38.8	32.8	26.9	1.5
	豊里地区 (n=69)	39.1	34.8	23.2	2.9
	上柴地区 (n=64)	18.8	35.9	43.8	1.6
	南地区 (n=32)	43.8	28.1	25.0	3.1
	岡部地区 (n=80)	20.0	38.8	37.5	3.8
	川本地区 (n=75)	25.3	29.3	37.3	8.0
	花園地区 (n=64)	26.6	45.3	26.6	1.6
	わからない (n=9)	-	33.3	66.7	-

問 32 で「名前も活動内容も知っている」を選択した方

問 33 あなたの知っている民生委員・児童委員の活動は次のどれですか。（複数回答）

全体では「地域の見守り活動」が 77.5%と最も多く、次いで「地域の困りごとなどの相談支援」が 64.8%、「地域活動（自治会や小中学校等の行事）への参加」が 55.9%となっています。

前回調査と比較すると、「地域の見守り活動」「地域の困りごとなどの相談支援」で増加傾向がみられます。

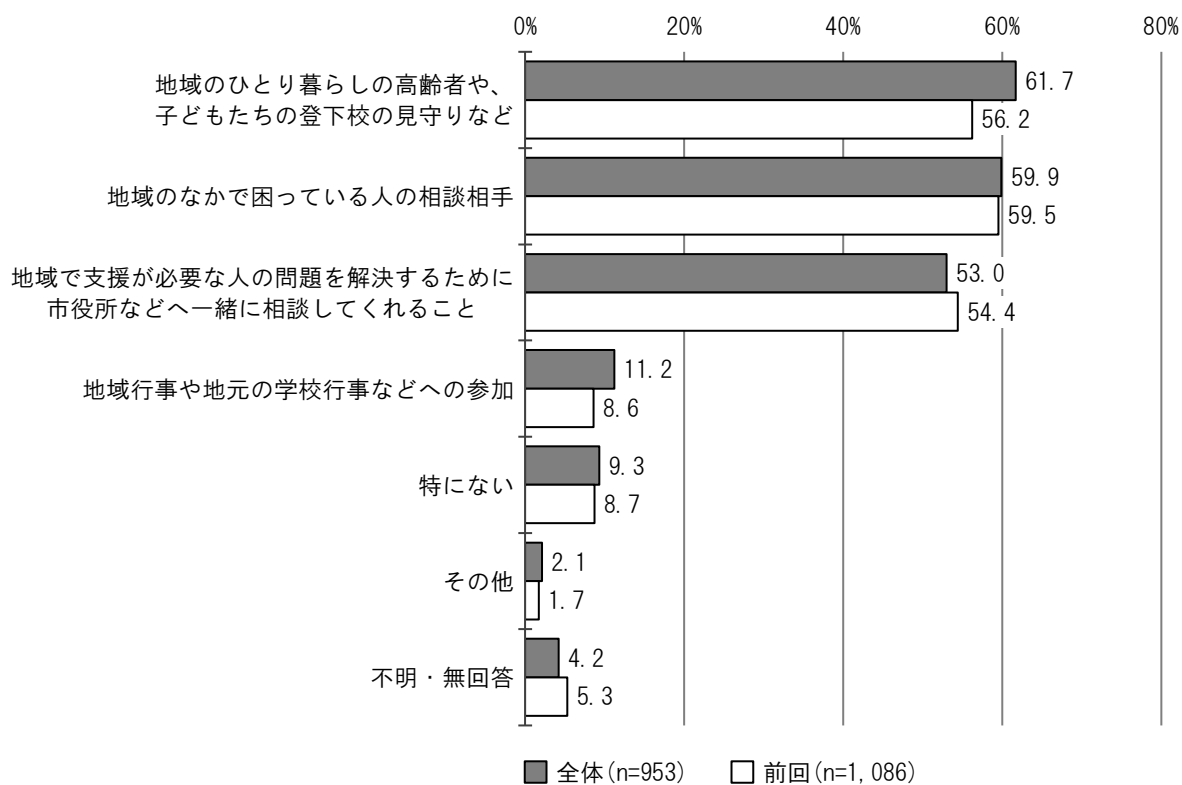


問 34 あなたは、民生委員・児童委員に対してどのような活動や支援を期待しますか。

(複数回答)

全体では「地域のひとり暮らしの高齢者や、子どもたちの登下校の見守りなど」が61.7%と最も多く、次いで「地域のなかで困っている人の相談相手」が59.9%、「地域で支援が必要な人の問題を解決するために市役所などへ一緒に相談してくれること」が53.0%となっています。

前回調査と比較すると、「地域のひとり暮らしの高齢者や、子どもたちの登下校の見守りなど」で増加傾向がみられます。

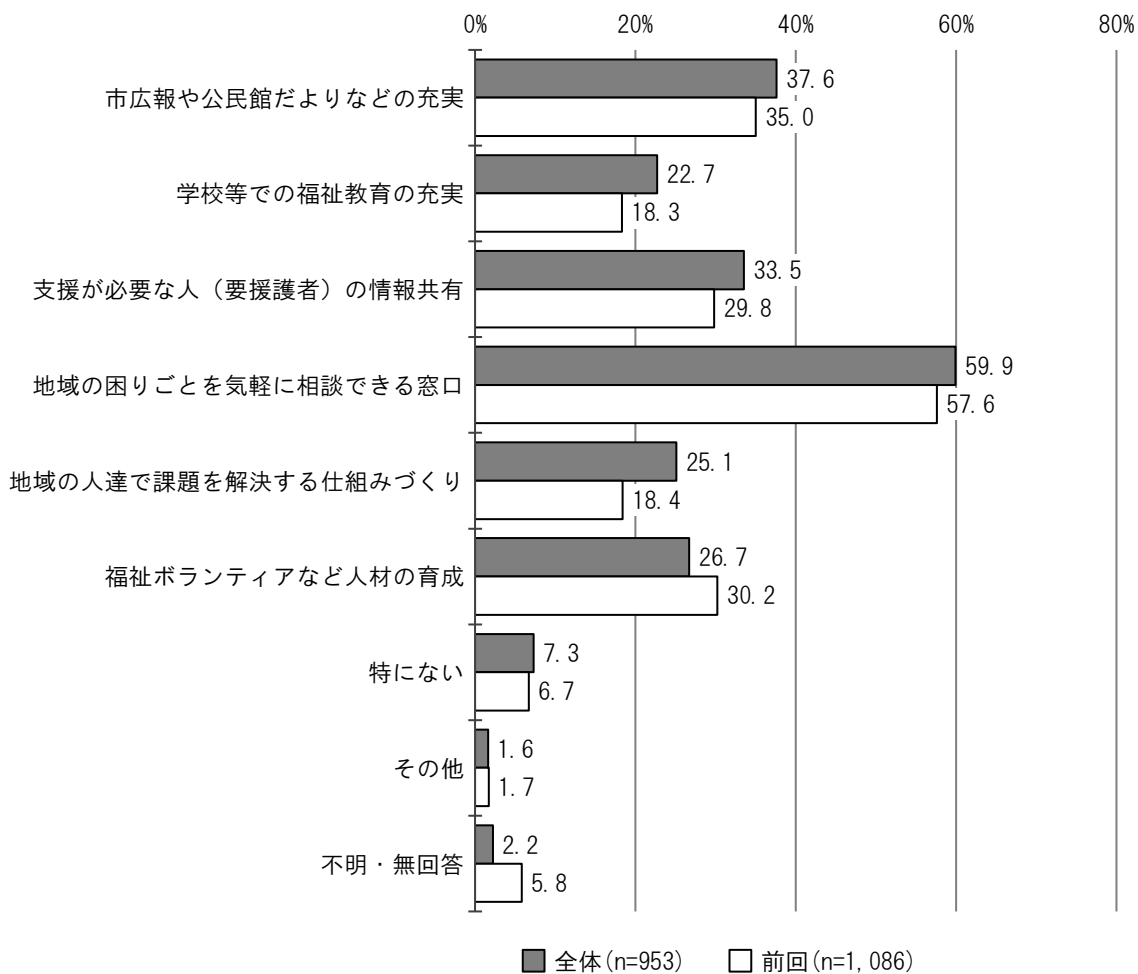


6 今後の方向性について

問 35 地域における助け合いを活発化するため、市の取り組みとしてどのようなことが重要だと考えますか。 (複数回答)

全体では「地域の困りごとを気軽に相談できる窓口」が59.9%と最も多く、次いで「市広報や公民館だよりなどの充実」が37.6%、「支援が必要な人（要援護者）の情報共有」が33.5%となっています。

前回調査と比較すると、「地域の人達で課題を解決する仕組みづくり」で増加傾向がみられます。



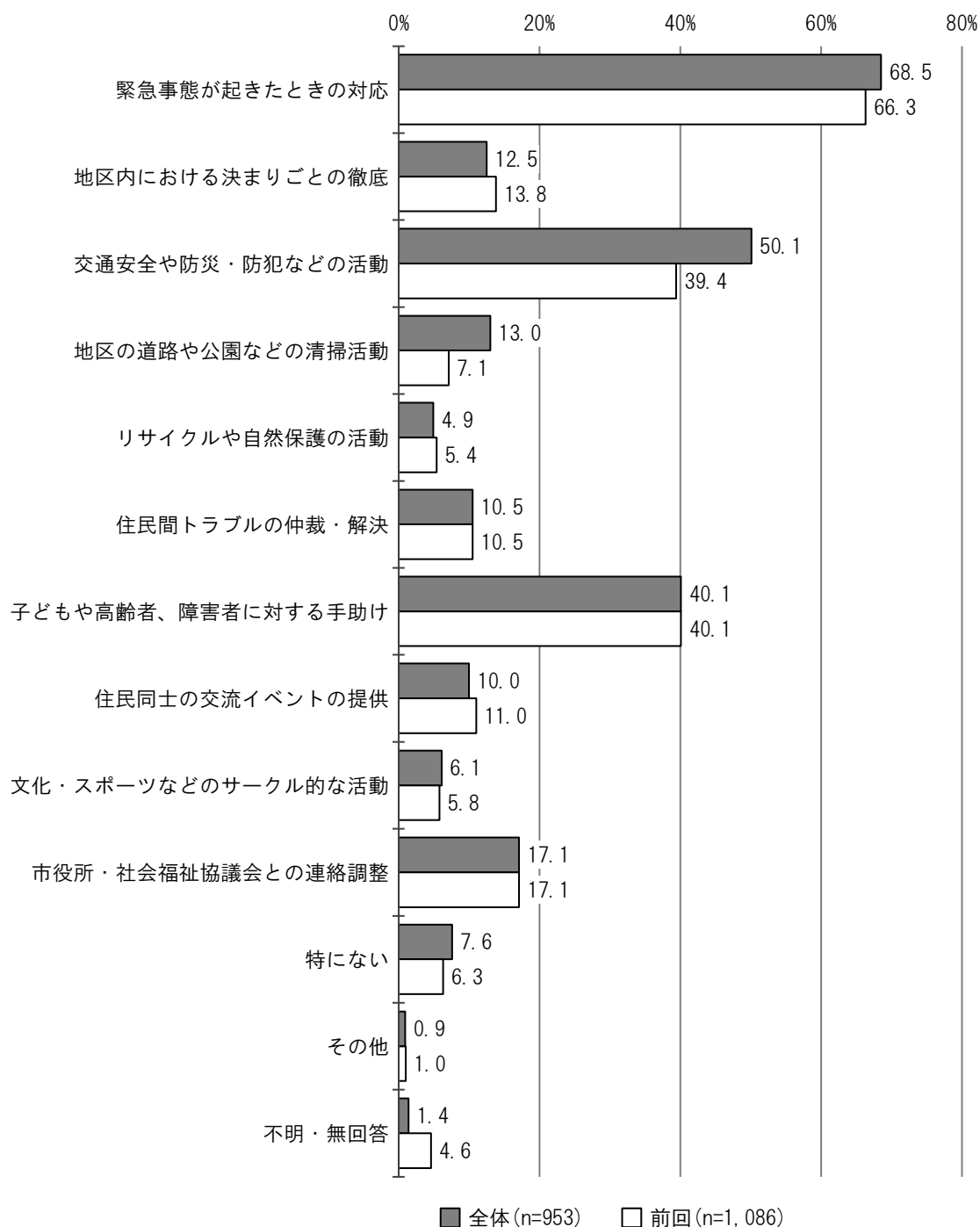
年齢別にみると、すべての年齢で「地域の困りごとを気軽に相談できる窓口」が最も多くなっています。

%		市広報や公民館など の充実	学校等での福祉教育 の充実	支援が必要な人 (要援護者)の情報共有	地域の困りごとを 気軽に相談できる 窓口	地域の人達で課題 を解決する仕組み づくり	福祉ボランティア など人材の育成	特にない
年齢別	全体 (n=953)	37.6	22.7	33.5	59.9	25.1	26.7	7.3
	18～29歳 (n=73)	23.3	43.8	26.0	47.9	31.5	20.5	13.7
	30歳代 (n=74)	29.7	32.4	31.1	45.9	20.3	31.1	12.2
	40歳代 (n=143)	25.2	30.1	34.3	61.5	25.2	25.9	8.4
	50歳代 (n=170)	35.3	23.5	38.2	62.9	23.5	28.8	5.9
	60歳代 (n=180)	40.0	15.6	32.2	66.1	23.9	25.6	6.7
	70歳以上 (n=295)	48.5	15.3	33.9	59.0	26.1	27.1	5.4
%		その他	不明・ 無回答					
年齢別	全体 (n=953)	1.6	2.2					
	18～29歳 (n=73)	-	-					
	30歳代 (n=74)	2.7	-					
	40歳代 (n=143)	2.8	0.7					
	50歳代 (n=170)	1.8	-					
	60歳代 (n=180)	1.7	1.7					
	70歳以上 (n=295)	1.0	5.8					

問 36 あなたが住んでいる地区のなかで安心して暮らしていくために、地区にある組織や団体に対してどのような活動を期待していますか。 (複数回答)

全体では「緊急事態が起きたときの対応」が68.5%と最も多く、次いで「交通安全や防災・防犯などの活動」が50.1%、「子どもや高齢者、障害者に対する手助け」が40.1%となっています。

前回調査と比較すると、「交通安全や防災・防犯などの活動」「地区の道路や公園などの清掃活動」で増加傾向がみられます。



地区別にみると、すべての地区で「緊急事態が起きたときの対応」が最も多くなっています。

%		緊急事態 が起きた ときの対 応	地区内 における決 まりごと の徹底	交通安全 や防災・ 防犯など の活動	地区の道 路や公園 などの清 掃活動	リサイク ルや自然 保護の活 動	住民間ト ラブルの 仲裁・解 決	子どもや 高齢者、 障害者 に対する手 助け
地区別	全体 (n=953)	68.5	12.5	50.1	13.0	4.9	10.5	40.1
	深谷地区 (n=187)	65.2	10.2	48.7	11.8	5.3	11.8	37.4
	藤沢地区 (n=69)	59.4	7.2	52.2	13.0	4.3	1.4	37.7
	幡羅地区 (n=59)	66.1	16.9	47.5	10.2	1.7	11.9	44.1
	明戸地区 (n=76)	73.7	13.2	46.1	17.1	6.6	11.8	39.5
	大寄地区 (n=82)	79.3	9.8	46.3	14.6	-	8.5	43.9
	八基地区 (n=67)	62.7	20.9	47.8	16.4	9.0	14.9	38.8
	豊里地区 (n=69)	72.5	8.7	55.1	10.1	2.9	4.3	40.6
	上柴地区 (n=64)	68.8	17.2	56.3	10.9	4.7	12.5	40.6
	南地区 (n=32)	65.6	12.5	43.8	9.4	6.3	6.3	53.1
	岡部地区 (n=80)	66.3	13.8	63.7	18.8	3.8	13.8	37.5
	川本地区 (n=75)	73.3	14.7	46.7	10.7	9.3	10.7	37.3
	花園地区 (n=64)	68.8	7.8	40.6	10.9	3.1	12.5	43.8
わからない (n=9)	88.9	-	77.8	33.3	11.1	11.1	33.3	
%		住民同士 の交流イ ベントの 提供	文化・ス ポーツな どのサー クル的な 活動	市役所・ 社会福祉 協議会と の連絡調 整	特にな い	その他	不明・ 無回答	
地区別	全体 (n=953)	10.0	6.1	17.1	7.6	0.9	1.4	
	深谷地区 (n=187)	9.1	7.5	16.0	9.6	1.6	1.1	
	藤沢地区 (n=69)	7.2	5.8	30.4	13.0	1.4	-	
	幡羅地区 (n=59)	11.9	6.8	18.6	5.1	-	-	
	明戸地区 (n=76)	11.8	3.9	15.8	7.9	-	1.3	
	大寄地区 (n=82)	6.1	6.1	23.2	3.7	-	2.4	
	八基地区 (n=67)	25.4	9.0	11.9	7.5	3.0	1.5	
	豊里地区 (n=69)	8.7	5.8	8.7	7.2	1.4	2.9	
	上柴地区 (n=64)	12.5	10.9	17.2	3.1	-	1.6	
	南地区 (n=32)	9.4	12.5	21.9	3.1	6.3	-	
	岡部地区 (n=80)	7.5	3.8	12.5	7.5	-	1.3	
	川本地区 (n=75)	2.7	-	21.3	8.0	-	1.3	
	花園地区 (n=64)	14.1	1.6	15.6	7.8	-	1.6	
わからない (n=9)	-	-	-	11.1	-	-		

問 37 みんなで助け合い・支え合う地域をつくるために、何かアイデアがあれば教えてください。あなたができること、地域で取り組むべきことなど、何でも結構です。

(記述回答)

いただいた回答を項目ごとに分類しています。なお、複数の項目に該当するものは、再掲としています。

■地域のつながり・交流

年代	居住地区	回答内容
18・19 歳	上柴地区	回覧板などの中で各世帯で緊急時の子供の見守り、手助けや災害時の声掛けをお願いしたいといった希望を希望者(世帯)が近所の地域住民に共有する場があると、地域内でのコミュニケーションも活発になると思う。
20 歳代	深谷地区	地域の方と関われるボランティアに参加する。
20 歳代	明戸地区	地域の行事に参加する。
20 歳代	豊里地区	若い人からお年寄りまで交流ができるボランティア 例:ゴミ拾う行事でゴミの量などによりポイントもらえる 理由:最近だと若い人が年齢が上の人と交流する機会が減っているのではないかと 思っている。今後の「みんなで助け合い・支え合う地域をつくる」では今からの交流が 必要ではないかと考えている。
20 歳代	花園地区	市で行っているサポート施設の活動や困った時にどんなサポートがあるのかを知らない 人が多いと思うので周知していく。希薄な人間関係だと災害が起きた時に助け合 えない為、地域の活動を通じて顔の見える関係性を作っておく事は大切だと思う。
30 歳代	深谷地区	地域の人と交流の場を設ける。すでに私の住んでいる地区では運動会やお祭りなど があるが、なかなか参加者も少ないように思う。参加したら参加賞や優勝したら景品 が出るようなものだともしかしたら参加したいと思う子供や親、大人たちもいるかもし れない。(既にやっていたらすみません)まだ引っ越したばかりですが、地域の人とは ゴミ捨ての時に挨拶するくらい。どんな人が住んでいるかもよく分かっていない状況。 (隣組の方には挨拶したがそれきり)隣組の方だけでも人となりがわかるくらいの付き 合いや交流があると良い。
30 歳代	明戸地区	近所で集まって何かイベントをやったりして、交流を深める場を作れると嬉しい。
30 歳代	南地区	深谷のためるんピックの様な仕組みでボランティアや地域の助け合いが出来れば参 加する方も増えるのでは?また、ボランティアには興味はありましたが、仕事も不定休 なので、参加できる日が少なく予定も合わないのので今まで参加できなかったです。ボ ランティア登録の様な形で登録して、出来る日のボランティアに参加する形だとありが たいです。(私的に。)
30 歳代	南地区	最近孤独になってしまう人々がいるので、集まる機会があればコミュニティも広が って一人になる事はなくなるし、楽しいと思います。ただ我々のような仕事に命を懸け ている人種としては、その集会所も億劫になってしまう気がするの、工夫が必要だと思 います。
40 歳代	深谷地区	異業種交流会で、助け合い

年代	居住地区	回答内容
40 歳代	深谷地区	行事やイベントの周知徹底 →在住歴が浅い人ほど恒例行事などを知らないため、参加を促す。助け合いや支え合うことは、ある程度のコミュニケーションが必要だと感じる。地区をもう少し細かく区切って、地区イベントを開催する。
50 歳代	深谷地区	私は 2017 年に深谷市に引っ越してきましたので、まだまだ深谷市のことは分からない事が多いです。私と同じような他県より引っ越してきた方達と気軽に話せる場があれば(交流できる場)良いなと思います。ご検討いただければ幸いです。
50 歳代	深谷地区	子育て世代のサポートボランティア
50 歳代	大寄地区	デイサービス等介護施設を利用しない高齢者が気軽に集まれる高齢者向けの支援センターがあれば、交流ができ日々の暮らしも豊かなものになるのではないかと思います。
50 歳代	八基地区	地域でのイベント等、何かする事によってコミュニケーションを図ったり、連携が生まれるので親しくなる。近くなる事によって、相手の事が大事な存在になっていくのではと考える。いざという時、例えば災害時等で知らぬ同士より連携が取りやすくなると思う。
50 歳代	八基地区	地域の誰もが一緒に活動できる(交流できる)機会の提供。老若男女関係なく参加できるイベント開催等。
50 歳代	八基地区	地区内の人達との情報共有を密接に行う事
50 歳代	豊里地区	助け合いは大事ですが、生活するのにギリギリな人の為にネギーの 20%還元をやるべきです。結局、助けてくれるのはお金です。地域に頼っても助けられる事は限度があります。結局は他人なんですから。田舎なので昔からの決まりが多く今の時代に合いません。神社の掃除だとか年始の集まりとか、どうでもいい事です。もう少し地域の行事を減らしてほしい。体育祭もいらない。地域で昔から続いている行事やルールがありますが、次の世代に引き継ぎも徹底されないし、今の若い人たちは何の為にやるのかわかりません。昔からの付き合いや伝統もあるとは思いますが、ちゃんと時代に合わせたやり方であれば続けないべきだと思います。高齢者と若者では考え方も違うので、お互いが納得のいくやり方にしないとダメだと思います。マイナンバーカードとか電子化も色々進んでいるので、昔のしきたりも廃止するか最新対応にしてほしいです。田舎で変なルールが多いから若い人はみんな都会へ行きたくなるんです。
50 歳代	上柴地区	30 年以上前に移り住みましたが、とても住みやすい街だと思います。これから高齢化していく中でも、安心して生活していける市民もさりげなく楽しく参加できる仕組み(取り組み、試み)で、深谷市を皆で盛り上げていけます様に…。
50 歳代	川本地区	地域の中でコミュニケーションが難しいと感じる事が多々あります。挨拶も返してくれるのはお年寄りと子供達で、それ以外は返ってきません。まずは、挨拶などの声掛けを積極的にできるような雰囲気を作っていく事が重要だと感じます。
50 歳代	花園地区	地域の身近な情報の共有。地域の自治会館をもっと有効に使い、地域の人達の集まれる場所を提供する。(毎週曜日を決めておしゃべり会など)
60 歳代	深谷地区	週に一回ずつ集まる場を作り、仲良く活動をする。

年代	居住地区	回答内容
60 歳代	大寄地区	高齢者、障がい者の方達も気軽に参加できる楽しいイベントがあったらいいと思います。必要な方には手厚いお世話をしてくださるボランティアの方がたくさんいると良いですね。皆で楽しく過ごせたら、良い暮らしに繋がるかもしれませんね！
60 歳代	八基地区	近所付き合いを大切に、一人一人が思いやりを持った行動をする。
60 歳代	八基地区	1.同じゴミ収集所を利用する人達が集まり、食事会やレクをする。2.戸外で皆が集まり易い場所・日時を決め、飲食物は各自持参でおしゃべりできるようにする。そこに行けば誰かがいる、いなければ帰るという気軽さがいいと思う。
60 歳代	八基地区	高齢者で介護施設の利用者ではない、支援を必要としない人たちが地域で集まって活動できるサークル等生きがいのある場所を整備して欲しい。
60 歳代	豊里地区	散歩の時になるべく地域の方と話したり、声を掛け合ったりしています。自分も高齢ですが、もっとお年をめしている方の話を聞いてあげようと思っています。
60 歳代	南地区	組織化しなくても日頃からお茶飲み話ができるような場所作りが大事。組織を作ると役があって、その役を担う人が大変になる。誰もが主役、行ける時行けない時自由に行ける場所が必要だと思う。何をどうすればいいのかは、まだ分からない。
60 歳代	花園地区	私が想う事…この世は集合意識で成り立っているとすれば、お互いの助け合いで物事が行われ成り立っているのだが…。日常生活に追われて自分の事で精一杯になってしまっているのが現実なのではないだろうか？本心を言いたくても言えない面倒くさいから言わない！本当は(魂レベルで)言いたい事があるし、話したいし、分かってもらいたい事が、心の奥にあるはずなのではないでしょうか？自分の内側にしておくのではなく、さらけ出せる様に場所を提供してもらいたい！個人個人の想いを、メモ用紙か付箋に書き出して展示する事で、多くの人達がストレスかトラウマから解放され、それを読んだ人達も共感共鳴共振共有共存共生する事で、自分一人だけでなく同じ様に考えている人がいる事で感激感動となり、その皆さんの心の声を聞く事で新たなアイデアが生まれると想うのです！心の囁は魂の囁！志合せは自分自身の内なる声に耳を傾ける事から…！
70 歳以上	深谷地区	地域の今ある祭りや行事に参加者が多くなる事の工夫。そうなれば、自然と地域で助け合う様になる。新しい企画を考えれば良いとは思わない。
70 歳以上	深谷地区	簡単に自由に集まれる場所があったらとおもいます。
70 歳以上	幡羅地区	地域の中にある公民館や活動施設等、折角あるのに活用されていない。子供や老人が気軽に寄れて子供や老人の居場所になったら良いのにとおもいます。児童館のようにして欲しい、使って欲しい、公開して欲しい。
70 歳以上	幡羅地区	皆さんに声掛けする事が大事かとおもっています。
70 歳以上	明戸地区	高齢者のボケ防止に麻雀の初心者向けの教室や、練習、始め方などあったら良いと思います。地域の交流になるし、楽しいし、おもしろいと思います。
70 歳以上	豊里地区	1 月に 1～2 回、自治会館等で高齢者の方が気軽に集まり、おしゃべりしたりカラオケ等を通して交流があると良い。

年代	居住地区	回答内容
70 歳以上	上柴地区	気軽に安く参加できる習い事。例えば高齢者向けの健康増進のための運動、盆踊り講習会などはいかが。私の住んでいる近所の公園では 3~10 人位の方々が夕方集まってウォーキングをしている。自発的にできる近所付き合いのある地域は良いが、そうでない方は参加は難しい。公民館便りで知る、各種の勉強会、サークル等はなんとなく敷居が高い。
70 歳以上	上柴地区	婦人会所属時はボランティア活動などありましたが、解散してしまい、参加機会がなくなりさみしく思っております。
70 歳以上	上柴地区	一人暮らしになり、孤立している方も多いと思います。サークル等に参加できる方は、良いのですが…。
70 歳以上	南地区	歳を重ねると出掛ける事が億劫になり閉じこもりになるので、何か楽しいイベントを実施し、参加を募る。例えば、誕生会でゲームや歌声サロンのようなもの。誕生会は誕生月でなくても、そのサークルで楽しく遊べる事、等。
70 歳以上	南地区	住人同士で話をする事が昔に比べて本当に少ない。昔は回覧板等、配り物は手渡ししていたと思うのですが、現在は皆ポストに入れる様になり、話す機会がなくなったように思います。
70 歳以上	岡部地区	1.送り迎え付きでお年寄りが交流できる場の提供。2.子供たちの登下校の見守りプラス子供との交流の場。3.地域の幹線道路を安全に車いすでも行ける様に整備してほしい。特に街灯を付けて明るい道路・地域にして欲しい。
70 歳以上	岡部地区	最近転居して、集合住宅に住んでおります。日中仕事にも出ておりますので、付近の皆様と交流がないですが、広報等の発行を期待しております。
70 歳以上	岡部地区	高齢者の孤独感の解消に諸々の話、情報、お喋りに付き合う。手足にも活用して共生社会の実現。
70 歳以上	川本地区	地区の人同士の交流をもっと深め、話し合いが大切だと思います。今私の地区は若い人が少なく、年配者ばかりになっています。このアンケートが来た時にちょうど、地区のいきいきサロンが行われます。やっと地区がまとまって来たように思います。
70 歳以上	花園地区	通りすがりの中学生に挨拶された事があり、気持ち良かった。あまり強制的にならない様に、続けてほしい。
-	-	地域の過疎化が心配。
-	-	私の場合、ボランティアで各公民館等で社交ダンスを教えていたのですが、行うなら自費で使用料(公民館)を支払って下さいと言われてきました。もっと理解して欲しかったです。私はプロで、本当の社交ダンスを知って頂きたいと思っています。ダンスは正に、人や相手に対しての思いやりの趣味です。これ以上の趣味は無いと思っています。自負しています。

■福祉サービスの充実・提供体制（相談・情報提供）

年代	居住地区	回答内容
20 歳代	深谷地区	障害児支援が、さいたま市と比べて発達していなかったり、障害について相談できるサービス等が少ないように感じます。今、私立の保育園や幼稚園でも発達に遅れのあるお子さんや特性をもつお子さんも多く受け入れられるようになっているかと思います。そういった支援が必要であるお子さんを対象にできるような相談会や支援センター等での発達相談を支援が必要なお子さんをもつ保護者の方にも知ってもらえるような機会が増えると良いなと思っています。また現場で対応する保育士に対しても障害について理解してもらえるような研修等があるといいなと思います。
20 歳代	深谷地区	今回のアンケートを通して、内容の知らない組織が多いと感じた為、組織のわかりやすい内容説明を広報等で伝える活動
20 歳代	深谷地区	地域の相談窓口や支援機関について、小中学校の授業内で詳しく説明があると良いかなと思いました。
20 歳代	八基地区	行政に頼らず、地域の人達でできる事は地域の人達で行う事だと思います。そのために、地域の人達で協力して解決した事例などを、行政が集め提供することが重要だと思います。
20 歳代	八基地区	学生の夏ボランティアで中学生の時に申込で社協に行った事があるが、それが無いと行く機会もなく、行きにくい雰囲気があった。その時に対応してくださった職員の方が気さくで優しい方だったという事や大学生になり実習で行かせてもらい、様々な職員の方と関わった事で、社協が行っている事業や職員の方が気さくな方が多く、気軽に相談などをしに行っても大丈夫な場所なのだという事を知りました。同世代の子達は福祉を学んでいない学生も多い為、私と同じ様な関わりをしている子は少なく、深谷市に住んでいても社協の存在を知らない子もいます。社協便りや広報を見ない子も多いですが、実習に行った際に社協ホームページに書いていない素晴らしい事業もあったので、ホームページを改善する事やどんな職員がどんな事業を担当しているのか知る事が出来れば相談のしやすさも出てくるのではないかと感じました。
20 歳代	花園地区	市で行っているサポート施設の活動や困った時にどんなサポートがあるのかを知らない人が多いと思うので周知していく。希薄な人間関係だと災害が起きた時に助け合えない為、地域の活動を通じて顔の見える関係性を作っておく事は大切だと思う。（再掲）
40 歳代	藤沢地区	気軽に相談できる窓口
40 歳代	大寄地区	今回のアンケート自体が地域福祉活動を知ってもらう機会になっていると思うので、多くの人に地域福祉の取り組みに関心を持ってもらうために、まずはアンケートの対象者を増やしてみる。
40 歳代	川本地区	本当に助けが必要な人とそうではないのに助成を受けている人をきちんと調査して欲しい。自分の力で生きられるのにズルをして税金を無駄遣いする人間がいるうちは社会は良くなならないし、本当に助けを必要としている人達が、見逃されてしまうのではないか。

年代	居住地区	回答内容
50 歳代	深谷地区	ラジオ体操などはどうでしょう？まずは負担の少ない交流の機会を作る。行きたい人が行く。顔見知りになっておく。皆を家から一步踏み出させる。参加するとポイントがもらえる。集めたら健康グッズと交換できる。市のサービスが受けられる。等、交流しないと支え合いにつながらないから。家に閉じこもりきりにならないよう、ハードルの低い交流機会が必要。深谷市は住みやすくて、市民も市役所も親切で大好きです。定年になったら、ご協力したいと思います。もう少し待ってください。
50 歳代	深谷地区	生活が苦しい人が相談出来る場所があればいいと思う。本当に生活の苦しい人は沢山います。「生活の苦しい人に救いの手を。」
50 歳代	藤沢地区	困り事相談では、地元民生委員には世間体や守秘義務に不安があり、相談しづらく感じる。利害関係のない地元以外の方に相談できる体制が望ましい。
50 歳代	大寄地区	私たちの生活をサポートしてくれる行政団体はあるが、ただ形ばかりで、通り一遍の活動しかしていないような気がする。本当に市民の生活をサポートするなら、誰が何を求めているかを見つけて、ターゲットを決めて、その人たちから何を求められ、何をしたら自分たちが本当の活動ができるのかを見つけ出し、本格的なプロモーションが必要なのではないかと思います。 現在、「個」が強く、そして、活躍している時代です。それは悪いことではないかもしれませんが。なぜなら、人が自立している証でもあります。ただ、逆を見たら、グループの発展がうまくいかなかったという点もあるかと思います。人は本来、個でも生きますが、グループの一員になって、グループを盛り上げていくことも望んでいます。そして、人は誰でも、他人をサポートする(ヘルプする)ことは大好きなはず。役に立っているという感覚は、生きる上で喜びです。なので、サポート(ヘルプ)のリーダーとして、市民を引っ張っていつてもらえたらと思います。よろしく願い申し上げます。
50 歳代	岡部地区	居住区域の悩み事、相談事の意見をあげられるような取り組みがあってもいい。ネットであげるとかでなく。お年寄りにはインターネットとか無理なので。もっと市で実施していることを身近に利用してもらい、知ってもらいよう、取り組んでいく。普通に生活していても、行政や地域に関わりをもつことがないから、何をしているかわかりません。
50 歳代	岡部地区	電話やチャットなどで、日時を問わず、気軽に相談出来、問題解決まで導いてくれるシステムがあればいいと思う。
50 歳代	川本地区	私の家の近所は一人暮らしの老人が多くいます。配偶者に先立たれた人や独身の方等様々です。近所にスーパーがあるので、ふらつきながらすり足で日々の食事の買いに行く姿をよく見かけます。自治会の組合も年配者が多くて奉仕作業が困難ですが欠席するとお金を払うシステムがあるので、80 代の老人も奉仕作業に出てきます。夏の猛暑の時期には集合場所で気分が悪くなっている人もいました。このような老人を深谷市がケアしてくれるシステムまたは市役所のどこの課に相談すれば良いのか等、周知して欲しいです。防災マップのように紙ベースで広報等で配布すれば「こういう方法もあるのか！」と遠方に住む親族も知る事が出来るのではないのでしょうか？役所のそれぞれの課がどのような事案を扱っているのか周知して、どこの課に問題案件を相談すれば良いのか明確に教えて欲しいです。

年代	居住地区	回答内容
60 歳代	藤沢地区	ふれあい広場を作ってもらい、ふれあいする。プライバシーが守れる相談窓口を作る。
60 歳代	明戸地区	特に思いつく事はありません。以前 2 回ほど相談に伺った事がありますが、余り感じのいい対応されなかった思いがあり、もう相談しても話を聞かれるだけであって無駄だったのかと思いました。全ての方の対応が悪いのではなく一部の方だと思います。すみません、福祉課に相談に行った時の思いが強に残っているので、書いてしまいました。
60 歳代	八基地区	1.民生委員や児童委員の方にいろいろお願いしたい事がありますが、その方達に沢山の事をお願いする事は無理かと思えます。困っている事を窓口へと誘導してあげる事が出来ると良いと思えます。2.地域の中の民生委員の方が同じ地域の中で活動するメリットは大きい半面、逆に内容により相談する事への不安というデメリットもあるかと思えます。全く知らない信頼できる人の方が気楽な場合もあるかと思っています。難しい課題でよくわかりません。ごめんなさい。
60 歳代	豊里地区	本人が障がい者(知的)の為、自分から発信することは難しいです。障がいがあっても社会の中で取り残されない地域を作りたい(支援者)。
60 歳代	川本地区	長年の納税者としては社会保障、福祉行政については言いたいことが沢山あります。本当にそれぞれ必要なのかな。という疑問が多々あります。公助、扶助から共助、自助に社会が移行していく時かと思えます。65 歳を過ぎると介護保険が高くなるのは何故…。
60 歳代	花園地区	公共機関主導の掲示板、SNS 等の活用、提供、周知、内容の処理・対策の情報提供と実行を行う
70 歳以上	幡羅地区	今回のアンケートの依頼を頂いて、沢山の相談支援窓口がある事を知りました。市のサポート体制がある事をもっと PR する事で、市民の皆さんも気軽に相談できる事を知る事になると感じました。
70 歳以上	大寄地区	現在の民生委員の仕事は、地域包括支援センターを充実させて専門性を強化し対応すべきである。(民生委員も集まらず高齢化して、万全の活動は難しいと思われる。)
70 歳以上	八基地区	子供や高齢者・障害者に対する手助け、高齢者を大切に。公園に運動器具を取り付けて下さい。
70 歳以上	上柴地区	とにかく情報が足りない。
-	-	地域の活性化として、1.清掃美化に努める。2.市民の憩いの場。最も福祉活動に力を入れる事。3.相談所の増加。病院、内科、増加。福祉施設の多種多様。年老いた人の娯楽施設や病院、看護の増加。(誰でも理解できるように設定。)

■防犯・防災

年代	居住地区	回答内容
20 歳代	豊里地区	地域で古くからあるしきたりみたいなものを廃止して欲しい。神社の掃除や無駄な老人の集まり。誰かがやめようと言わなければ終わらない。神社の掃除をする為に有休を使わなくてはいけないのが意味不明。清掃業者を雇え。こんなところに若い世代が住み続けたいと思うわけがない。後、防災無線の事後報告が少ない。刃物を持った不審者等、その後見つかったのか、捕まったかを報告するべき。怖くて外出できないし、眠れない日々が続きます。深谷市のサイトにもその後の報告が出ていない。結果が分からないなら、いっそ、放送しないで下さい。不安を煽るだけです。
20 歳代	岡部地区	アンケートには特に関係がないのですが、岡部中学校に通っている子の自転車の運転があまりにもひどすぎてぶつかりそうになったことが何度かあり、小さな子供も沢山いる地域だし、もし歩いている子にぶつかったら絶対によけられるスピードではないので大げが、もしかしたら死んでしまう可能性もあります。自分で車の運転をしたことが無いから危ない事があまりわからないんだとは思いますが、本当に困っています。岡部の西倉西間堂の通りを岡部小学校に向かって歩くとオレンジ色のポールが最近設置されたのですが、もし、自転車が突っ込んできたらあれでは子供の命を守りきれないので、ガードレールか、せめて縁石を設置してほしいです。あそこは細い道だから大変だとは思いますが、子供の命は本当に大事だし、あの道歩いて行く子が多いので、よろしく願います。岡部のクスリのアオキの手前から来る車が、ほぼ一時停止をせず進入してくるので、できれば信号機、警察の人に厳しく見ててもらいたいです。おじいちゃん、おばあちゃんがいつも突っ込んでくるから本当にむかつく。
40 歳代	深谷地区	先日屋根修理を装って次々と訪問する業者を見ました。高齢者宅のみをえらんでいましたし、駐車場の車やバイクを物色していました。闇バイトの関連も疑われる事例ですが、身近に起こったことに、驚いています。近所の方が通報するには警察なのか市役所なのか考えさせられた事象で、私は連絡できませんでした。
40 歳代	上柴地区	防災無線が聞こえにくく、何を話しているか分からない。もっと鮮明に聞こえる様に改善して頂きたい。(迷い人等のお手伝いをしたいので。)
50 歳代	明戸地区	住んでいる地域が、汚れていると治安も悪くなっていく様な気がします。基本的な掃除は今後も必要な活動だと思います。私自身朝ゴミ捨てに行く途中ゴミが落ちていたら拾う様に心がけています
50 歳代	上柴地区	アンケートの趣旨とは違うと思うが、今、特に川口市や蕨市周辺にて、特に外国人(クルド人や中国人等)により治安が悪化していると聞きます。同じ埼玉県人として心配しています。深谷市がそのような地域にならないよう、願うばかりです。地域に馴染んでくれる外国人の方は良いですが、自称難民(偽装難民)の人等は断った方が安心して暮らしていけるよう必要と思います。
50 歳代	南地区	情報がすぐ入る地域で伝わる様に、私の実家(福島)には各家庭に市からの情報がスピーカーで流れています。各家 1 つ付けてあります。緊急時の備えに対応できるので、安心です。

年代	居住地区	回答内容
50 歳代	南地区	分からない。交流等の活動や集まりで、個人情報・詐欺等に合わないよう考える人もいる。人に騙された、裏切られた(学生時や会社時)。そういう経験のある人は、まず、距離を置く。治安？心のケア？人付き合いから遠ざかる一つの要因。
60 歳代	八基地区	地域防犯カメラの設置、等。
60 歳代	八基地区	地震や集中豪雨等の防災意識が高まっており、防災士の資格取得に対する補助を出したらどうですか？
60 歳代	上柴地区	1.深谷断層地震に対する対策が必要だと思います。2.シニアの働く場所が少ない。3.放送が良く聞こえないのでストレスがある。4.各家庭内に設置できる無線などの工夫。5.税金とサービスの釣り合いが課題。
60 歳代	岡部地区	私の家の周りでは、ほとんど偽物のなりすまし犯人が住んでいて、被害多数です。みんなで助け合いとありますが、こんな環境では関わって行く事の方が危険です。ドロボー被害、虐待被害、多数。みんなとはなりすまし犯人のみんなでしょうか？本物の人が生きているかどうか？もっと本人確認をして、なりすまし犯人を近付かせない様にして下さい。本物だけにして下さい。
70 歳以上	深谷地区	子ども達のみまもりについて、順番にお礼の放送が流れるのがとてもいい考えで、いい地域だと思う。時々放送が入るが、家の中では全く分からず、外でも内容がほとんど聞きづらい。何かいい方法がないと協力できない(人探し、防犯 etc)。
70 歳以上	深谷地区	闇バイトの対策。
70 歳以上	深谷地区	将来的に元々からの市民は減少し、相対的に外国人の比率が飛躍的に増大していくと思われる。彼ら自身の発信の機会、活動の場を用意すべきと思います。賞味期限が近くなった備蓄食品を放出する際はスタッフが予め試食するなど対策をお願いします。
70 歳以上	藤沢地区	個人のプライバシーの保護や個々の権利の主張が強く、助け合う地域の組織を作るのは非常に難しい。小生の住んでいる地域が災害にあったなら、積極的に協力したい。
70 歳以上	幡羅地区	高齢者が安心して参加出来るウォーキング教室(歩け歩け)。防犯カメラの設置場所と方法(徘徊、犯罪)。
70 歳以上	大寄地区	地域の安全を第一に考えてほしいです。
70 歳以上	上柴地区	1.防犯カメラを増やして、通学路や農道などを見守る。地域の家庭に少し補助して、取付・管理してもらおう。農産物の泥棒、車からのポイ捨て等、相変わらず多い。2.老人が散歩しても休む場所が無い。ベンチか切り株でもあれば休める。
70 歳以上	上柴地区	上柴東 7 丁目、ドロボウ、器物損壊が多い。交番は役に立っていない。パトカー、パトロールに全然来ない。
70 歳以上	岡部地区	冬になると高齢者等の居宅の火災が多く発生しています。前記のアンケートも重要な事がありますが、火災防止に力を入れてほしい。特に電気が原因の火災が一番多いと聞いているので、関係機関と自治会、社協等が中心になって、取り組んでほしいと思います。

年代	居住地区	回答内容
70 歳以上	岡部地区	治安の悪化が増してきている昨今、防犯カメラの設置を地域に増やして頂けたら、犯罪抑止にも繋がると思うし、安心して生活が送れると思います。
70 歳以上	岡部地区	1.送り迎え付きでお年寄りが交流できる場の提供。2.子供たちの登下校の見守りプラス子供との交流の場。3.地域の幹線道路を安全に車いすでも行ける様に整備してほしい。特に街灯を付けて明るい道路・地域にして欲しい。(再掲)
70 歳以上	花園地区	暗い場所を無くす。街灯を多く付けて地域中を明るくする。コロナ禍で行事がだいぶ減りました。それから余計な事ですみませんが、防犯用のマイクがあちこちから聞こえ過ぎて、肝心な要点が分からない時が多くあります。

■自分にできること

年代	居住地区	回答内容
18・19 歳	深谷地区	小学校でのボランティア活動を行ってほしい。(放課後の〇〇教室など)高齢者の生きがい作り。下校時週一回担当者を決めて子どもの見守りをする等。
30 歳代	深谷地区	ウェルビーイングを積極的に取り入れ、まずは環境を整えて人の心情を変える。環境を整える事は人の心情にも届き易く、自然な流れで人との繋がりが出来る。ボランティア活動で所属する事に対して、負担に感じるデメリットの方が大きいので自分の出来る事から始めたいと思う。例えば、庭に花を植えたり、風で舞ったゴミを拾う等は自主的に続けて行きたい。
30 歳代	岡部地区	深谷に引っ越して 1 年が経とうとしています。少しずつ慣れてきて、とても住みやすく良い町だと感じています。近所の方々とは顔を合わせれば挨拶する程度で、色んな恐ろしい事件もありますのでそれ以上は望んでいませんが、大きな震災があった時は声を掛け合い助け合えたら良いと思います。高齢の方も心配ですがいきなり声を掛けても警戒されると思うので、少しずつ関わりを増やしておきたいとは思っています。アンケートのお陰で考えるきっかけになりました。自分にできる事、行政に頼る事、頼っても良い事など、知識がないと行動できない事もあるので勉強してみようと思います。ありがとうございました。より良い深谷市の為に今後共よろしくお願ひ致します。
40 歳代	豊里地区	ボランティアに参加したいと思うが、どういったボランティアがあるのか分からないので、もっといろいろな所で募集や発信をしてほしい。
40 歳代	南地区	ボランティアの紹介。手軽に情報を得たい
40 歳代	岡部地区	自分が猫を保護してから暑さ寒さに耐えきれず亡くなる子、枝や葉を食べている子、水たまりの水にたばこがあって中毒でなくなる子、虐待されている子が沢山いるのを知って、保護猫活動がしたい。さくら猫だけでなく、幸せに暮らせるお家に行けるように苦しむ子がいない、手伝いをしたい。そういう場所を作って欲しいと切実に思っています。よろしくお願ひします。
50 歳代	藤沢地区	自ら余裕ゆとりがないと出来ない事だと思う。難しいが一人一人が生活に余裕を生む事だと思う。
50 歳代	明戸地区	資格として持っている着付けやフラワーアレンジメントをボランティアで活かせたらいいなあと考えたりしています。

年代	居住地区	回答内容
50 歳代	明戸地区	独居の高齢者が増えているように感じています。私は自分にできることがあればできるだけやるようにしています。ゴミ置き場も、もう少し近くにあれば皆助かると思いますが…。
50 歳代	大寄地区	ボランティア活動について興味はありますが、どんな活動がありどんな仕事があるのかをもっと自分でも調べたりして、地域に貢献できるといいなと思っています。
50 歳代	豊里地区	ん～、自分の事だけで精一杯ですよね…
50 歳代	上柴地区	住んでる場所をもっと好きになれる何か啓蒙活動などがあれば、と思います。好きな場所の為、人の為には進んで動けると思うので。趣味の活動団体でもボランティア団体でも、新しい人が入るきっかけになる行事などあれば、と思います。
60 歳代	深谷地区	地域活動をしているリーダーに尊敬し、賛同する。自分にできることはやるように心がけています。
60 歳代	明戸地区	人に優しくする。
60 歳代	八基地区	地域活動に積極的に参加する。
70 歳以上	深谷地区	それぞれの地域で、各自できることを、その地域の為にする。
70 歳以上	幡羅地区	今日は、今日は、と誰にでもできる深谷市になってもらいたいです。一日一日を楽しく過ごせるようにと願います。何としても毎日を明るく生きたいです。(一人の人間として。)
70 歳以上	幡羅地区	介護の仕事に、また自分の夫の介護中の身であり、自分も深谷住民となり 50 年近くになります。住み良い深谷、人が優しい深谷…深谷大好きです。そんな深谷が続きますように、できるだけ元気でいられますように、健康な身体づくりに個々人気をつけましょう。まずは健康な身体づくりから始めましょう。

■世代間の交流

年代	居住地区	回答内容
20 歳代	豊里地区	若い人からお年寄りまで交流ができるボランティア 例:ゴミ拾う行事でゴミの量などによりポイントもらえる 理由:最近だと若い人が年齢が上の人と交流する機会が減っているのではないかと 思っている。今後の「みんなで助け合い・支え合う地域をつくる」では今からの交流が 必要ではないかと考えている。(再掲)
30 歳代	豊里地区	高齢者と若者世代の交流があまりないと思うので、若者世代がいる学校等で行事を 行ったり話し合いをしたりなどしたらいいと思う。過疎化の進む自治会館などだと、＝ 高齢者のイメージが強いのので、若者世代は行きづらい。
40 歳代	大寄地区	高齢者は、助けが必要だと言うくせに、周りの住民などに対しての粗探しをしては攻 撃的な事を言ってきたり、子供や地域の人との交流が欲しいと言うくせに、子供達の 元気な声を煩いと叱ったり、外で遊ぶなと言ったり、公園に毒をまいたと言って脅かし たり…手を差し伸べる気になれない。助けが必要なら、自分のあり方を見直すべきだ と思う。
40 歳代	八基地区	年寄りが増えていく一方で若い人が減少。昔ながらの風習を無くして欲しい。区費の 必要性が分からない。子供を育てていく世代には意味が無い。だったら信号機のひと つづらい設置して頂きたい。ボランティア活動、子供 110 番の家、本当の意味…なん でしょう。子供の下校時(活動するなら)に道に出て活動して欲しい。畑道の中、一人 で下校は怖いです。助け合いの意味を考えてもらいたい。
40 歳代	八基地区	地域の伝統芸能で指導させて頂いています。8歳～80代まで年齢層は様々です。若 い世代に継承して地元の盛り上げに楽しみながら協力できる様に精進します。
40 歳代	豊里地区	少子化のため、お祭りが縮小やなくなっていくのが悲しい。特に地区単位での小さな お祭りは、近所の人との交流の場にもなるので、続けて欲しい。ただ、主催者側が高 齢者ばかりじゃなく、若い人などをいれて新しいアイデアで、いまの時代にあったお祭 りへと変化してもいいのではないかと思います。
40 歳代	上柴地区	上柴祭りのようなイベントを増やす。子供会与町内会の連携を密にする。希望する高 齢者と、小学生の交流。全ての人が、外出する機会を増やす。(朝の見守り、子供が参 加しやすいバスハイク、公民館で楽しめるイベントを企画する)
40 歳代	岡部地区	もっと気軽に気楽に…高齢者と子供達が触れ合えるイベントがあってほしい。深谷市 内にもライブハウスがあれば…ROCK や音楽を通じて世代を超えた愛が生まれるの ではないか? 愛とは何か? ソレを皆でさがしてるんじゃないかな…深谷市を盛り上げ ようとしてくれている市政の皆様に感謝しております。

年代	居住地区	回答内容
50 歳代	深谷地区	<p>以前、ある研修で聞いた他地域での子ども食堂のような活動の話。親御さんが生活のために必死で働いて子どもに目や手を掛けてあげられないご家庭や、困難を抱えるご家庭の子にとって、作ってもらったご飯をただ食べるのではなく、一緒に作り味わう中で、地域の大人たちに教えてもらったり共感してもらえることがとても大切なのだと聞きました。一人の子どもを育てるためには一つの村が必要だといいます。料理(味噌や漬物づくりなども良いですね)や昔ながらの遊び(竹とんぼ、竹馬、凧など)や様々な道具(かごや縄、縫物)作りなどを通して世代を超えての交流と伝承を、当たり前のようにできる地域になると良いと思っています。</p> <p>そういった中で、お互いに生きる知恵や喜びが得られるのではないのでしょうか？もちろん、そこにはしっかりと行政が入って支えて欲しい。決して民間任せにははいけないと思います。</p> <p>また、常々思っているのですが、生活の中で困ったときにどこ(様々な制度の利用など)に助けを求めれば良いのかを、社会に出る前に教えるべきなのではないかと・・・困ったときに「助けて！」と言えるように、「助けて！」と言って良いのだと教えてあげべきだと思います。それは、自殺や犯罪防止につながるのだと思っています。</p>
50 歳代	明戸地区	<p>高齢の方ほど、行き来をして交流している様に思う。子育て世帯は金銭的にも余裕がなくて自分たちの生活で精一杯。助け合い支え合う為には時間も必要になってくる。夫婦共働きで土日に体を休める生活ではなかなか難しいと感じる。生活にゆとりが出来れば他の人を思いやるゆとりも出来ると思う。まずは、いま、動ける人達にボランティア等の情報発信をして人材が増え、その行いが周知されていけば良いと思う。高齢の方の数が増えているので、元気な年寄りに期待したい。</p>
60 歳代	深谷地区	<p>高齢者たちが子供達と料理をしたり、遊んだりする場が多くあると良いと思う。</p>
60 歳代	明戸地区	<p>世代間の交流と相互理解と思います。</p>
60 歳代	豊里地区	<p>昔からの慣わしが根付いている地域の為、新しく引っ越してこられた方々には戸惑う事が多々有る様に思います。少しずつ、今時の若い人たちへのアドバイスが必要だと考えます。</p>
60 歳代	南地区	<p>高齢者施設と保育園が同じ場所もしくは隣にあり、行き来できる。高齢者は幼児と関わる事で元気になる。幼児は高齢者と関わる事で優しさが生まれる。</p>
70 歳以上	幡羅地区	<p>今、住んでいる地域で活発さが感じられない。その為か交流もない。公民館の利用も高齢者・若者とサークル活動と一緒に出来るものがあれば。</p>
70 歳以上	花園地区	<p>多くの小中学生ができる、住所までとは言わないが氏名だけは言える、大人の挨拶運動。</p>

■見守りが必要な人への関わり方・アウトリーチ

年代	居住地区	回答内容
18・19 歳	深谷地区	小学校でのボランティア活動を行ってほしい。(放課後の〇〇教室など)高齢者の生きがい作り。下校時週一回担当者を決めて子どもの見守りをする等。(再掲)
18・19 歳	上柴地区	回覧板などの中で各世帯で緊急時の子供の見守り、手助けや災害時の声掛けをお願いしたいといった希望を希望者(世帯)が近所の地域住民に共有する場があると、地域内でのコミュニケーションも活発になると思う。(再掲)
30 歳代	深谷地区	お年寄りや子供達が集まれる場所に送迎もついていたら安否確認や癒しの場所になる。行きたい人が行きたい時にいつでも行ける場所作り。
30 歳代	深谷地区	ひとり暮らしの高齢者の孤独死を防ぎたい。市や地域で見守ることや定期訪問が必要になってくるかもしれない。
30 歳代	藤沢地区	小学生の子どもがいますが、学童は定員一杯の為、一人で下校しています。無事に帰れたか、毎日心配です。見守り活動をしてくださっていることは存じておりますが、万遍なく見ていただけているかという疑問に思いますので、帰り道一人になってしまっても地域の方々の見守りが行き届いていると、より安心して子育てをしていけると思います。藤沢学童、小さすぎ、定員少なすぎです。
30 歳代	岡部地区	深谷に引っ越して 1 年が経とうとしています。少しずつ慣れてきて、とても住みやすく良い町だと感じています。近所の方々とは顔を合わせれば挨拶する程度で、色々な恐ろしい事件もありますのでそれ以上は望んでいませんが、大きな震災があった時は声を掛け合い助け合えたら良いなと思います。高齢の方も心配ですがいきなり声を掛けても警戒されると思うので、少しずつ関わりを増やしておきたいとは思っています。アンケートのお陰で考えるきっかけになりました。自分にできる事、行政に頼る事、頼っても良い事など、知識がないと行動できない事もあるので勉強してみようと思います。ありがとうございました。より良い深谷市の為に今後共よろしくお願ひ致します。(再掲)
40 歳代	深谷地区	子育て真只中の私達世代からすると、地域に良くなってほしいけど自分たちの時間をもうこれ以上そのために使うことは厳しいです。高齢で時間があり元気な方に、もっと力を借りれる社会になってくれたら嬉しいです。(子どもの登下校の見守り、等。)
50 歳代	深谷地区	ケアラーに対するレスパイトも含めての支援。特にヤングケアラーは自身をケアラーと認識していないことも多く周知も含めて取り組みが必要と感じる。独居高齢者の把握が十分でなく民生委員が訪問されていない家がある。

年代	居住地区	回答内容
50 歳代	深谷地区	<p>以前、ある研修で聞いた他地域での子ども食堂のような活動の話。親御さんが生活のために必死で働いて子どもに目や手を掛けてあげられないご家庭や、困難を抱えるご家庭の子にとって、作ってもらったご飯をただ食べるのではなく、一緒に作り味わう中で、地域の大人たちに教えてもらったり共感してもらえることがとても大切なのだと聞きました。一人の子どもを育てるためには一つの村が必要だといいます。料理(味噌や漬物づくりなども良いですね)や昔ながらの遊び(竹とんぼ、竹馬、凧など)や様々な道具(かごや縄、縫物)作りなどを通して世代を超えての交流と伝承を、当たり前のようにできる地域になると良いと思っています。</p> <p>そういった中で、お互いに生きる知恵や喜びが得られるのではないのでしょうか？もちろん、そこにはしっかりと行政が入って支えて欲しい。決して民間任せにははいけないと思います。</p> <p>また、常々思っているのですが、生活の中で困ったときにどこ(様々な制度の利用など)に助けを求めれば良いのかを、社会に出る前に教えるべきなのではないかと…困ったときに「助けて！」と言えるように、「助けて！」と言って良いのだと教えてあげべきだと思います。それは、自殺や犯罪防止につながるのだと思っています。(再掲)</p>
50 歳代	藤沢地区	自分の地域に限らず、高齢者の一人暮らしなどは、地域で声掛けや助け合いをして、不安な事を解消するよう協力できたら良いと思う。
50 歳代	藤沢地区	助けが必要な方が、何処に居るのか情報が必要。
50 歳代	豊里地区	介護保険の申請に本人は行かないと思われます。家族も知りませんでした。民生委員や保健センター職員などが地域の未申請の高齢者の介護度介助度をチェックし、すべて把握すべきだと思います。身体の不自由、生活の不自由に応じ、早めに適切に対処できることが大切だと思います。
70 歳以上	深谷地区	介護経験者でしたが、1 時間位気楽に居てもらう人がいたら、たすかりました。サービスを使うとかでなくくサービスは面倒なので、使いづらいので。>
70 歳以上	幡羅地区	地域の人との交わりが少なく、民生委員の氏名、お顔もわかりません。民生委員さんの担当を少なくして和やかに会話ができると、あの家の困り事等理解して解決の方面を指導して、和やかな生活になるかと思います。近所に一人で生活している家もありますが、何でもない人が訪問もできません。
70 歳以上	花園地区	「火の用心と同じく困り事はありますか？」と広報車等で日中でも巡回して欲しい。無料ゴミ回収車みたいに。

■市役所や社会福祉協議会へのご意見

年代	居住地区	回答内容
20 歳代	八基地区	「negi」の一万円給付はとても良かった。学生だった自分にはとても助かりました。そういったこれから大人として自分で生きていく新成人の為の給付みたいな事は、どんどんと予算の許す限りで良いのでやって行って欲しい。
30 歳代	岡部地区	このアンケートを 2,000 人ではなく、もっと増やすと意見は増えると思います。前回も同じような内容のアンケートを書きました。よろしくをお願いします。
40 歳代	大寄地区	市役所の手続きは何かと複雑で、高齢者は大変だと思います。手続きを手伝ってくださる方がいるとありがたいです。(交通手段の手配も含め。)役所の書類の内容がよく分からないこともあります。誰でも分かりやすい文面、量も程々にお願いしたいです。(分量が多すぎても困ります。)
40 歳代	川本地区	そろそろ市長を変えた方が良い。
50 歳代	岡部地区	この様なアンケートをやめて下さい。
50 歳代	川本地区	地域密着が強すぎて、深谷市内のイベントに参加したのにできない現実…。合併で大きくなった深谷だけど、市役所近辺だけの盛り上がりで、同じ市民なのにピンと来ない。役割をちょうだい！って感じ。ボランティアでも協力しますよ！放送で募集してみたらどう？
60 歳代	深谷地区	空き家対策、持ち主に経済的支援、撤去、売却をサポート等、条例とかの制定・活用で推進できないでしょうか？既に、何か推進策があればその広報を希望します。
60 歳代	大寄地区	民生委員を選ぶのは地域の人ですか？市の方で助言等してもらえると助かります。
60 歳代	豊里地区	市民への PR をしてほしい。
60 歳代	川本地区	市町村と県の連携が必須。予算が必要なものは県レベルでないといけない。何でも無料ではなく、一定の費用負担をすることも必要。公共と民間の連動で、幅広く資金調達を可能にする。
70 歳以上	幡羅地区	最後は市役所に相談する事になると思うので、しっかり市役所・各担当部署で対応して欲しい。
70 歳以上	大寄地区	会を数多く作る。
70 歳以上	岡部地区	道路にトラクターで畑の泥を落としているが、片付ける様に注意喚起してほしい。
70 歳以上	花園地区	当事者意識を育てる事業の立ち上げ、及び、推進。これに関する事業報告会の開催。

■支え合いの意識醸成

年代	居住地区	回答内容
20 歳代	上柴地区	深谷市民一人ひとりが関心を持つことが、共生への第一歩であると考えます。これまでの活動をただ形式的に継続するのではなく、効果が出てない活動は 1 度立ち止まって、目的を明確にし、その為の策を地域の人達の声を聞くことから、丁寧に立てることが大事だと思います。その上でこの市民アンケートは有用ではあると思います。チラシを配るだけで満足するのではなくて、チラシの向こう側にいる市民を考えて、伝えるための姿勢を持ち続けて欲しいです。
30 歳代	八基地区	助け合い・支え合う為には心のゆとりが必要。心のゆとりの為には金銭的余裕が必要。自分達の事で精一杯なので、人を助けるゆとりや余裕等無い。もっと金銭的補助が欲しい。
40 歳代	深谷地区	行事やイベントの周知徹底 →在住歴が浅い人ほど恒例行事などを知らないため、参加を促す。助け合いや支え合うことは、ある程度のコミュニケーションが必要だと感じる。地区をもう少し細かく区切って、地区イベントを開催する。(再掲)
40 歳代	岡部地区	まず何事も興味を持ち、知ろうという気持ちを持たないと、助け合いも、支え合いも出来ないと思いますので、知る機会をたくさん作って欲しいです。活動なども平日は仕事があって参加出来ないの、土日があると参加しやすいです。
50 歳代	八基地区	子育て世代の人達が孤立しない様に助け合いが出来る取り組み。
50 歳代	豊里地区	みんな自分達の事でいっぱいいっぱい、他の人を思い遣る余裕がないように感じる。「自分がされてイヤな事は人にしない」とか「自分がされて嬉しい事を人にしてあげる」という気持ちになれるような、心にゆとりをもてるような「優しい」雰囲気にもまれた地域を実現できれば…と思う。が、コレが一番難しいし、ソレができていればこんな質問されないよね…。難しい問題で特効薬はないかもしれないが、それでもみんなまで考え続ける事が大事だと思う…。
50 歳代	川本地区	お互い無関心にならないようにする事。声をかける、挨拶する。
60 歳代	藤沢地区	助け合い支え合う事は、とても大切な事だと思います。しかし自分の生活が精一杯の現役世代。充分な年金収入がなく働き続けなければならない高齢者が増えている現実。助け合いや支え合いに力を出せない人が多いのではないのでしょうか。市の職員も減らされ、公の役割を果たすのは大変だと思います。公務員の皆様の多忙が本当に心配です。市長にはもっと市の職員それも正規職員を増やしてほしい。市税はそのためにも払っているのですから。有効に使ってほしい、それが基本です。
60 歳代	藤沢地区	助けあいの項目をリスト化して、支援してほしい人と支援出来る人のマッチングを行う。支援した人には、ふっかちゃんポイントを与えて、ポイントが貯まると市内買い物券に交換出来るようにする。
60 歳代	八基地区	助け合う為に、困っている人を助ける。生活に困っているから助けるのは、助け合いではない。生活保護を受給している人の事とやかく言う人がいて、そういう所に意識の違いがあるので、全員が納得できるような答えを求めるのは難しい。

年代	居住地区	回答内容
60 歳代	八基地区	隣近所でのコミュニケーションから気づき合い支え合う事を、普段から自分自身が心掛ける事が大切。
70 歳以上	深谷地区	皆で「住みよい社会を作る」という市民の意識を高めることが大切と思う。そういう意識が高まれば、社会も良い方へ向かうと思います。
70 歳以上	幡羅地区	助け合い・支え合う地域を作るために必要なのは少なからずとも信頼関係を構築する事だと思います。同じ町内の住民でも名前も顔も知らない人は多いです。まずは、町内の方々とコミュニケーションを取りたいと思います。自治会の懇親会もコロナ禍以降無くなりました。あらゆる機会です自治会単位のコミュニケーションを取るための場を設けて欲しいと思います。
-	-	緊急事態で助け合えれば良いと思います。

■地域活動の担い手

年代	居住地区	回答内容
40 歳代	深谷地区	地域でボランティア活動の日を設け、一人暮らし高齢者等困っている方の所に親子で手伝いに行く等のシステム作り。ボランティア参加のポイント制。
40 歳代	幡羅地区	行事、委員、地域活動等自発型参加が多い。委員会、役員等同じ人が担っている。交代制にすれば、皆が参加できる。今の時代にそぐわないかもしれないが、皆が何かしらに関わり合うためには、第一歩としては必要だと思います。
40 歳代	八基地区	自治体単位で何をやるにしても常に人手不足だと思う。何をやる。ということ周囲とその関係者が知らないからであろう。もしそれを知っていたら参加したい人もいます。参加したい人が手軽に参加できる仕組みを作るべき。例えば市のホームページで、私はこの日のこの時間が空いてる。という人手提供申し込みのシステムみたいのがあればよいと思う。無論、そのシステムの周知がまずは最大の課題だと思うが。
40 歳代	川本地区	現在家族が地域の行事(ゴミ 0、草刈り、共用ゴミ捨場の清掃等)に参加している為、私自身はそういった事に参加したことがありません。知識としての活動や福祉の取り組みは理解していますが、周囲にそのサービスなどの利用を必要としている人がどのくらいいるのかもわかりません。もう少し年齢が上がれば、自身もこういったことを必要としたり、地域行事への参加も必須となるかも知れませんが、現時点では思い付くことはありません。
50 歳代	深谷地区	会社、企業外で後継者、人手不足問題を解決できる情報共有。(農家、介護、買い物など。)報酬については非課税。(副業可)
50 歳代	八基地区	地域単位で活動に参加できる人材育成。活動の場への送迎システム(高齢者等)。一般の方とは別に、手続きの簡素化。
50 歳代	上柴地区	世代交代が進んでいないので、先行きどうなるか心配です。新しい人を受け入れる雰囲気がないと、ボランティア等も参加を継続する気にはなれません。
60 歳代	八基地区	ボランティア活動を小、中、高校での必須教育とする。

年代	居住地区	回答内容
60 歳代	花園地区	1.コロナ前後で比較すると、地域活動が貧弱になっている。一度ストップすると再開するには大きなエネルギーが必要になる。行事を通じて地域や人との交流を通じて活性化するのは？2.地域の事を知っている高齢者の重要性を高め、地位を向上させる。高齢者の経験を生かす。3.昔を回想した地域づくり。
70 歳以上	深谷地区	民生委員や児童委員など地域活動に協力している人々にはそれなりの報酬を支払うべきだと思う。協力している人達は皆忙しい中で活動に協力しているのだから、支払うことでやる気につながるし、家庭生活も潤うと思う。それが地域の活性化にもつながると思う(報酬→お金)。
70 歳以上	大寄地区	地域内に時間的に余裕がある人が少ない。
70 歳以上	大寄地区	地域伝統、歴史を学び、地域を大切なものとする心を育てる。家族の大切さを学ぶ学校教育。
70 歳以上	大寄地区	昔のように葬儀お勝手手伝いで隣組が集まることもなくなり閉鎖的な家庭が多くなり、隣家が何をしているのかもわからないこの頃です。いきいきサロンのボランティアは続けたいと思っています。
70 歳以上	川本地区	現任の民生委員です。深谷市でも要員が不足している現在、地域のボランティア要員も、消防団員も手を挙げる人が減っています。自分の生活が最優先なのは理解できますが、「名誉職であるだけでは魅力が無いのかな？」と感じます。個人的には人様にお役に立てるなら何でもいいとの思いは有りますが。

■生活環境（交通・買い物支援・ごみ出しなど）

年代	居住地区	回答内容
20 歳代	深谷地区	団地で部屋を貸している外国人のマナーが悪すぎる。ごみ捨て置き場に捨てるゴミを外に捨てたり、団地のマナーを守らなすぎてゴミがカラスに荒らされて管理人が片付けてるのを見たことがあるし住民からしたら迷惑過ぎるのでどうにかして欲しい。
40 歳代	豊里地区	いまは子どもが安全に住みやすく暮らせる事が一番の希望です
40 歳代	花園地区	ボランティア活動や支援活動は絞ることが肝要である。必要だから増やす、は参加者が減る。例えばゴミ問題が課題となっている地区は、ゴミ対策ならば参加者は多い。しかしその地区でスポーツ活動や子どものクリスマス会だのを増やすと、あれもこれもというのは忌避され、特に若い世代は参加しなくなり、結局はゴミ対策の参加者が減る。人口減少社会では地域に負担をかけると若い世代は流出してしまうだろう。ほか、買い物や移動のサービスは、行政側で料金を決めて、地域で報酬ありの制度を導入したら良いのではないだろうか。安いだろうが高齢者の収入にもなる。民業圧迫になるかもしれないが。

年代	居住地区	回答内容
50 歳代	川本地区	着なくなった服をゴミとして扱うのではなく、洋服にお金を掛けられない方は声を上げないだけでいいと思います。服を入れる場所を作ってほしいです。誰でも手を出す事のできる場所を設けてもらえたらいいと思います。着ない服や靴を持っている人は、私の周りにもたくさんいます。食品も期限を気にする人は捨ててしまっている人も多いです。期限が近い物を置く場所があれば助かるし、ほしい人もいます。いらぬ服、靴、バッグを回収する場所と、期限の短い物を回収する場所があれば、ゴミは増えないし人助けになると思います。
50 歳代	花園地区	屋外運動施設がほしい。
60 歳代	深谷地区	リサイクル、及び、生活改善。物が高くなっている為。(ロシアのウクライナ侵攻。)
60 歳代	藤沢地区	クルリンバスの件、高齢者の利用・予約が大変なので、もっと良い方法はないか？
60 歳代	大寄地区	病気の際買い物に困った経験があり、買い物を代行してくれるサービスがあると助かると思います。くるりんバス(北部シャトル便)のバス停と本数を増やしていただきたいです。また、くるりんバスのバス停はあるのにバスが来ないバス停をどう利用すればいいのか、より詳しく説明があるといいと思います。免許証を返納したら、買物、病院の通院に今から心配で考えてしまいます。タクシー券とか月に何枚か市から配ればよい。
70 歳以上	深谷地区	公園内のフェンスがあるコート、犬の為に 1 時間でも開放して使用させて下さいませんか？(早朝 5～6 時くらい。)
70 歳以上	深谷地区	くるりんバスを活用したくても足が不自由だと乗れず、家族同伴でないと駄目だと言う。家族が同伴なら仕事を休んで連れて行くしかない。何とかならないだろうか。体の不自由な人の為のバスであって欲しい。
70 歳以上	明戸地区	地域にスーパーが一つも無い事が近い将来の不安です。歩いて行ける場所にぜひスーパーが有って欲しいですね。結婚して家庭の有ります我が子達に土地を提供できる状態でも、自分自身の老後を考えると住む事は考えられないと申します。空気は良いのですが実に不便さを感じています。それは心より理解できます。私自身が常に思っていることですから。野菜は大好きで体にはとてもよいのですが、そればかり食している訳にも行きませんもの。生活には衣類も…。
70 歳以上	明戸地区	空き地の管理を保有者に徹底して欲しい。
70 歳以上	八基地区	高齢者になると車、足がない為、薬局等があるスーパー等に週一回位行ってくれる乗り合いバスでもあれば、買い物ができてとても嬉しいですけどね。よろしく、私の希望です。

■自治会のあり方・運営・存続

年代	居住地区	回答内容
40 歳代	花園地区	私の住む地域では、自治会長が決まらずなすりつけ合いが発生しています。年齢の高い順に全ての世帯から出せる様に決め事を作ってほしい。地域毎に任せると上記の様なトラブルが発生して、何度も自治会館に呼び出されて困る。
50 歳代	花園地区	各自治会の活性が深谷市の活性に繋がるのでは？しかし自治会に入会するメリット等ないと思う。会長探し等で自治会が弱体化しています。深谷市は自治会の現状を確認して問題点を解決して行けば良い地域作りになるのではないのでしょうか？
60 歳代	豊里地区	自治会活動参加等に関する啓蒙。自治会館サロン(仮称)等で高齢者を孤立させない。会館に行けば、誰かに会える等。
60 歳代	上柴地区	自治会活動の充実。地域のお祭り等の伝統行事と自治会活動の分離。自治会活動は保守的でニーズに合った活動となっていない。構成単位や役割分担などあり方の検討を望みます。
70 歳以上	明戸地区	最近自治会を抜けさせていただきました。すると、自治会の行事、広報もありませんので、地区の事何もわかりません。最近になり寂しいと思います。やめた理由ですが、順番で運動会や野球、ソフトボール、バレーボール等のお手伝いができないので。
-	-	1.自治会未加入者は情報が少ない。広報なし、公民館便りなし、回覧等なし。2.高齢者が多くなり、家に閉じこもりの人が多く見受けられます。足腰を強くして歩けなくなる様に「健康遊具」を公園に作ってもらいたい。

■交流の場における参加者の減少・固定化

年代	居住地区	回答内容
30 歳代	深谷地区	地域の人と交流の場を設ける。すでに私の住んでいる地区では運動会やお祭りなどがあるが、なかなか参加者も少ないように思う。参加したら参加賞や優勝したら景品が出るようなものだともしかしたら参加したいと思う子供や親、大人たちもいるかもしれない。(既にやっていたらすみません)まだ引越したばかりですが、地域の人とはゴミ捨ての時に挨拶するくらい。どんな人が住んでいるかもよく分かっていない状況。(隣組の方には挨拶したがそれきり)隣組の方だけでも人となりがかかるくらいの付き合いや交流があると良い。(再掲)
40 歳代	花園地区	ボランティア活動や支援活動は絞ることが肝要である。必要だから増やす、は参加者が減る。例えばゴミ問題が課題となっている地区は、ゴミ対策ならば参加者は多い。しかしその地区でスポーツ活動や子どものクリスマス会だのを増やすと、あれもこれもというのは忌避され、特に若い世代は参加しなくなり、結局はゴミ対策の参加者が減る。人口減少社会では地域に負担をかけると若い世代は流出してしまうだろう。ほか、買い物や移動のサービスは、行政側で料金を決めて、地域で報酬ありの制度を導入したら良いのではないだろうか。安いだらうが高齢者の収入にもなる。民業圧迫になるかもしれないが。(再掲)

年代	居住地区	回答内容
70 歳以上	上柴地区	市内放送について、ゴミゼロや深谷市全体で取り組んでいる事を以前の様に放送して下さい。参加者が少なくなっていますし、忘れたと言って参加しない人が増えています。なぜ皆に分かるようにしないのですか。放送がうるさいという人には伝えて下さい。何分もかからないのですからどうしてきちんと必要性を伝えないのですか？
70 歳以上	岡部地区	農村地域なので地区内に気軽に集まれる場所がないので、月 2 回近所の人達に声を掛け、5～6 人我が家でカラオケやお茶飲みをしているが、なかなかお喋りが多くて時間が早く過ぎてしまう。(AM のみなので。)いつも決まった人達が集うので、広げられない。

■その他

年代	居住地区	回答内容
18・19 歳	幡羅地区	ゴミ拾い
18・19 歳	八基地区	地域の強み、深谷市にしかできないことを構築させ、深谷市から日本経済を繰り広げられるような、農業などの職業の活性化を図らせたい。
20 歳代	深谷地区	地域で作っている野菜や果物を、売るお祭りを定期的で開催し、交流を深める。
30 歳代	明戸地区	草刈りを定期的に行ってほしい。畑の草が放置されてるのでどうかしてほしい。
30 歳代	明戸地区	国民の健康を守るために小さい頃からの発達(子育ての仕方、離乳食の形状、与え方)にもっと目を向けた方が良いと思います。ただ、職種や人によって知識が違うので、どれを基準にするのかは行政からすると難しいと思います。乳児期からの育て方により呼吸の仕方も正常になりやすく、免疫力が高く頭の働く人間になります。健康の基盤を幼少期に作ることで、いかに心身ともに健康な成人になるか、より日本を任せられる大人になるかが変わってくると思います。そして、病気になってから病院に行くのではなく、未病の時からの取り組みが大事です。体の健康は口の健康と繋がっています。定期的に歯科に行って口の中を健康に保つことで全身疾患を防ぐことができます。結果、日本の医療費も抑えられます。ただ、きちんとした歯科医療をしているところに行かなければ意味がないので、日本の歯科医療のレベルをもっと上げることも大事です。
30 歳代	上柴地区	深谷市の子ども達の未来が明るくありますように、心から祈ります。
40 歳代	藤沢地区	良くも悪くも、YouTube などですべてをさらけ出して活動していくこと、聖域から情報を発信しても信じ難い。批判されたり賞賛されたりするのが良い知恵が生まれるきっかけになると思います。
40 歳代	わからない	全ての情報の開示
40 歳代	わからない	そもそも地域での濃厚な人間関係は求めていません。
50 歳代	藤沢地区	色々な人がいるので難しい問題だと思いますが、自分の生活に余裕が無いとなかなかボランティアも出来ない気がします。物価高で年金生活者も大変になります。時間的には余裕が生まれますが、正直、賃金が欲しいと思います。

年代	居住地区	回答内容
50 歳代	豊里地区	法律を理解することが一番大切です。助け支え合うつもりが、法律に説かれたり、ありがた迷惑になる事があります。一線を越すラインを明確にする事が大事だと考えます。いくら親、兄弟姉妹でも自分以外は他人です。法律を理解する事こそ自分の身を守る絶対的手段だと思います。しかし、凶悪犯に法律を述べたところで理解してもらえません。悪い奴には鉄槌を下すくらいの心意気とそれが許されるくらいの世の中になるべきだと思います。ならず者を許さない世の中になって欲しいと思います。
50 歳代	川本地区	ゴミ拾い。
60 歳代	大寄地区	もともと地域から阻害されているからピンとこない。買物してと言われたらできる範囲で協力しているけど、自分のいない所でいらん人が悪口を広めたりする。深谷の地域性、閉鎖性、損得利益求める性格強すぎるのではと思う。市役所に行っても理解に苦しむ言い方をされる事があります。まずは私はやるべき事はやっていますので、地域が偏見持たない事、村八分みたいな事はやめた方がいいのではという事です。
70 歳以上	大寄地区	現在、私は市及び社会福祉協議会の方々にお世話をお願いしている障害者の家族です。皆様のお世話をする事が出来ません。アイデアも何もありません。お世話下さる方々と楽しくお話を出来る事が幸せとっております。
70 歳以上	川本地区	川本南地区で生まれたものです。川本南小の子どもが少なくなっています。今の状態が続くと子どもがいなくなってしまうので、改善してほしい。アイデアがあるので、伝えたいです。世界の国々子ども達に日本の 50 年～80 年前の遊びを文化交流を取り入れて、南小学校の人数を多くしたい。今から 30 年先を見て改善してほしい。
70 歳以上	花園地区	高齢者でも毎日働いている人が多く、そういう人達が楽しんでいられる日々が多くなれば良いと思いますが、本当に農家の主婦は良く働いているように見える。

Ⅲ 福祉関係団体アンケート調査

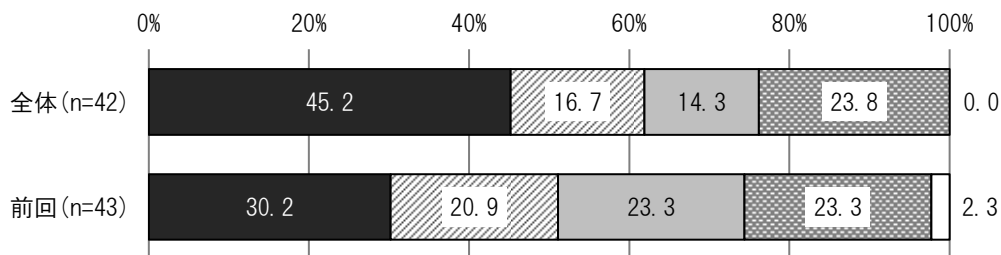
◎ 貴団体・施設等についてご記入ください。

■ 団体区分

(記述回答)

全体では「ボランティア・市民活動団体」が45.2%と最も多く、次いで「事業者・福祉施設」が23.8%、「民生委員・児童委員」が16.7%となっています。

前回調査と比較すると、「ボランティア・市民活動団体」で増加傾向がみられます。また、「自治会」で減少傾向がみられます。



■ ボランティア・市民活動団体 ■ 民生委員・児童委員 ■ 自治会 ■ 事業者・福祉施設 □ 不明・無回答

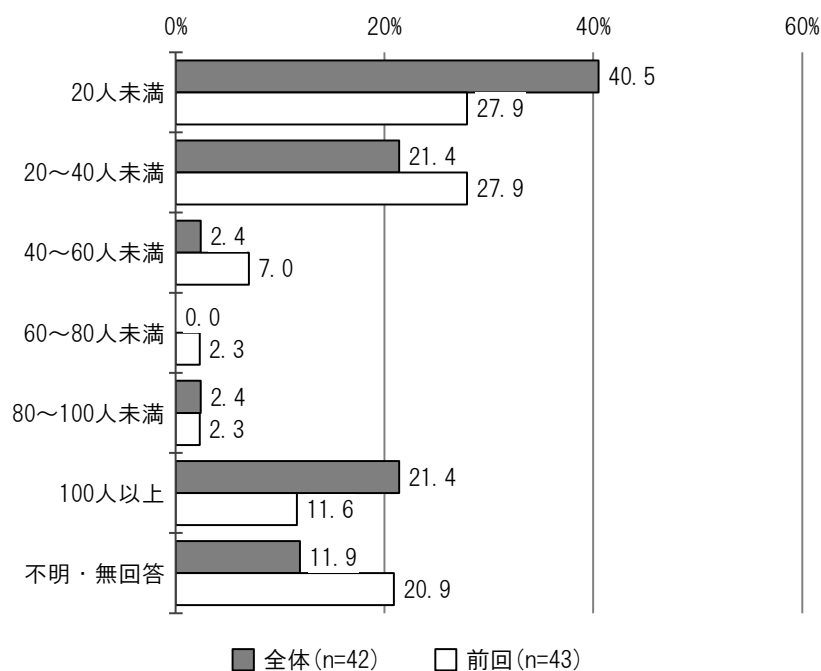
※ 前回調査での選択肢：「事業者」

■ 会員数

(数量回答)

全体では「20人未満」が40.5%と最も多く、次いで「20～40人未満」「100人以上」が21.4%となっています。

前回調査と比較すると、「20人未満」「100人以上」で増加傾向がみられます。また、「20～40人未満」で減少傾向がみられます。

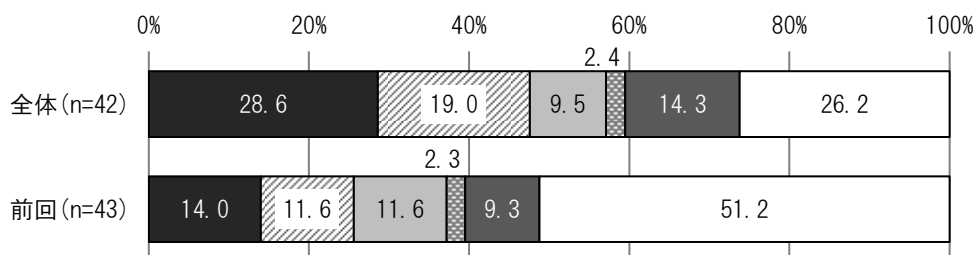


■ 活動年数

(数量回答)

全体では「10年未満」が28.6%と最も多く、次いで「10～19年」が19.0%、「40年以上」が14.3%となっています。

前回調査と比較すると、「10年未満」「10～19年」「40年以上」で増加傾向がみられます。



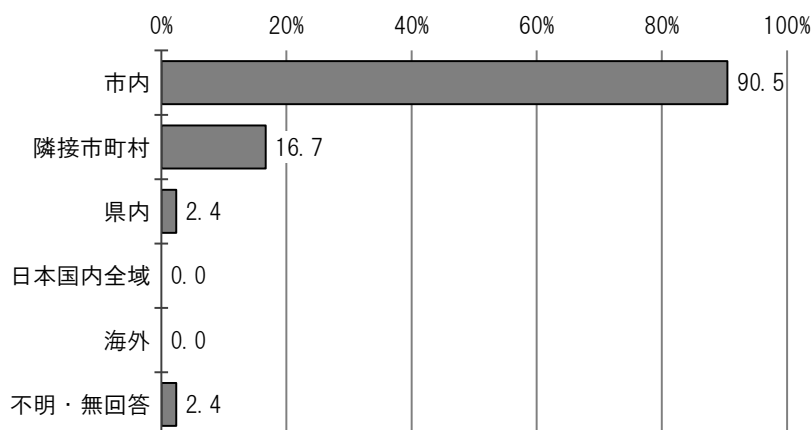
■ 10年未満 □ 10～19年 ■ 20～29年 ▨ 30～39年 ■ 40年以上 □ 不明・無回答

■ 主な活動範囲

(複数回答)

全体では「市内」が90.5%と最も多く、次いで「隣接市町村」が16.7%、「県内」が2.4%となっています。

全体 (n=42)



1 貴団体のことについて

問1 貴団体の活動の中で、地域と一緒にいることや、地域に向けていることはありますか。 (記述回答)

団体区分	回答内容
ボランティア・市民活動団体	限られた場所での絵本などの読み聞かせ。
ボランティア・市民活動団体	子ども食堂
ボランティア・市民活動団体	市民(一部)に向けて農業体験・活動の案内(社協さんによる)と実施。昨年はサツマイモの苗植えと収穫体験。
ボランティア・市民活動団体	地域食堂を運営し、地域の婦人会、民児協、自治会、老人会等の団体・個人に使用して頂いています。また、JA ふかや様と共催で、野菜収穫体験会を開催しています。
ボランティア・市民活動団体	公民館まつり、公民館玄関への寄せ植え、子ども食堂、保護司様との中学校あいさつ運動。
ボランティア・市民活動団体	市内の小中学校にチラシや手紙の配布。
ボランティア・市民活動団体	自治会活動(行事参加、自治会役員を担う)、地域交流事業(ディスクゴルフ大会)、機関紙発行自治会回覧、過去にアダプト活動。
ボランティア・市民活動団体	生き生きフェスタや文化祭などの深谷市一般市民への参加推進。東日本駅伝や深谷シティマラソンなどの整理委員派遣、ボランティア活動への協力。
ボランティア・市民活動団体	公民館活動や小学校のクラブ活動を何度か実施しました。この2月には子ども食堂の活動を支援します。
ボランティア・市民活動団体	子育て支援に対して、食堂(今はお弁当)の提供を行っている。その食材の多くは地域の企業や個人(主に農家等)からの支援を頂いている。また、地域の企業と一緒に農業、調理体験を行っている。
ボランティア・市民活動団体	サロン会等の中で絵本や紙芝居を読み聞かせる。
ボランティア・市民活動団体	オープンスペースの解放。
ボランティア・市民活動団体	地域サロン(イベントあり)、食事づくり、農業体験、深谷シネマにてシアター文化のふれあい、生活支援(草取り、買い物、通院、お出かけ、ゴミ捨てお手伝い等)。
ボランティア・市民活動団体	1.傾聴の勉強会。2.市内の学校法人のカウンセリング業務。3.市内の福祉施設での傾聴ボランティア。
ボランティア・市民活動団体	運動、GG、輪投げ、シルバーでも出来る軽い競技等。
ボランティア・市民活動団体	地域での犯罪予防の為の啓発・宣伝活動。中学校でのあいさつ運動。

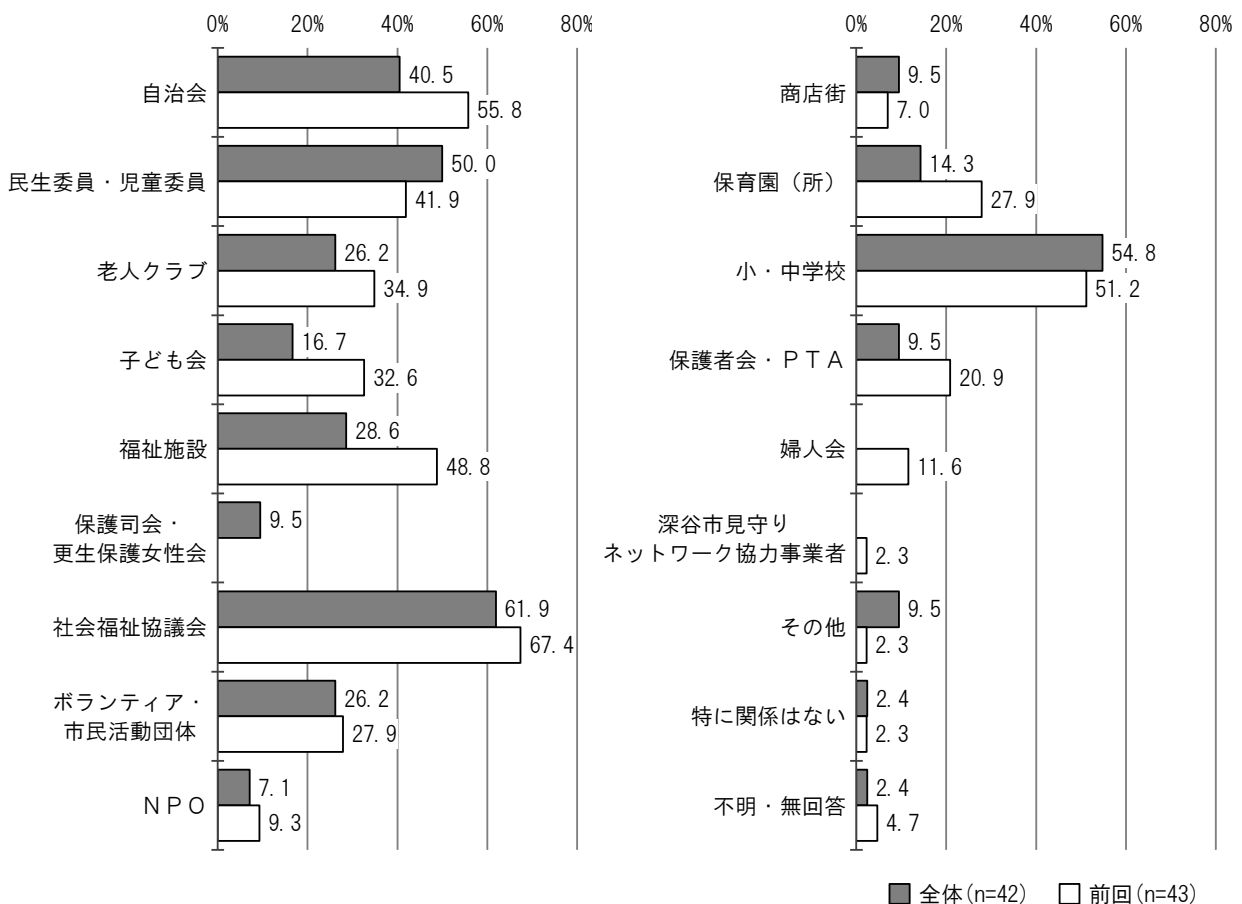
団体区分	回答内容
民生委員・児童委員	小さな集団として団地内住民との月 1 回の清掃活動。ゴミ集積場の当番活動、大きな集団として年 1 回上柴祭り、バレーボール大会、グラウンドゴルフ大会、文化的事業として公民館文化祭、七夕祭り(小学生参加)、地域安全のパトロール。
民生委員・児童委員	登校指導、ふれあいいきいきサロン(一部地区)。
民生委員・児童委員	ふっかつ体操やいきいきサロン等は中心に行い、地区の和を高める活動、防災研修(地区住民を取り込み)等。
民生委員・児童委員	南地区体育祭、南公民館祭り、花の郵便屋さん、敬老会記念品配布、第 2 層協議体の地域支え合い作りに参加。青少年健全育成会でのあいさつ運動に参加。
民生委員・児童委員	1.子供安心パトロール(7 月、8 月各 1 日)2.幡羅中の登校指導(毎月第 1 水曜日)3.見守り訪問(毎月第 2 木曜日)4.ふっかつ体操の場の運営。5.まごころ訪問(12 月)6.さくらそうプロジェクト(3 月)。
民生委員・児童委員	1.地域内の「いきいきサロン」への参画または協力。2.青パト巡視活動。
自治会	1.環境美化活動(春・秋ゴミゼロ運動、毎戸出席(277 軒))。2.上原夏まつり(毎年 7 月、お年寄り～子供会、上原全戸夏祭り)。3.夏の除草作業(上原地区全体毎年 8 月)4.お年寄りホットサロン(年 4 回)。
自治会	子供会との連携、地藏祭り子育て支援、学童と中心に書初め会の開催。寿会との交流、班長を中心とした防災会行事参加、炊き出し訓練、班長が 1 年任期の為に各行事を例年開催し参加訓練者を増やしている。
自治会	地域内における自治会活動。
自治会	体育行事(ソフトボール、バレーボール、ローンボウル、グラウンドゴルフ、体育祭、三世代交流)、文化行事(ふれあい祭り&芸能祭、美術展)ごみゼロ運動、地域防犯パトロール、環境保全会とともに堀さらい、いきいきサロンにて見学コース、講演、園芸等。
自治会	自治会(支会)、祭り、スポーツ(ソフトボール、バレーボール、グラウンドゴルフ)、自治会、納涼祭、ふれあいサロン、ごみゼロ運動(春・秋)。
自治会	史跡公園の清掃。高齢者同士の雑談会。
事業者・福祉施設	歌声サロン、協議体、通いの場、オレンジカフェ(チームオレンジ)。
事業者・福祉施設	法人後見、成年後見の普及・啓発。
事業者・福祉施設	介護予防教室、いきいきサロンでの介護保険制度、地域包括支援センターの周知と健康についての生涯学習(グラウンドゴルフ、歌声サロン等)継続の補助、就労支援、民生委員活動の協力と支援。
事業者・福祉施設	第 2 層協議体にて地域住民向けの講座や集いの場として料理教室の開催。
事業者・福祉施設	相続、遺言、成年後見制度等の無料相談。
事業者・福祉施設	成年後見利用促進事業会議への参画。成年後見制度説明会の実施。個別相談の受付。成年後見の受任。
事業者・福祉施設	1.体操教室を月 2 回実施。2.セーフティネット事業。3.認知症サポーター養成講座への職員派遣。4.福祉の心を育む交流事業。5.ふかや社会福祉法人社会貢献活動推進連絡会会員。
事業者・福祉施設	住民主体の通いの場の支援、認知症の普及・啓発活動。制度やイベント等の情報発信。

団体区分	回答内容
事業者・福祉施設	子育て支援センターにおける育児相談。
事業者・福祉施設	住民主体の通いの場、居場所、介護予防教室、地域資源情報サイト「ふかまるマップ」、家族介護者教室、認知症サポーター養成講座、オレンジカフェ、広報誌回覧、第2層協議体、高齢者相談等。

問2 貴団体では、地域活動を行う上で他の団体や機関等との交流や連携、協力関係がありますか。 (複数回答)

全体では「社会福祉協議会」が61.9%と最も多く、次いで「小・中学校」が54.8%、「民生委員・児童委員」が50.0%となっています。

前回調査と比較すると、「民生委員・児童委員」で増加傾向がみられます。また、「自治会」「老人クラブ」「子ども会」「福祉施設」「社会福祉協議会」「保育園(所)」「保護者会・PTA」で減少傾向がみられます。



※ 今回調査のみの選択肢：「保護司会・更生保護女性会」

前回調査のみの選択肢：「婦人会」「深谷市見守りネットワーク協力事業者」

前回調査での選択肢：「ボランティア団体」

問2で「自治会」～「その他」を選択した方

■ 具体的な活動内容

(記述回答)

団体区分	回答内容
ボランティア・ 市民活動団体	30分くらいの時間での絵本、紙芝居、歌などを行う。
ボランティア・ 市民活動団体	子ども食堂
ボランティア・ 市民活動団体	市民(一部)に向けて農業体験・活動の案内(社協さんによる)と実施。昨年はサツマイモの苗植えと収穫体験。
ボランティア・ 市民活動団体	他の団体に対して寄付して頂いた品物を預かり、配布して情報共有をしています。
ボランティア・ 市民活動団体	保護司会との社明運動、挨拶運動。子ども食堂の手伝い。
ボランティア・ 市民活動団体	他ボランティア団体との交流会やこども食堂のお手伝い。
ボランティア・ 市民活動団体	問1回答と同じ。ペットボトルキャップ収集、中学校内の通過依頼等。
ボランティア・ 市民活動団体	ボランティア活動と関係する会員を通じた交流がある。
ボランティア・ 市民活動団体	科学体験活動とその支援。
ボランティア・ 市民活動団体	社協ボランティア連絡会、ボランティア・地域活動サポートセンター。
ボランティア・ 市民活動団体	1.活動の周知や子ども食堂参加対象者(主にひとり親家族等)への声掛け等。2.運営に要する資金の助成や寄付を頂く。活動の場の提供を頂く。
ボランティア・ 市民活動団体	毎月1回程度、ふたば保育園、花園小学校の読み聞かせ会に参加。年3回、アクロン玉手箱に参加。年4回、フラワーヴィラにて大型紙芝居読み聞かせに参加。
ボランティア・ 市民活動団体	社会福祉協議会の行事等の参加。市民活動団体等への参加・支援。
ボランティア・ 市民活動団体	地域サロンで直接お手伝いに来てくださったり、地域サロンや生活支援のチラシを配ってくださったりとお世話になっています。イベント企画時にはコラボも(深谷シネマ、農業体験等)。
ボランティア・ 市民活動団体	社会福祉協議会から依頼があった活動。傾聴ボランティア等。
ボランティア・ 市民活動団体	見守り活動、子供から高齢者、友愛活動(挨拶、おしゃべり)。
ボランティア・ 市民活動団体	安全パトロール、あいさつ運動。

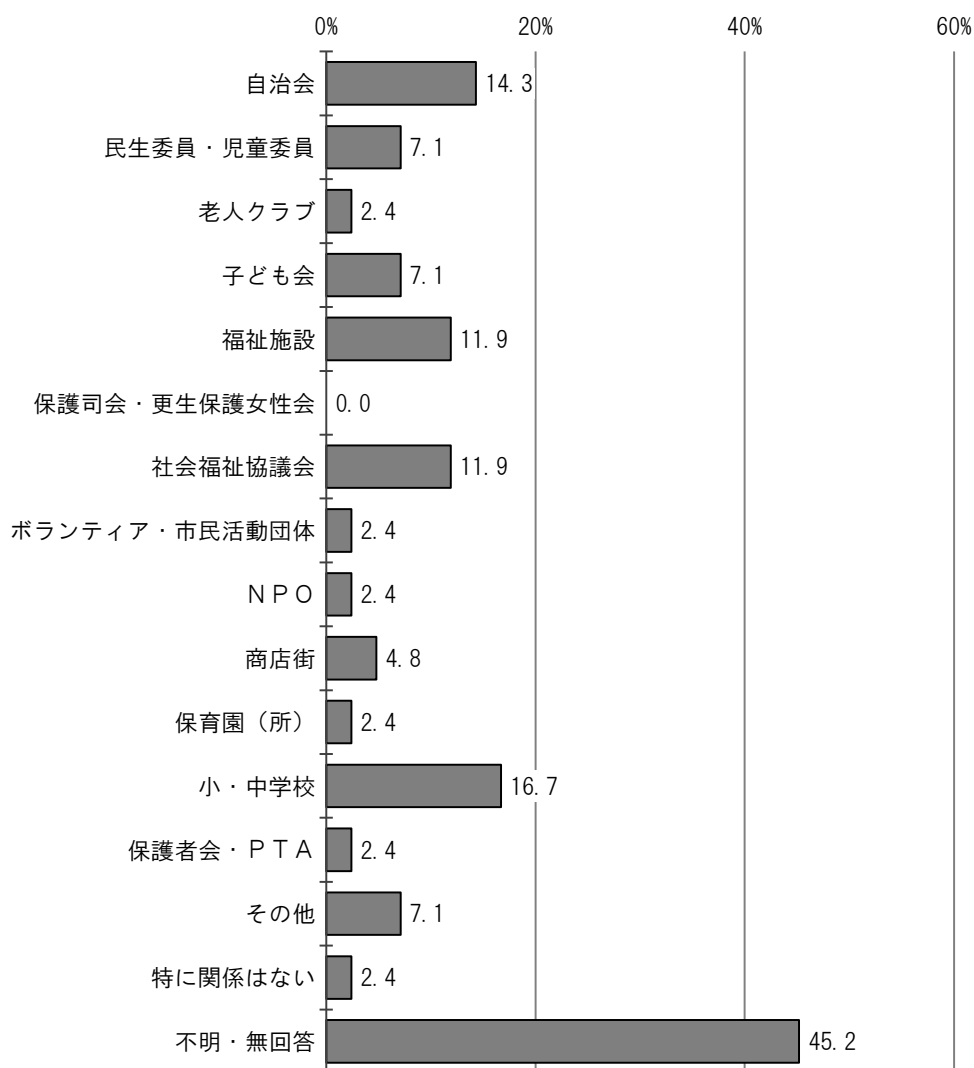
団体区分	回答内容
民生委員・児童委員	地元のお祭り、登校指導。
民生委員・児童委員	自治会の全ての行事に参加し、役員と同様に活動しています(夏まつり、地域清掃、イベント等)。社会福祉協議会との連携では、高齢者の見守り活動を主として安心安全な暮らしが出来るように活動。
民生委員・児童委員	協議会の会長、副会長、主任児童委員が学校運営委員として活動している。
民生委員・児童委員	一人暮らしの高齢者の見守りを支援。しくね育成園との交流、学校運営協議会に参画。
民生委員・児童委員	1.自治会、PTA 小中学校他。2.中学校。3.社協。4.自治会、老人会他。5.小学校 6.中学校。
民生委員・児童委員	学童見守り、共同募金活動、いきいきサロン(老人会)。
自治会	自治会(定期総会・自治会費集金(4千円)・民生委員(ホットサロン・健康体操・健康学))。子供会(夏まつり・総会)。更生保護女性会(川本地区全体総会出席)・小中学校(運営協出席)。
自治会	地蔵祭り(子育て支援)炊き出し訓練、班長主役、子供会、寿会の参加要請している。正月の学童書初め会、9月の防災教室、班長メインの子供会、寿会に参加要請している。
自治会	自治会活動の中で支援。
自治会	各種体育行事、文化行事、資源回収(小中とも)、ごみゼロ運動、防犯パトロール等。
自治会	小中学校運営協議、見守り。
自治会	老人会への参加推進。見守り活動、資源回収活動。
事業者・福祉施設	住民主体の通いの場の立上げ、継続支援や認知症サポーター養成講座の開催支援、いきいきサロンの応援隊、民協定例会出席など。
事業者・福祉施設	自治会長会議、民生・児童委員定例会、老人クラブ定例会への出席。
事業者・福祉施設	成年後見事業運営委員会への参画。
事業者・福祉施設	1.運営推進会議(地域密着型サービス)に自治会長・民生委員の方に参加頂く。2.埼玉県老人福祉施設協議会会員として他の福祉施設との交流あり。3.福祉の心を育む交流事業。4.ふかや社会福祉法人社会貢献活動推進連絡会会員。
事業者・福祉施設	各団体のイベント等への参加、イベント開催時の支援。
事業者・福祉施設	イベントやネットワークの参加。

問3 今後、連携していきたい他の団体や機関等がありますか。

(複数回答)

全体では「小・中学校」が16.7%と最も多く、次いで「自治会」が14.3%、「福祉施設」「社会福祉協議会」が11.9%となっています。

全体 (n=42)



■ 連携したい具体的な活動内容

(記述回答)

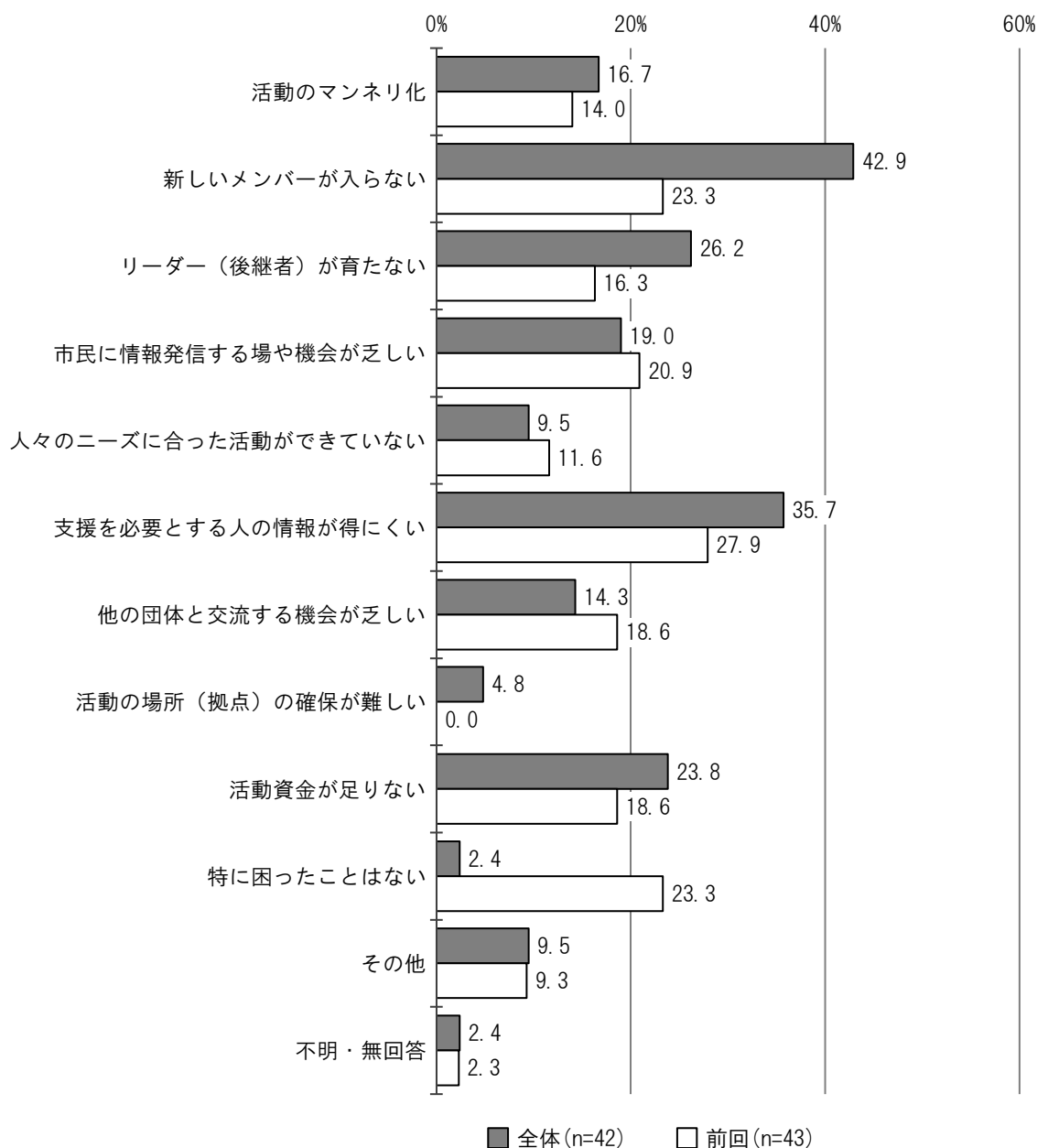
団体区分	回答内容
ボランティア・市民活動団体	薬膳料理
ボランティア・市民活動団体	子ども食堂
ボランティア・市民活動団体	子供会の農業体験活動。
ボランティア・市民活動団体	他のNPO(農業関係)との連携による活動。
ボランティア・市民活動団体	地域の子供会と連携したイベントを開催したい。
ボランティア・市民活動団体	小中学校とも同じ様にして行きたい。
ボランティア・市民活動団体	地域の見まわり、パトロールなどの協力。
ボランティア・市民活動団体	一人暮らしの方へのお手伝い。

団体区分	回答内容
ボランティア・市民活動団体	インクルーシブ含めて障害のある方と住まう交流や座学。
ボランティア・市民活動団体	幡羅地区内の障害事業所と自治会の交流会。
ボランティア・市民活動団体	科学体験活動に必要な知とプレゼンテーションを活かした活動にしたい。
ボランティア・市民活動団体	市内での小学高学年生から社会人までの科学体験の要望に応えたい。
ボランティア・市民活動団体	地域の農家さん、地場産の新鮮な野菜の提供を。
ボランティア・市民活動団体	集まる場所があると知らない方への周知や自治会館等の活用。
ボランティア・市民活動団体	情報の共有、地域課題の共有等。
ボランティア・市民活動団体	傾聴ボランティア
ボランティア・市民活動団体	再犯防止の為に息の長い支援が必要とされている為。
ボランティア・市民活動団体	多少似ている側面があるから。
民生委員・児童委員	小中学校、幼稚園との交流がコロナやインフルエンザ等で縮小気味。
民生委員・児童委員	情報の共有。
民生委員・児童委員	高齢者の活動に参加して悩みや困り事等を聞き取り、住み易い地域づくりを目指す。
民生委員・児童委員	地域の児童の様子を知り、手を差し伸べる児童の発見に繋げていきたい。
民生委員・児童委員	高齢者の地域参加の促進(通いの場づくり)。
民生委員・児童委員	引きこもり小中学生の見守りと支援。
民生委員・児童委員	要援護者名簿、自治会会員名簿の連携により高齢者世帯、独居高齢者のデータ化。
自治会	社会福祉協議会→ホットサロン事業に。保健センターと合同にて。お年寄りに血圧測定や食生活改善クラブ等の食事学を学習したい。
自治会	小中学校の運営委員として自治会メンバーが参加している人間がいない為、メンバーの再考を提案したい。直に社会福祉とは関係していませんが、上記は幡羅支会としての要望です。
事業者・福祉施設	認知症高齢者の支援方法。
事業者・福祉施設	AED使用方法、徘徊高齢者の対応等。
事業者・福祉施設	地域課題(移送支援)への協力。
事業者・福祉施設	要支援者の地域ネットワークづくり。
事業者・福祉施設	地域福祉事業(こども食堂、学習支援)を進める上で、繋がりを作りたい。
事業者・福祉施設	衣類バンクやイベントにおいて連携をしていきたい。
事業者・福祉施設	地域向けの講座やイベント等の共催や後援。
事業者・福祉施設	地域課題である移動に対する協力。
事業者・福祉施設	広報誌設置、見守り活動等。

問4 貴団体が地域活動を行う上で困っていることはどのようなことですか。(複数回答)

全体では「新しいメンバーが入らない」が42.9%と最も多く、次いで「支援を必要とする人の情報が得にくい」が35.7%、「リーダー（後継者）が育たない」が26.2%となっています。

前回調査と比較すると、「新しいメンバーが入らない」「リーダー（後継者）が育たない」「支援を必要とする人の情報が得にくい」「活動資金が足りない」で増加傾向がみられます。また、「特に困ったことはない」で減少傾向がみられます。



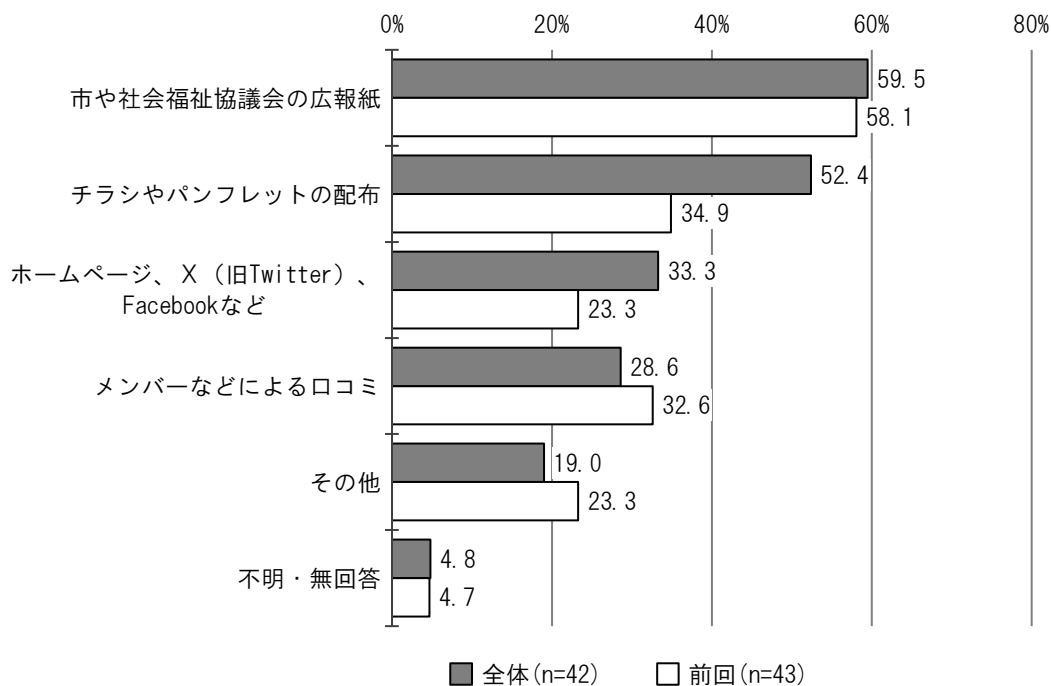
団体区分別にみると、〈ボランティア・市民活動団体〉〈事業者・福祉施設〉では「新しいメンバーが入らない」が最も多くなっています。

%		活動のマ ンネリ化	新しいメ ンバーが 入らない	リーダー (後継 者)が育 たない	市民に情 報発信す る場や機 会が乏し い	人々の ニーズに 合った活 動ができ ていない	支援を必 要とする 人の情報 が得にく い	他の団体 と交流す る機会が 乏しい
団体 区分別	全体 (n=42)	16.7	42.9	26.2	19.0	9.5	35.7	14.3
	ボランティア・ 市民活動団体 (n=19)	26.3	47.4	21.1	26.3	5.3	31.6	10.5
	民生委員・ 児童委員 (n=7)	14.3	28.6	14.3	14.3	14.3	71.4	14.3
	自治会 (n=6)	16.7	50.0	50.0	-	-	16.7	-
	事業者・ 福祉施設 (n=10)	-	40.0	30.0	20.0	20.0	30.0	30.0
%		活動の場 所(拠 点)の確 保が難し い	活動資金 が足りな い	特に困っ たことは ない	その他	不明・ 無回答		
団体 区分別	全体 (n=42)	4.8	23.8	2.4	9.5	2.4		
	ボランティア・ 市民活動団体 (n=19)	5.3	31.6	-	10.5	5.3		
	民生委員・ 児童委員 (n=7)	14.3	-	-	-	-		
	自治会 (n=6)	-	16.7	16.7	16.7	-		
	事業者・ 福祉施設 (n=10)	-	30.0	-	10.0	-		

問5 貴団体では、地域活動情報をどのように発信していますか。 (複数回答)

全体では「市や社会福祉協議会の広報紙」が59.5%と最も多く、次いで「チラシやパンフレットの配布」が52.4%、「ホームページ、X (旧 Twitter)、Facebook など」が33.3%となっています。

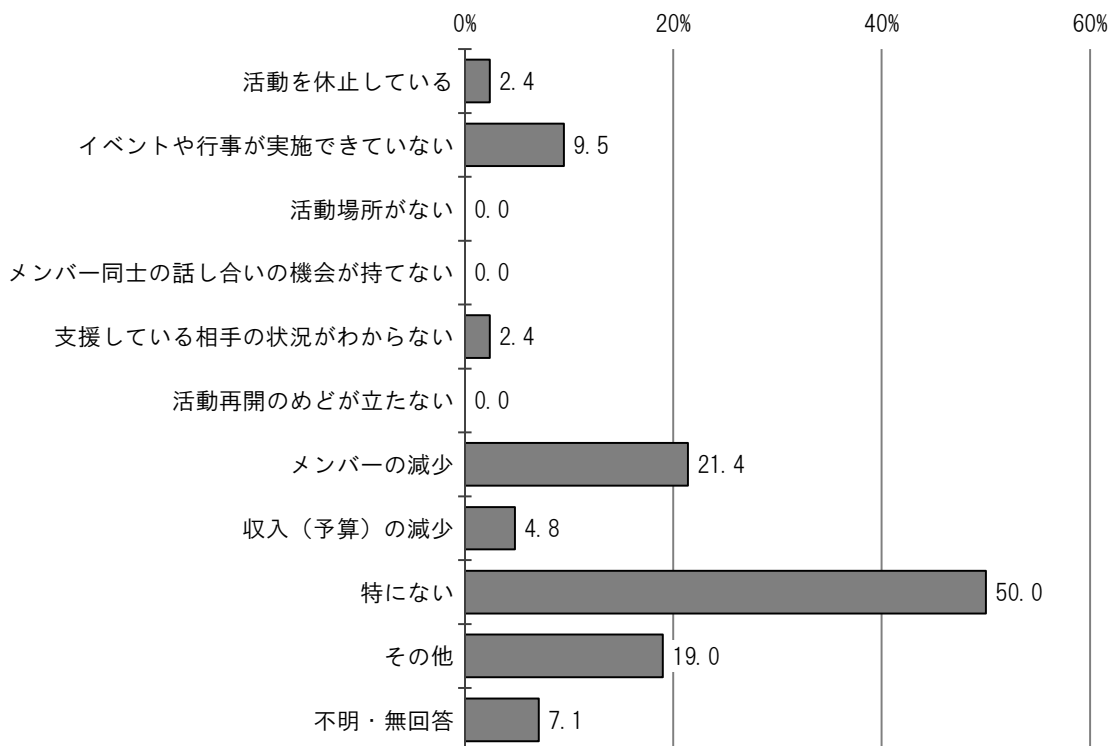
前回調査と比較すると、「チラシやパンフレットの配布」「ホームページ、X (旧 Twitter)、Facebook など」で増加傾向がみられます。



問6 貴団体が活動する上で、現時点で新型コロナウイルス感染症の影響は出ていますか。
活動の維持継続、支援者・利用者の視点での困りごとをお答えください。(複数回答)

全体では「特にない」が50.0%と最も多く、次いで「メンバーの減少」が21.4%、「イベントや行事が実施できていない」が9.5%となっています。

全体(n=42)



団体区分別にみると、<自治会>では、「メンバーの減少」が66.7%と最も多く、次いで「その他」が50%となっています。

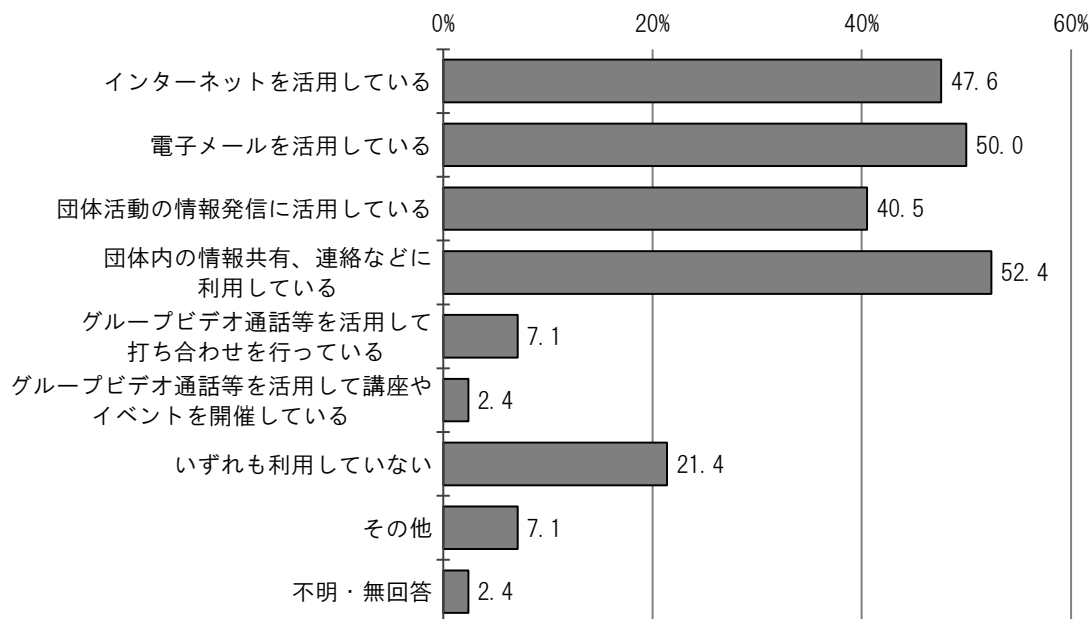
%		活動を休止している	イベントや行事が実施できていない	活動場所がない	メンバー同士の話し合いの機会が持てない	支援している相手の状況がわからない	活動再開のめどが立たない	メンバーの減少
団体区分別	全体(n=42)	2.4	9.5	-	-	2.4	-	21.4
	ボランティア・市民活動団体(n=19)	-	-	-	-	-	-	21.1
	民生委員・児童委員(n=7)	-	14.3	-	-	-	-	14.3
	自治会(n=6)	-	33.3	-	-	-	-	66.7
	事業者・福祉施設(n=10)	10.0	10.0	-	-	10.0	-	-
%		収入(予算)の減少	特にない	その他	不明・無回答			
団体区分別	全体(n=42)	4.8	50.0	19.0	7.1			
	ボランティア・市民活動団体(n=19)	5.3	52.6	15.8	10.5			
	民生委員・児童委員(n=7)	-	57.1	28.6	-			
	自治会(n=6)	16.7	16.7	50.0	-			
	事業者・福祉施設(n=10)	-	60.0	-	10.0			

問7 貴団体では、ICT等をどのように活用していますか。

(複数回答)

全体では「団体内の情報共有、連絡などに利用している」が52.4%と最も多く、次いで「電子メールを活用している」が50.0%、「インターネットを活用している」が47.6%となっています。

全体 (n=42)



団体区分別にみると、<ボランティア・市民活動団体>では、「団体内の情報共有、連絡などに利用している」が57.9%と最も多く、次いで「インターネットを活用している」が52.6%となっています。

<民生委員・児童委員>では、「電子メールを活用している」が57.1%と最も多く、次いで「団体内の情報共有、連絡などに利用している」が42.9%となっています。

<自治会>では、「いずれも利用していない」が50%と最も多く、次いで「団体活動の情報発信に活用している」「団体内の情報共有、連絡などに利用している」が33.3%となっています。

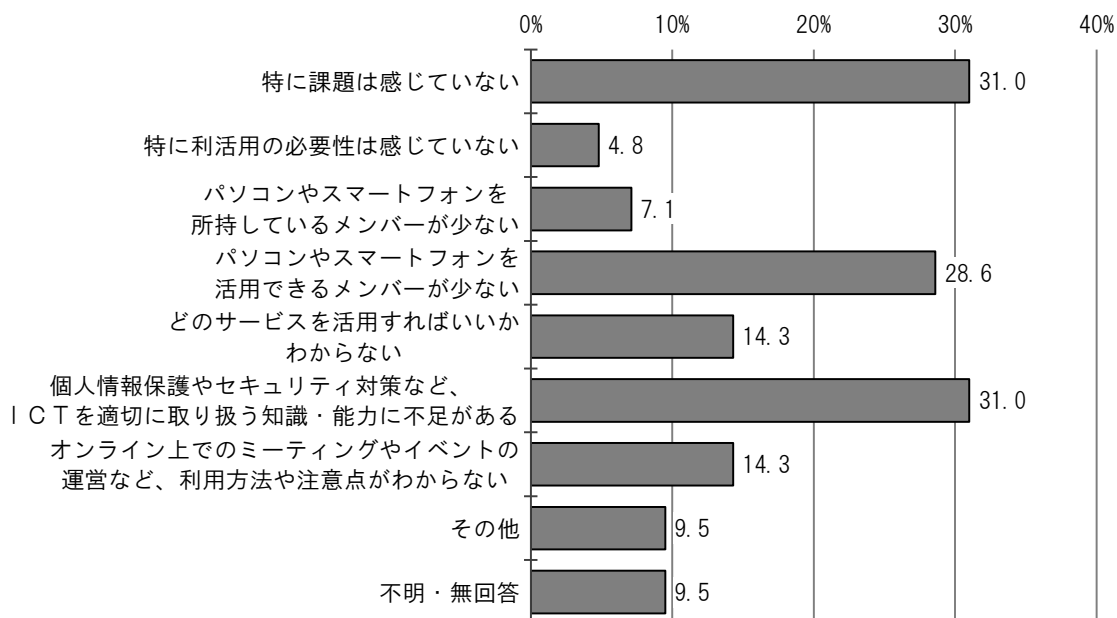
<事業者・福祉施設>では、「電子メールを活用している」が100%と最も多く、次いで「インターネットを活用している」が80%となっています。

%		インターネットを活用している	電子メールを活用している	団体活動の情報発信に活用している	団体内の情報共有、連絡などに利用している	グループビデオ通話等を活用して打ち合わせを行っている	グループビデオ通話等を活用して講座やイベントを開催している	いずれも利用していない
団体区分別	全体 (n=42)	47.6	50.0	40.5	52.4	7.1	2.4	21.4
	ボランティア・市民活動団体 (n=19)	52.6	31.6	47.4	57.9	10.5	5.3	21.1
	民生委員・児童委員 (n=7)	14.3	57.1	-	42.9	-	-	28.6
	自治会 (n=6)	16.7	16.7	33.3	33.3	-	-	50.0
	事業者・福祉施設 (n=10)	80.0	100.0	60.0	60.0	10.0	-	-
%		その他	不明・無回答					
団体区分別	全体 (n=42)	7.1	2.4					
	ボランティア・市民活動団体 (n=19)	5.3	5.3					
	民生委員・児童委員 (n=7)	14.3	-					
	自治会 (n=6)	16.7	-					
	事業者・福祉施設 (n=10)	-	-					

問8 ICT等の利活用に対して、感じている課題はありますか。 (複数回答)

全体では「特に課題は感じていない」「個人情報保護やセキュリティ対策など、ICTを適切に取り扱う知識・能力に不足がある」が31.0%と最も多く、次いで「パソコンやスマートフォンを活用できるメンバーが少ない」が28.6%となっています。

全体 (n=42)



団体区分別にみると、<民生委員・児童委員>では、「個人情報保護やセキュリティ対策など、ICTを適切に取り扱う知識・能力に不足がある」が42.9%と最も多く、次いで「パソコンやスマートフォンを活用できるメンバーが少ない」「どのサービスを活用すればいいかわからない」「オンライン上でのミーティングやイベントの運営など、利用方法や注意点がわからない」が28.6%となっています。

<自治会>では、「特に課題は感じていない」「パソコンやスマートフォンを活用できるメンバーが少ない」が33.3%と最も多く、次いで「特に利活用の必要性は感じていない」が16.7%となっています。

<事業者・福祉施設>では、「個人情報保護やセキュリティ対策など、ICTを適切に取り扱う知識・能力に不足がある」が40.0%と最も多く、次いで「特に課題は感じていない」が30.0%となっています。

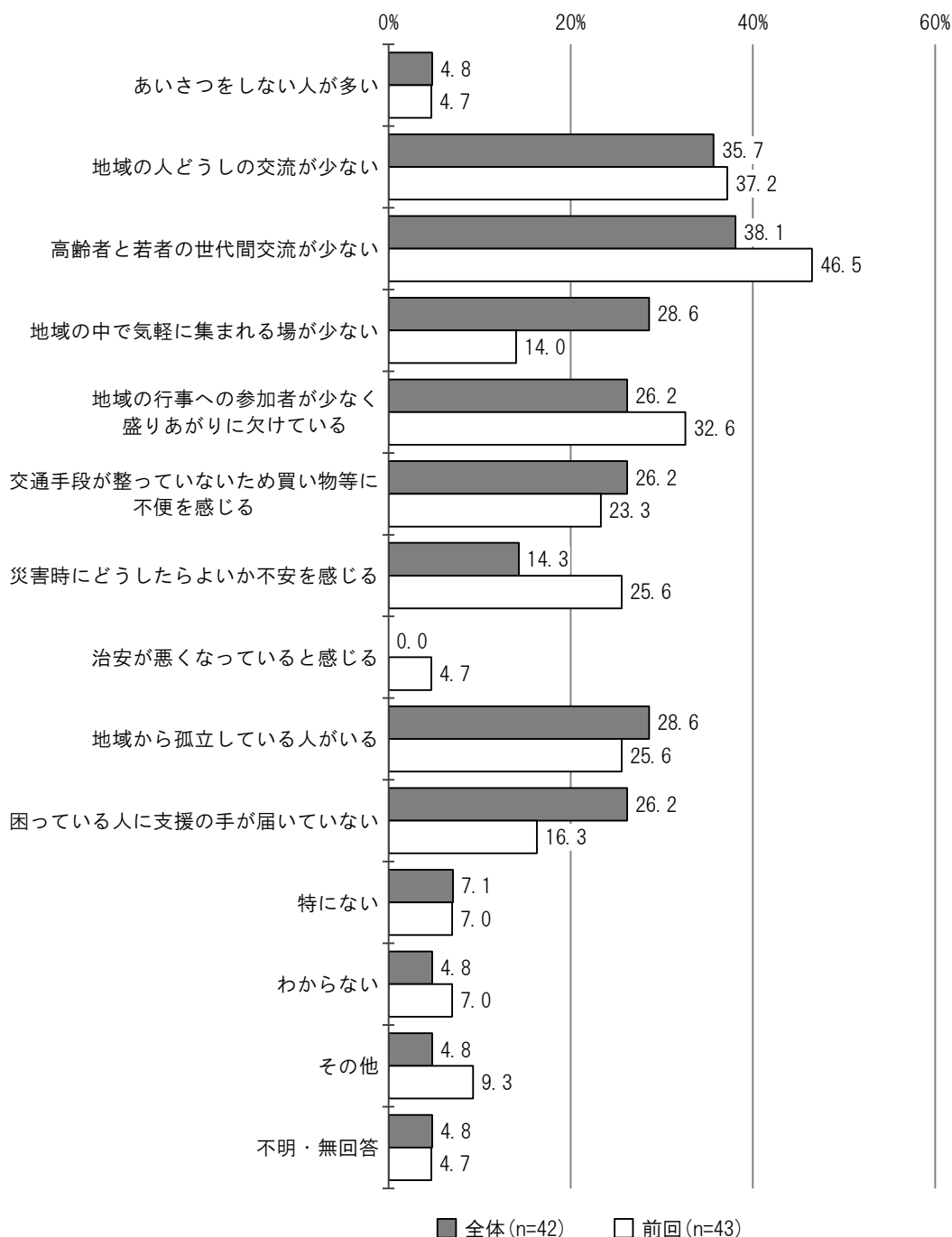
%		特に課題は感じていない	特に利活用の必要性は感じていない	パソコンやスマートフォンを所持しているメンバーが少ない	パソコンやスマートフォンを活用できるメンバーが少ない	どのサービスを活用すればいいかわからない	個人情報保護やセキュリティ対策など、ICTを適切に取り扱う知識・能力に不足がある	オンライン上でのミーティングやイベントの運営など、利用方法や注意点がわからない
団体区分別	全体(n=42)	31.0	4.8	7.1	28.6	14.3	31.0	14.3
	ボランティア・市民活動団体(n=19)	36.8	-	5.3	31.6	15.8	31.6	10.5
	民生委員・児童委員(n=7)	14.3	14.3	14.3	28.6	28.6	42.9	28.6
	自治会(n=6)	33.3	16.7	-	33.3	-	-	-
	事業者・福祉施設(n=10)	30.0	-	10.0	20.0	10.0	40.0	20.0
%		その他	不明・無回答					
団体区分別	全体(n=42)	9.5	9.5					
	ボランティア・市民活動団体(n=19)	10.5	10.5					
	民生委員・児童委員(n=7)	14.3	14.3					
	自治会(n=6)	-	16.7					
	事業者・福祉施設(n=10)	10.0	-					

2 活動を通して見える地域の状況について

問9 貴団体の活動を通じて、地域の中で課題に感じることは何ですか。（複数回答）

全体では「高齢者と若者の世代間交流が少ない」が38.1%と最も多く、次いで「地域の人どうしの交流が少ない」が35.7%、「地域の中で気軽に集まれる場が少ない」「地域から孤立している人がいる」が28.6%となっています。

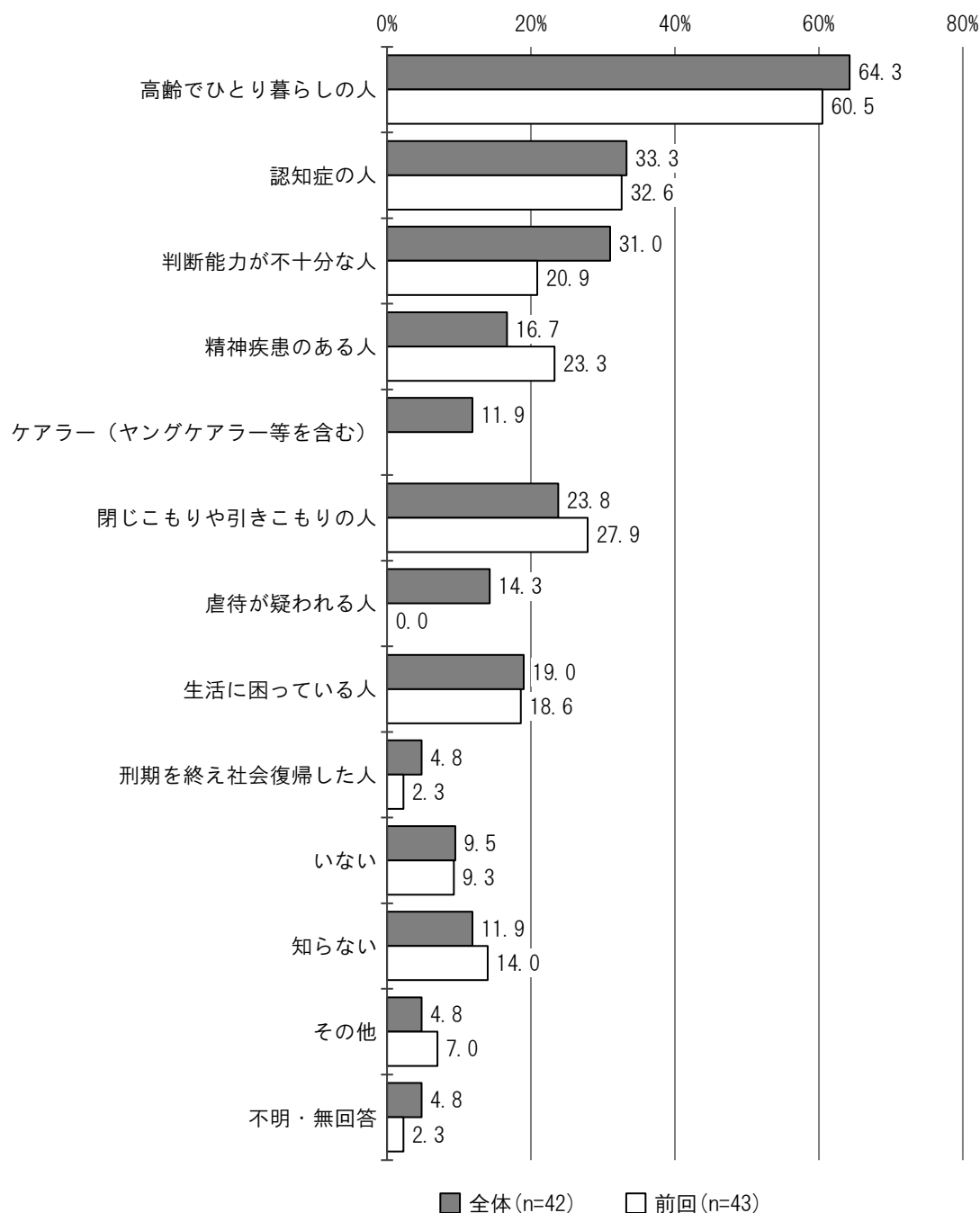
前回調査と比較すると、「地域の中で気軽に集まれる場が少ない」「困っている人に支援の手が届いていない」で増加傾向がみられます。また、「高齢者と若者の世代間交流が少ない」「地域の行事への参加者が少なく盛りあがりに欠けている」「災害時にどうしたらよいか不安を感じる」で減少傾向がみられます。



問10 貴団体が活動をする際、地域の中に次のような見守り等支援が必要な人や、気になる人（何らかの課題を抱えている人）がいますか。 (複数回答)

全体では「高齢でひとり暮らしの人」が64.3%と最も多く、次いで「認知症の人」が33.3%、「判断能力が不十分な人」が31.0%となっています。

前回調査と比較すると、「判断能力が不十分な人」「虐待が疑われる人」で増加傾向がみられます。また、「精神疾患のある人」で減少傾向がみられます。



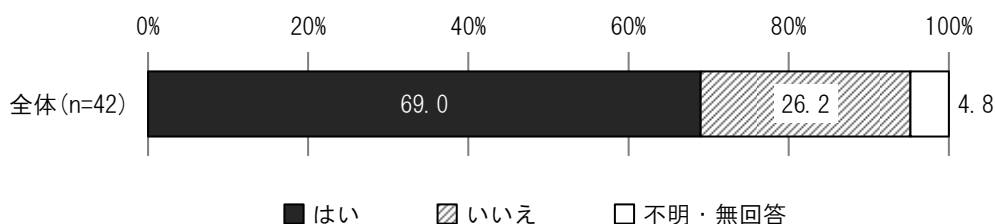
※ 今回調査のみの選択肢：「ケアラー (ヤングケアラー等を含む)」

団体区分別にみると、<民生委員・児童委員>では、「判断能力が不十分な人」「精神疾患のある人」「閉じこもりや引きこもりの人」が、<事業者・福祉施設>では、「認知症の人」「判断能力が不十分な人」「精神疾患のある人」「ケアラー（ヤングケアラー等を含む）」「閉じこもりや引きこもりの人」「虐待が疑われる人」「生活に困っている人」がほかに比べて高くなっています。

%		高齢でひとり暮らしの人	認知症の人	判断能力が不十分な人	精神疾患のある人	ケアラー（ヤングケアラー等を含む）	閉じこもりや引きこもりの人	虐待が疑われる人
団体区分別	全体 (n=42)	64.3	33.3	31.0	16.7	11.9	23.8	14.3
	ボランティア・市民活動団体 (n=19)	36.8	15.8	21.1	5.3	5.3	10.5	5.3
	民生委員・児童委員 (n=7)	85.7	42.9	42.9	28.6	14.3	42.9	14.3
	自治会 (n=6)	83.3	33.3	16.7	-	-	16.7	-
	事業者・福祉施設 (n=10)	90.0	60.0	50.0	40.0	30.0	40.0	40.0
%		生活に困っている人	刑を終え社会復帰した人	いない	知らない	その他	不明・無回答	
団体区分別	全体 (n=42)	19.0	4.8	9.5	11.9	4.8	4.8	
	ボランティア・市民活動団体 (n=19)	5.3	5.3	10.5	21.1	10.5	10.5	
	民生委員・児童委員 (n=7)	14.3	-	-	-	-	-	
	自治会 (n=6)	16.7	-	16.7	16.7	-	-	
	事業者・福祉施設 (n=10)	50.0	10.0	10.0	-	-	-	

問11 問10の「高齢でひとり暮らしの人」～「刑を終え社会復帰した人」の世帯を支援したことがありますか。（単数回答）

全体では「はい」が69.0%、「いいえ」が26.2%となっています。

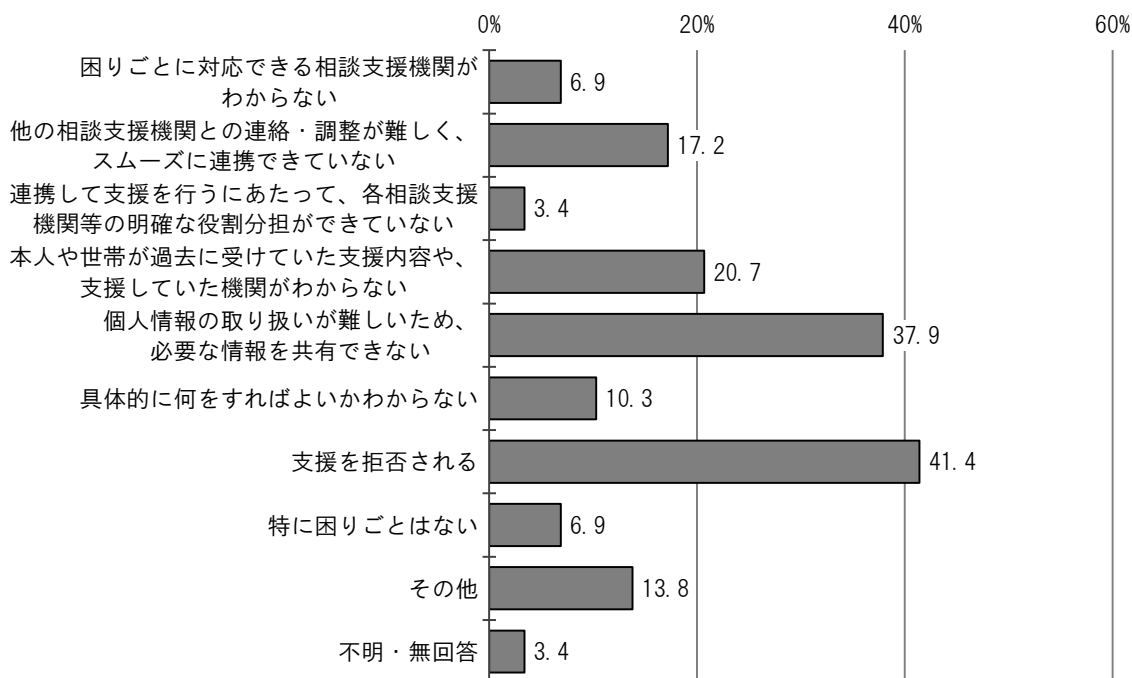


問 11 で「はい」を選択した方

問 12 支援している中でどのような困りごとがありましたか。 (複数回答)

全体では「支援を拒否される」が41.4%と最も多く、次いで「個人情報の取り扱いが難しいため、必要な情報を共有できない」が37.9%、「本人や世帯が過去に受けていた支援内容や、支援していた機関がわからない」が20.7%となっています。

全体 (n=29)



団体区分別にみると、<ボランティア・市民活動団体>では、「個人情報の取り扱いが難しいため、必要な情報を共有できない」が50.0%と最も多くなっています。

%	困りごとに対応できる相談支援機関がわからない	他の相談支援機関との連絡・調整が難しく、スムーズに連携できていない	連携して支援を行うにあたって、各相談支援機関等の明確な役割分担ができていない	本人や世帯が過去に受けていた支援内容や、支援していた機関がわからない	個人情報の取り扱いが難しいため、必要な情報を共有できない	具体的に何をすればよいかわからない	支援を拒否される
全体 (n=42)	6.9	17.2	3.4	20.7	37.9	10.3	41.4
団体区分別							
ボランティア・市民活動団体 (n=19)	12.5	37.5	12.5	25.0	50.0	12.5	-
民生委員・児童委員 (n=7)	14.3	14.3	-	14.3	28.6	14.3	42.9
自治会 (n=6)	-	20.0	-	-	20.0	20.0	60.0
事業者・福祉施設 (n=10)	-	-	-	33.3	44.4	-	66.7
特に困りごとはない							
全体 (n=42)	6.9	13.8	3.4				
団体区分別							
ボランティア・市民活動団体 (n=19)	-	25.0	-				
民生委員・児童委員 (n=7)	14.3	14.3	14.3				
自治会 (n=6)	-	20.0	-				
事業者・福祉施設 (n=10)	11.1	-	-				

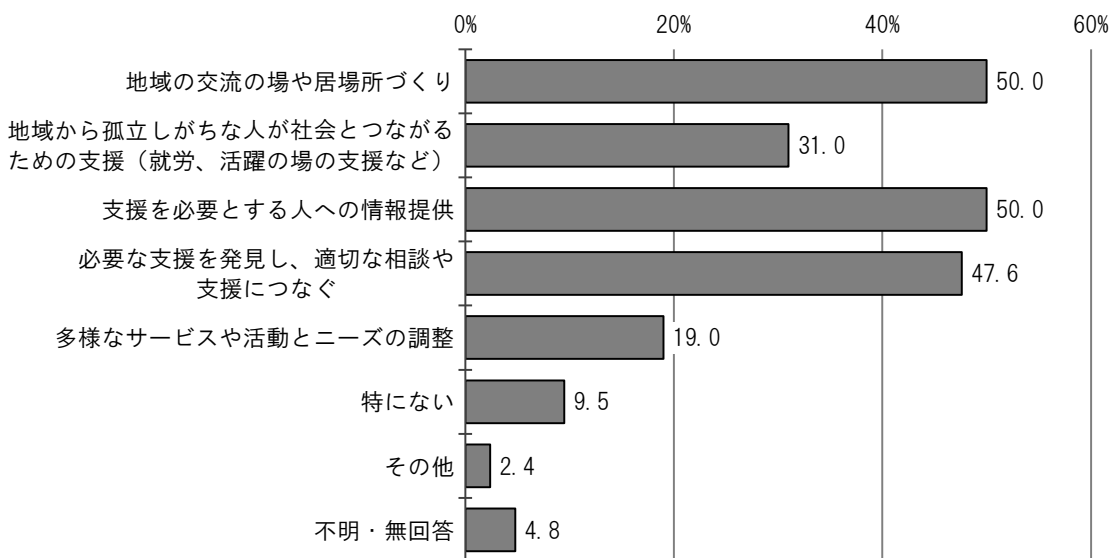
3 今後の活動について

問 13 地域共生社会の実現に向けて、貴団体で貢献したいと思うことはありますか。

(複数回答)

全体では「地域の交流の場や居場所づくり」「支援を必要とする人への情報提供」が50.0%と最も多く、次いで「必要な支援を発見し、適切な相談や支援につなぐ」が47.6%となっています。

全体 (n=42)



問 14 問 13 の回答について、貴団体ができることや、うまくいっていないことなどがあれば具体的に教えてください。(記述回答)

団体区分	団体にできること	うまくいっていないこと・課題など
ボランティア・市民活動団体	農業体験活動に参加したい人への案内や支援。	協力者の募集と組織化。
ボランティア・市民活動団体	独自の活動拠点を持っているので地域の分、団体にもっと活用してもらえない様にしていきたい。	左の情報発信が必要な人に届いていないので活用してもらえない。
ボランティア・市民活動団体	居場所づくり、子育て支援(ひな祭り、七夕祭り、クリスマス)。	発信しても届かない。
ボランティア・市民活動団体	障害を持った利用者と我職員が積極的にまた普通に街に出ていく事。挨拶をして交わりノーマライゼーションを進める事。	利用者の重度化と高齢化が進み、活動的な取り組みが困難になっている。
ボランティア・市民活動団体	組織としては具体的になっていない。	-
ボランティア・市民活動団体	個人の好みの体験ができる。好きな本が読める。	-
ボランティア・市民活動団体	食の支援、弁当や食材等。	交流や居場所づくり等に力を入れて行きたいが、まだ、思った様にできていない。
ボランティア・市民活動団体	オープンスペースの解放。	-
ボランティア・市民活動団体	1.地域サロンで交流の場を作っている。2.近所のネットワークを作って助け合いのしやすい環境づくりをやってみたい。3.地域を巻き込む。	1.一人の人を取り巻く人達(例えば要介護者だったら福祉関係者等)と意見・情報を共有出来る場があればいい。2.サロンに来たくても来れない問題や気持ちや物理的な問題。
ボランティア・市民活動団体	傾聴ボランティアの養成。	傾聴ボランティアをやりたいメンバーはいるが、男性ばかりでニーズが少ない。
ボランティア・市民活動団体	-	他の団体との交流が無い為、個人での対応に頼りがちである。
民生委員・児童委員	自治会単位で開くサロンで楽しい時間を作って喜んでもらう事。当団体は 20 以上の自治会と共同しているのではなく、ある自治会では子ども食堂の運営に協力している等、様々です。	-
民生委員・児童委員	サロンを立ち上げる。	本当に支援を必要とする人をどこまで発見出来るか分からない。

団体区分	団体にできること	うまくいっていないこと・課題など
民生委員・児童委員	3番と4番については、現在実施している事ですので、更に力を入れて活動出来ると思います。	居場所づくり。ここに行けば相談できる、人との繋がりが持てる等、安心が持てる。
民生委員・児童委員	-	児童委員としての活動の場が少ない。
民生委員・児童委員	支援を必要とする人・孤立している人へのサービス等の情報の提供をする事。	1.支援を必要とする人の発掘が課題。2.個人情報への壁が有り、前に進めない。3.歩いて行ける範囲に交流の場が少ない。
民生委員・児童委員	民生委員の個々人が自治会などと協力しながら活動する事の手本。協議会としては必要な知識の研修、問題点の相談を行うとともに地域全体での支援(委員相互協力等)を行っていきと考えている。	高齢者の活動交流の場として、ふっかつ体操教室の開設を進めているが、自治会によっては老人会、自治会などの連絡体制が取れない所があり、全体として取り組み機運が高まっていないと感じている。
民生委員・児童委員	独居高齢者宅の訪問。	-
自治会	-	支援する人が少ない。自治会長及び民生委員等だけでは？
自治会	見守り活動(独居老人)。	民生委員、自治会執行部、寿会メンバーで定期的に見守り。本来は家族の問題で相続人間で連絡する先を特定させるべき。地域より前に相続人が対応すべき。
自治会	通いの場(ふっかつ体操)。	指導者の人手不足。
事業者・福祉施設	定期訪問を継続し、緊急時に対応できる体制を整える。	地域包括支援センターとしてできる事とできない事があるため、行政機関担当者との連携を密にする必要があると考えます。
事業者・福祉施設	集いの場(料理教室、地域サロン)の提供。	リーダーになる方がいない。
事業者・福祉施設	成年後見制度、相続等に関する情報提供。	-
事業者・福祉施設	成年後見制度の相談・受任。	-
事業者・福祉施設	1.施設の空きスペースの提供。2.施設職員の派遣。3.制度の狭間にある案件の生活支援。	ケアラーや困窮世帯、子供への支援。
事業者・福祉施設	地域の人との話し合いの場を設ける。	話し合いに出てくれる人は、すでに活躍している人が多くて実働を求められない。
事業者・福祉施設	行事、イベントに地域の方を招待。	会場が手狭な事。
事業者・福祉施設	回答項目については実施中(高齢者が対象)。	-

問 15 就労支援や交流の場、居場所の創出は、社会的な孤立のリスクを抱える高齢者、障害者、生活困窮者、ひきこもりの人等が地域や社会とのつながりを持ち続けるための支援として重視されています。このような就労支援や交流の場、居場所の創出に向けて、感じている課題や貴団体にできることはありますか。 (記述回答)

団体区分	感じている課題	団体にできること
ボランティア・市民活動団体	他市(本市においても NPO が実施している例あり)における農福連携活動の実施・推進(農家や JA が多い)。	弱小 NPO として農福連携の必要性は感じるが、実施することは不可能かと思う。
ボランティア・市民活動団体	多世代の交流が出来ない世の中になっているので、それを解消できる方法を考えて実行していきたい気持ちがある。	居場所の提案とサポート。
ボランティア・市民活動団体	説明しても活動内容が理解されず、認知度も低い。	料理や手芸等、一緒にやりながら話す。
ボランティア・市民活動団体	会員間の交流の活発化が現在の活動であり、具体的に何か支援要請があれば検討してみたい。	会員間の交流の活発化が現在の活動であり、具体的に何か支援要請があれば検討してみたい。
ボランティア・市民活動団体	居場所の存在の案内があると良い。	体験環境の提供と支援、図書の提供、リスクリング(エクセルやプログラム言語)の支援。
ボランティア・市民活動団体	交流の場や居場所の創出は、子ども食堂にとっての大きな目標であると感じている。その為には開催場所に余裕が欲しい。	1.ボランティアの協力により、子供達に遊びの提供(ゲーム、塗り絵、折り紙、バルーンアート等)をしている。2.企業の支援により野菜の収穫や調理体験を行い、交流を深めている。
ボランティア・市民活動団体	社会的な孤立のリスクを抱える人々は、交流出来る居場所を作っても積極的に出て来ないように感じる。	孤立している人もそうでない人も居心地の良い場所づくりをしたい。
ボランティア・市民活動団体	来てくれる人は「地域サロン」楽しんでくれているが、まだそんな場所があると言う事も知らない人が多いと思う。合う合わないもあるので私達だけでなく、他の団体さんを含め「こんな場所もあるよ」と情報を渡す役割もしたい。	1.社会的に少しハンディのある人(障がい、高齢、病児の親等)と一緒にやさしい仕事が出来ないかと考えている。見守り、一緒に進める環境があれば出来るはず。サポート付き経済活動。2.地域の人に知ってもらい、出会いや繋がる事で孤立を防ぐ、問題を共有して考えていく、他の機関やチームとの連携等。3.一緒に地域サロンをやる、生活支援のサポーターになってもらう(有償か無償ボラ)。

団体区分	感じている課題	団体にできること
ボランティア・市民活動団体	1.傾聴ボランティアを派遣したいと思うが、独居の方のお宅へ伺うのはリスクを感じているメンバーが多い。2.市内の高齢者施設はどうかと考えているが感染症の影響もあって難しい。実績は1箇所のみ。	1.傾聴ボランティアの養成。2.オンラインミーティング等を用いての傾聴ボランティアを検討中。ミーティングシステムの利用料金をどうするか。3.施設等への傾聴ボランティアの派遣。
ボランティア・市民活動団体	-	地域共生社会の実現に協力出来る事はやりたい。
ボランティア・市民活動団体	協力雇用主はいても、雇用に結びついていない。	協力雇用主とハローワークの橋渡し役が出来ればと思う。
民生委員・児童委員	1.担当区域の人々が民生委員を信頼して、なんでも相談してもらえ関係構築が難しい。2.「訪問可」のお宅へは月1回の訪問を通して親しく話せるが、それ以外の方々へのPRに困難さを感じている。人間関係作りですね。	お医者さんなどで繰り返し動画で情報を見掛けますが、そのような場所での情報を見られる機会を役所や公民館などで流して地域情報を知らせてもらえると嬉しいです。今年は民生委員の改選の年です。
民生委員・児童委員	高齢者が気軽に集まれる場が少ない。	サロン等を立ち上げる。
民生委員・児童委員	居場所は地域のどこに、市のどこに行けばあります等の現在以上に広報誌等で広く知らせられたらと思います。	1.相談相手となる。2.様々な機関への繋ぎ役となる。
民生委員・児童委員	1.リーダー的人材の不足。2.交流するための場所の確保。3.自動車免許証自主返納に伴う公民館への移手段の見直し(くるりん、デマンド等)。	1.交流の場への人員を派遣する事。2.居場所づくりのための調査と居場所の運営。
民生委員・児童委員	高齢者の引きこもり傾向が強まっており、地域活動への参加をどのように呼びかけて行くのが課題。	どのように進めて行けるかの事例を集め、包括支援センターが指導・取り纏めを行うセンター活動を行って頂ければ、本協議会、自治会、関係団体が連携して活動出来る様になると考えている。要は、司令塔がしっかりする事が必要という事。
民生委員・児童委員	支援に当たる人材の高齢化並びに就労している人も有り、時間をとる事が大変です。	-
自治会	就労支援員及び役所との連携が遅い。	地域での連携の早さ！
自治会	自治会活動は本来、相互扶助が原則。過度にサービス提供は出来ないし、期待されるものではない。介護保険制度が開始されたから、介護は家族から行政へ移行したと思うがいかがか？	出来る限りの事は継続支援する所存ですが、自治会では能力以上の課題と判断する。
自治会	行事への参加者が集まり難い。	-

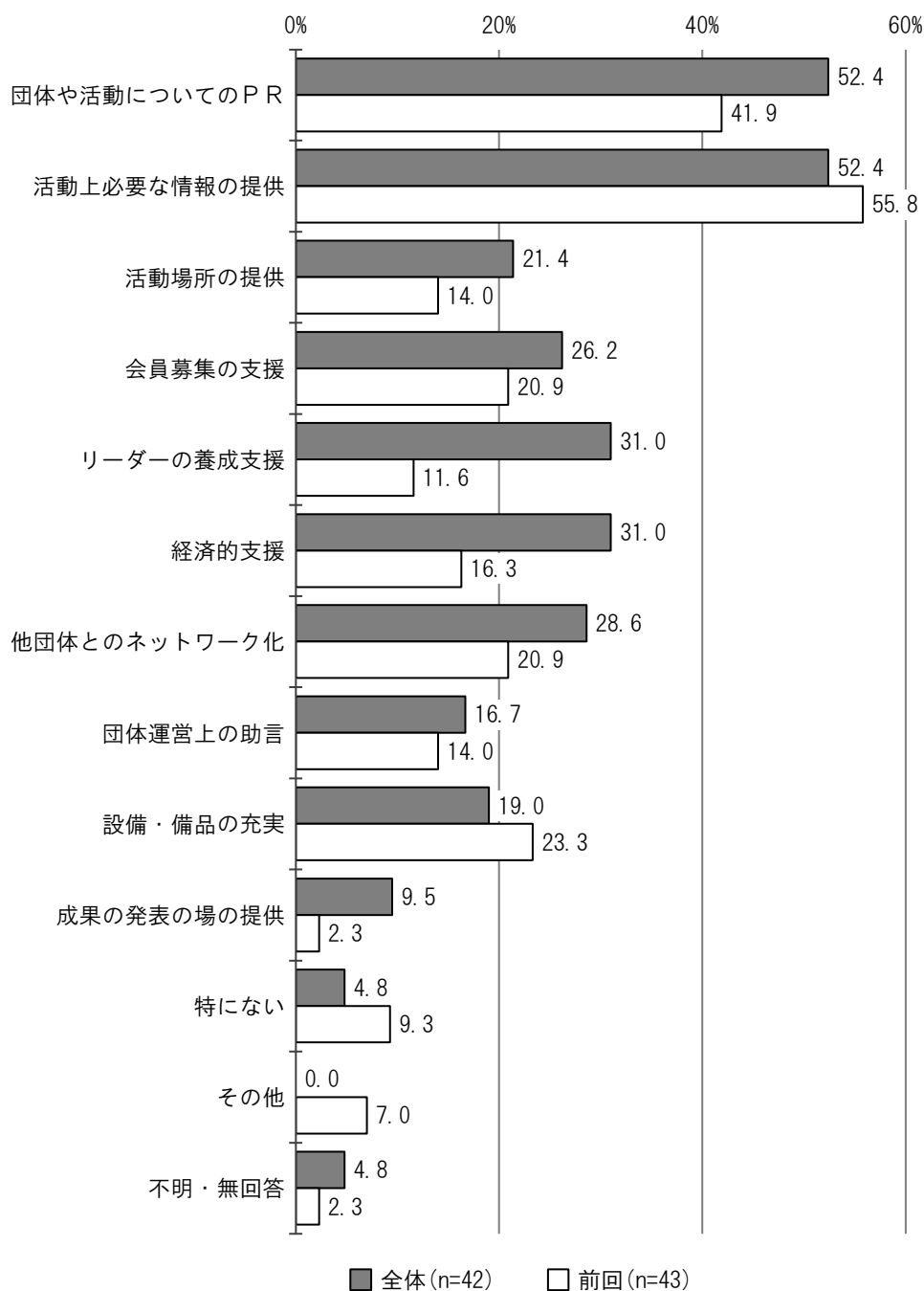
団体区分	感じている課題	団体にできること
自治会	-	常に情報発信と見守る事。強制はしない。
自治会	地域や社会との繋がりを持ち続ける為の支援として、通いの場を作りたい。	自治会館の有効利用・活用。
事業者・福祉施設	孤立している人達は支援への拒否が強い傾向にあります。信頼関係構築に時間を要する。	現在、地域包括支援センター業務が多岐に渡っているため、できる事は限られると思います。
事業者・福祉施設	リーダーが見つからない。	周知活動
事業者・福祉施設	核家族化に伴う高齢者世帯の増加。地域の人間関係の希薄化。	-
事業者・福祉施設	本人にとって最善の居場所なのか分からない。	人と制度、サービスを繋ぐこと。
事業者・福祉施設	社会福祉法人として役割を果たす上で、発見や気づきの弱さを感じています。外部機関からの依頼に応じるだけの動きになっている。	そもそもの役割として、様々な地域課題の解決に向けて動く為の体制があります。
事業者・福祉施設	高齢者が免許を返納すると、移動できなくなり活躍の場から遠ざかってしまう。交流や居場所の話が出て、そこまでどうやって行くのかという話に立ち戻ってしまう。総合事業 BD の早急な整備が望まれる。	地域の声を集めて地域内の支え合いの仕組みを住民と共に考え、行政に上げる。
事業者・福祉施設	子育てに悩む親がいる。	一時保育や子育て相談。
事業者・福祉施設	特に高齢者の交流の場、居場所への移動手段の問題がある。	既存の移動手段(くるりん等)の活用についての周知。

問 16 貴団体が活動をしていく上で市や社協に望むことはどのようなことですか。

(複数回答)

全体では「団体や活動についてのPR」「活動上必要な情報の提供」が52.4%と最も多く、次いで「リーダーの養成支援」「経済的支援」が31.0%となっています。

前回調査と比較すると、「団体や活動についてのPR」「活動場所の提供」「会員募集の支援」「リーダーの養成支援」「経済的支援」「他団体とのネットワーク化」「成果の発表の場の提供」で増加傾向がみられます。



問 17 今後、貴団体が市や社協との協働でどのようなことに取り組めると思いますか。

(記述回答)

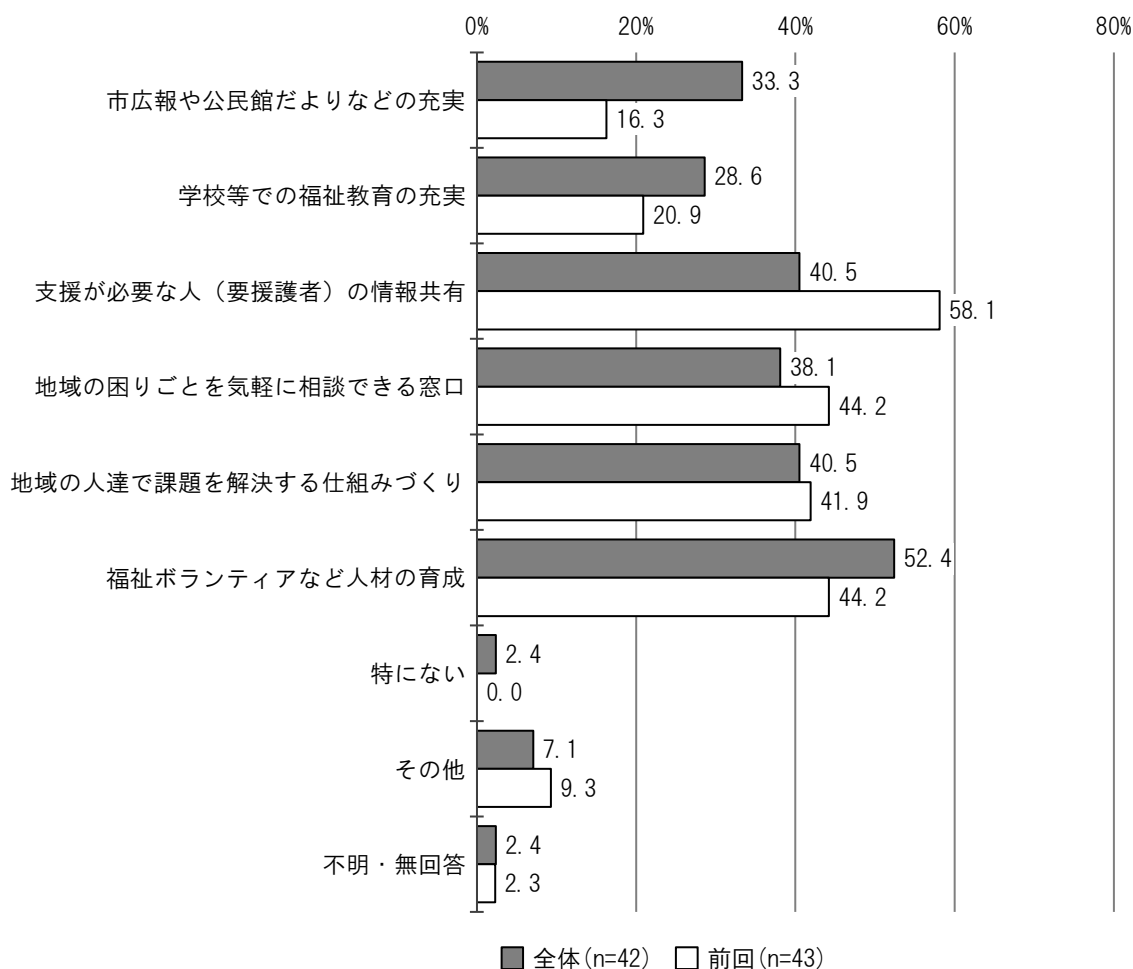
団体区分	回答内容
ボランティア・市民活動団体	コロナ以前のように朗読ポラを必要としている市内の施設への訪問ができればと…。
ボランティア・市民活動団体	社協との連携による農業体験活動の実施(昨年度の例等)。
ボランティア・市民活動団体	「フードドライブ」を共催し、余っている物を困っている人に提供し、フードロス等の廃棄物を減らして地球環境にも優しい取り組みを市内全域に広げる。
ボランティア・市民活動団体	社協とのラインを通じて、子供との語らいを支援。
ボランティア・市民活動団体	現在までは(高齢者が主体となる)会員間の交流を軸とした活動で、地域への貢献は派生的に起こる場合に限られている。具体的には地域のニーズを具体的に知り、対応を検討したい。
ボランティア・市民活動団体	科学体験についての協力、情報発信。
ボランティア・市民活動団体	公民館を利用しての子ども食堂の開催ですが、利便性が向上する事により本来の居場所の創出に繋がると思います。その為には、子ども食堂を公務に準じた扱いにし、使用料を考慮して頂きたい。
ボランティア・市民活動団体	地域課題の共有、暮らしのサポートの実施、サポーターの募集、告知。遠慮なく頼り合える街づくり。今年は法人化し、本格的に活動を広めて行たいので、協働できる所があれば是非。経済活動(例えば、空き農地で作物づくり→買取り→店などへ循環や)、雇用の創出等。
ボランティア・市民活動団体	傾聴ボランティアの養成、フォローアップ講座。傾聴ボランティアの派遣等。
ボランティア・市民活動団体	対象者の息の長い支援に繋がり、再犯率の低下が期待出来る。
民生委員・児童委員	問 16 に書く内容かも知れませんが、図書館ではわざわざ話し合えないけど若い人達が集える場所を作って欲しい。
民生委員・児童委員	みんなの居場所作り。
民生委員・児童委員	ヤングケアラーで困っている児童に対して、話し相手や生活上の補助に繋がればと考えます。
民生委員・児童委員	1.支援を必要としている人の発掘と見守り。2.高齢者の通いの場の立ち上げと運営(既存の通いの場の充実を含む)。
民生委員・児童委員	通いの場の支援と拡充があれば、当面の活動(高齢者の交流の場)はある程度支えられるものと思うが、将来的には雑談したり飲食したり相談したりコミュニティカフェのようなものが立ち上げられればと思う。
自治会	人と人との助け合い。市及び社協と地域役員との連携。

団体区分	回答内容
自治会	地域見守り活動を中心としては、問題性の特定、そして市や行政サイドへ通知する。行政サイドへの支援を心がける事としたい。
自治会	通いの場づくり。
事業者・福祉施設	社協が行う業務と地域包括支援センター業務の地域支援事業がどちらが主で行うかはっきりさせる事で効率を図り、自助共助が活発化できると考えます。
事業者・福祉施設	地域課題解決に向けた活動。包括として解決が難しい事は協働していきたい。
事業者・福祉施設	専門職としての情報提供。
事業者・福祉施設	市民後見人講座の講師や市民後見人の活用に関する協議。
事業者・福祉施設	フードパントリー・お困り事相談会・専門的な講座。
事業者・福祉施設	民間企業や市内の任意団体と連携した生活支援体制整備。スーパーやタクシー、会社、ドラッグストア等。
事業者・福祉施設	ネットワーク等への参加。
事業者・福祉施設	ゴミ捨て、買い物、ちょっとした困り事を地域内で支援・ボランティアをする仕組みづくり（地域版有償家事援助サービスみたいなもの）。

問 18 地域における助け合いを活発化するため、市や社協の取り組みとしてどのようなことが重要だと考えますか。 (複数回答)

全体では「福祉ボランティアなど人材の育成」が52.4%と最も多く、次いで「支援が必要な人(要援護者)の情報共有」「地域の人達で課題を解決する仕組みづくり」が40.5%となっています。

前回調査と比較すると、「市広報や公民館だよりなどの充実」「学校等での福祉教育の充実」「福祉ボランティアなど人材の育成」で増加傾向がみられます。また、「支援が必要な人(要援護者)の情報共有」「地域の困りごとを気軽に相談できる窓口」で減少傾向がみられます。



問 19 地域福祉推進についてご意見・ご要望等、ご自由にお書きください。（記述回答）

団体区分	回答内容
ボランティア・市民活動団体	お手伝いできる事はやりたいと思います。昔は私の所属した団体は一皿運動があり、一人暮らしの見守りをやっていたが今はコンビニで何でも売っている時代。昔懐かしいです。
ボランティア・市民活動団体	市民大学の卒業生の有志で構成される団体なので、自らが生きがいを求める個人の集まりとなっている。この集まりで地域の助けあい等へ組織的に参加するまでに至っていない。まだ各個人ベースでの支援となっている。
ボランティア・市民活動団体	少子高齢化が増々してきている今、「子供を社会で育てていく」との視点を本計画に盛り込む必要を感じる。子供達の健全育成について、経済的支援も大切ですが、精神的支援をきめ細かくできる様なものであって欲しい。
ボランティア・市民活動団体	広域を考えても仕方が無いのでまずは自分の住む自治会で支援を必要とする状況にある人を知りたい。私達の団体にできる事は何かを考えるきっかけになればと思う。
ボランティア・市民活動団体	結局は一人の人として向き合い、一人ひとり顔の見える関係を時間を重ねて、信頼を得て行く事だと思う。「何か困り事」があった時に(平時においても)声を掛けられる。その声を拾える位置に私達はいたいと思って活動しています。
ボランティア・市民活動団体	各地域の活動の活性化(運動、芸能、祭り)の奨励。老若男女、向こう三軒の協力の誠心。
ボランティア・市民活動団体	手を差し伸べて欲しい人が気兼ねなく相談出来る様な雰囲気にして、誰一人取り残す事の無い様に。
民生委員・児童委員	免許返上の高齢者への自動運転の普及、動ける人々が街に溢れる街に。
民生委員・児童委員	自治会を抜けた高齢者の人達に、いろいろな情報が届いているのかわからないので、しっかりと届けて欲しいです。
民生委員・児童委員	過去、地域の民生委員さんに助けてもらい、現在の自分がいます。あの時がなければ現在の私はないと云う地域の方の話を聞きますと、相談場所を市民が知るよう広報して頂けたらと思います。手を差し伸べられるのかと考えます。
民生委員・児童委員	市、社協、民児協が一体となった取り組みが必要であり、市または社協がリーダーとして進める事が必要。
民生委員・児童委員	個人情報という事で、最近、情報地図を市から提供して頂けなくなっている。我々が地域活動をする基本情報であり、提供方法を検討して頂きたい。
自治会	1.人と人との助け合いの精神。2.相手の身になって接する心のやさしさ。
自治会	みんなが明るく楽しく仲良く生活する事が難しくなっている現代。少子高齢化が進み高齢者一人生活者も多くなってきているが、常に近くの人が助け合える環境(人的、物的)を考えて行かなければならないと思う。自治会への関心が薄れて退会する人が多くなり、歯止めのためにも地域福祉推進は不可欠な事である。
自治会	自治会脱会する人、入会していない人の増加で、自治会活動がやけに難しくなってきた。
事業者・福祉施設	ボランティア団体に少しでも金銭等(ネギーやポイント制)を支払う事で協力できる人が増加すると考えます。

団体区分	回答内容
事業者・福祉施設	地域連携ネットワークづくりを始め、国や地域企業、事務所等による包括的な対策が必要になっていると感じます。
事業者・福祉施設	比較的、新しい住宅地等で顔の見える関係作りに力を入れて欲しい。教育、防犯、介護等全てに良い影響があると思う。

「第4次深谷市地域福祉計画・地域福祉活動計画」
策定のためのアンケート調査結果報告書

発行

- 深谷市役所福祉政策課
TEL：048-568-5041（直通）
- 深谷市社会福祉協議会
TEL：048-573-6563

発行年月：令和7年3月